

## 第6章 公共施設に関する

### アンケート調査及び分析結果





# 第6章 公共施設に関するアンケート調査及び分析結果

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の目的

公共施設再配置計画の推進に当たっては、公共施設を利用する市民だけではなく、あまり利用しない市民も含めて、広く公共施設のあり方に対する意向を把握する必要があります。

そのためには、無作為抽出によるアンケート調査が有効な手段となることから、公共施設白書の作成・改訂に合わせて、平成21年度(2009年度)及び平成24年度(2012年度)以降の隔年で実施してきた「公共施設に関するアンケート調査」を実施しました。

平成28年度(2016年度)調査では、公共施設の利用者負担の適正化を進める中で、「公共施設の使用料に対する意識」を把握するための質問を設けたことから、インターネットを利用した調査会社によるアンケート(以下「Web調査」といいます。)に加えて、無作為抽出による郵送アンケートも合わせて実施しましたが、Web調査の結果と郵送調査の結果の間に大きな差が見られなかったため、前回調査からWeb調査のみに戻して実施しています。

また、高齢者のネット人口が増加していることを勘案し、高齢者の意見を確実に把握するため、平成28年度(2016年度)調査までは「50代以上」としていた最高年齢の区分について、前回調査から「50代」と「60代以上」に細分化して実施しました。

### 2 調査方法等

#### (1) 調査方法 (Web調査)

【実施方法】 インターネット上の会員用フォームへの入力による回収

【調査期間】 令和2年(2020年)6月11日～21日

【対象者】 調査会社のモニター会員のうち、市内に居住する20歳以上の男女

#### (2) 調査における希望サンプル数と回収数

今回の調査においても、回答者の年代の極端な偏りを防ぐために、実人口の年齢構成を基本として、調査受託会社からのアドバイスに基づき年代別、性別ごとの希望サンプル数を定めています。

希望サンプル数及び回収数の内訳は次表のとおりとなっておりますが、以前からの傾向として20代男性及び60代以上の区分について回収数が少ない傾向があります。

【希望サンプル数と回収数(回収数/希望サンプル数)】

区分	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	14/30	26/25	37/35	31/30	63/80	171/200
女性	31/30	26/25	37/35	31/30	27/80	152/200
合計	45/60	52/50	74/70	62/60	90/160	323/400

### 3 調査結果の概要

「公共施設の更新（老朽化）」に関する認知度は、前回調査では減少が見られたものの、今回調査では前々回を上回っており、一定の認知度は確保されていることが伺えます。一方で、公共施設再配置計画に関する認知度については、前回調査から減少に転じており、初めて回答した人の割合が増加したことも要因の一つと考えられますが、認知度を上げるための継続的な取り組みが必要であることも伺えます。

今回の調査では、これまでの調査から継続している質問については、内容は変えず質問文を簡潔にすることで、回答する人に事前情報や先入観を与えることのないよう配慮しました。また、平成 24 年度（2012 年度）のアンケート調査から継続している質問のほか、前回調査で新設した 4 つの質問のうち、市民の関心が高いと思われる次の 3 つについて引き続き調査を実施しました。

#### ◆ 問 6 「公民連携によるサービスの充実」

これまで本市が公共施設再配置計画のシンボル事業のひとつに位置付け、公有財産の活用に取り組んできたことを述べたうえで、今後も公民連携を進めた場合のメリットとデメリットを質問に明記しましたが、「公民連携の推進」に賛成とした回答割合は前回から 7.3 ポイント下回り、過半数を割り込む 48.9%となりました。

#### ◆ 問 7 「使用料見直しについて」

平成 29 年（2017 年）10 月に実施した公共施設の使用料見直しを受けて、今後の方向性に関する意識について調査しました。見直しの趣旨と現状を踏まえて、今後も実態に応じた見直しを行うべきかどうかを質問したところ、「実態に応じた見直しを行うべき」とした考え方に賛成とした回答割合は、前回調査を 10.1 ポイントも上回る 65.1%となりました。

#### ◆ 問 10 「廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能」

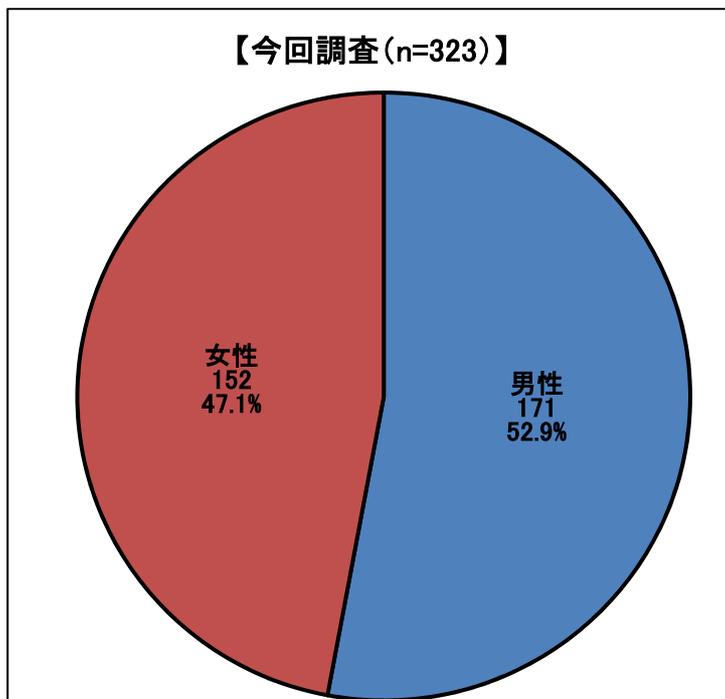
公共施設再配置計画第 1 期基本計画では「義務教育、子育て支援、行政事務スペース」はその機能を最優先することとしています。これに次ぐ「優先的に維持していく機能」は第 2 期基本計画において順位付けを行うことから、市民ニーズを把握するために、公共施設の機能別に質問しました。廃止又は縮小しても良いとされた割合が最も高かった機能は前回調査と同じ「住宅に関する機能」となりました。

## 第2節 回答者の属性及び分析結果

### 属性1 性別

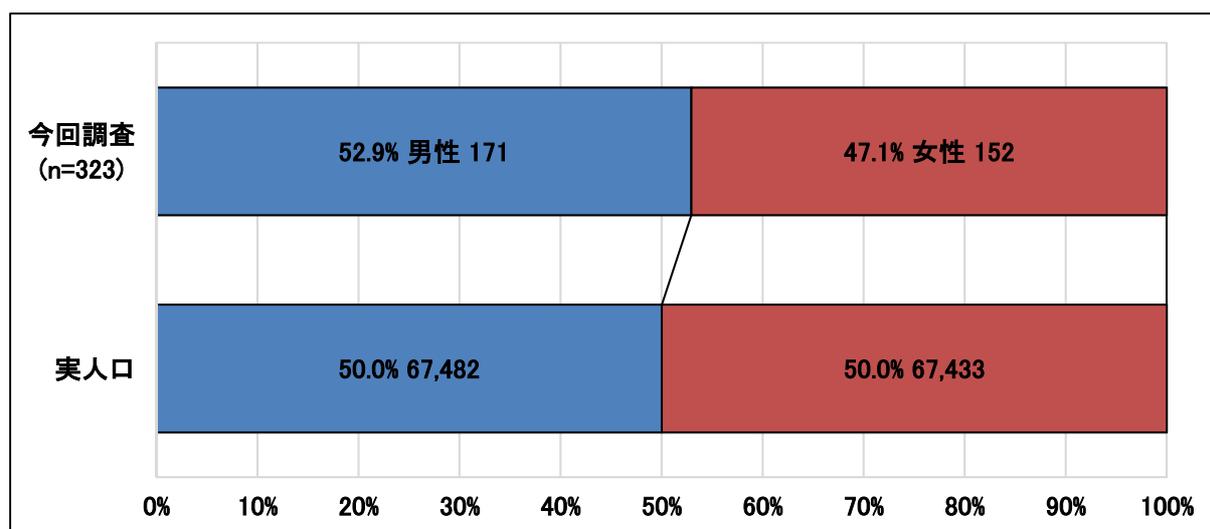
#### 1 調査結果

今回の調査では男性の割合が52.9%と女性よりも高くなっています。



#### 2 実人口割合との比較

実人口<sup>1</sup>の割合と比較すると、今回の調査では男性の割合が実人口の割合よりも2.9%高くなっています。

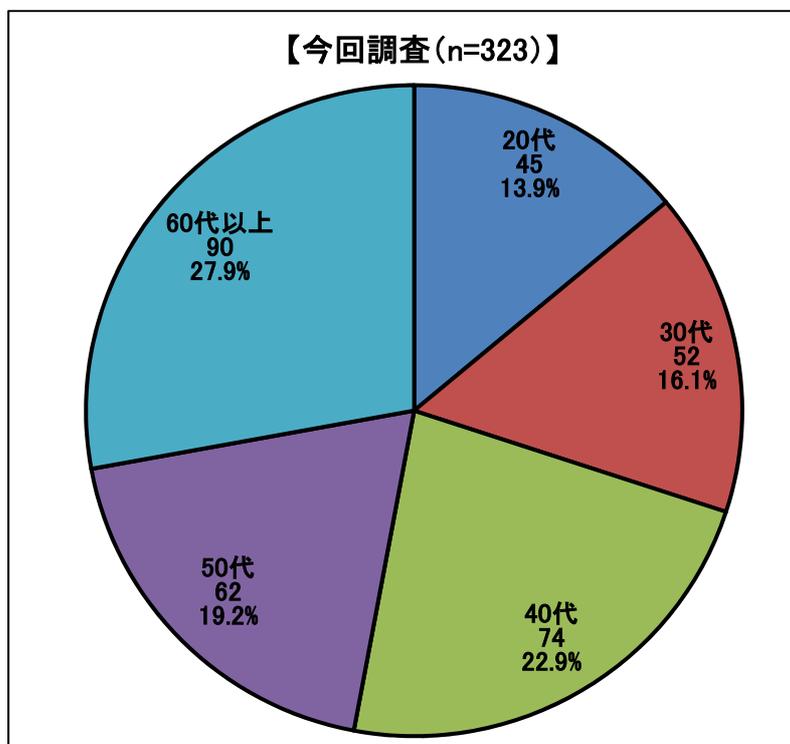


<sup>1</sup> 令和2年(2020年)4月末日現在の住民基本台帳による20歳以上の人口

## 属性2 年代

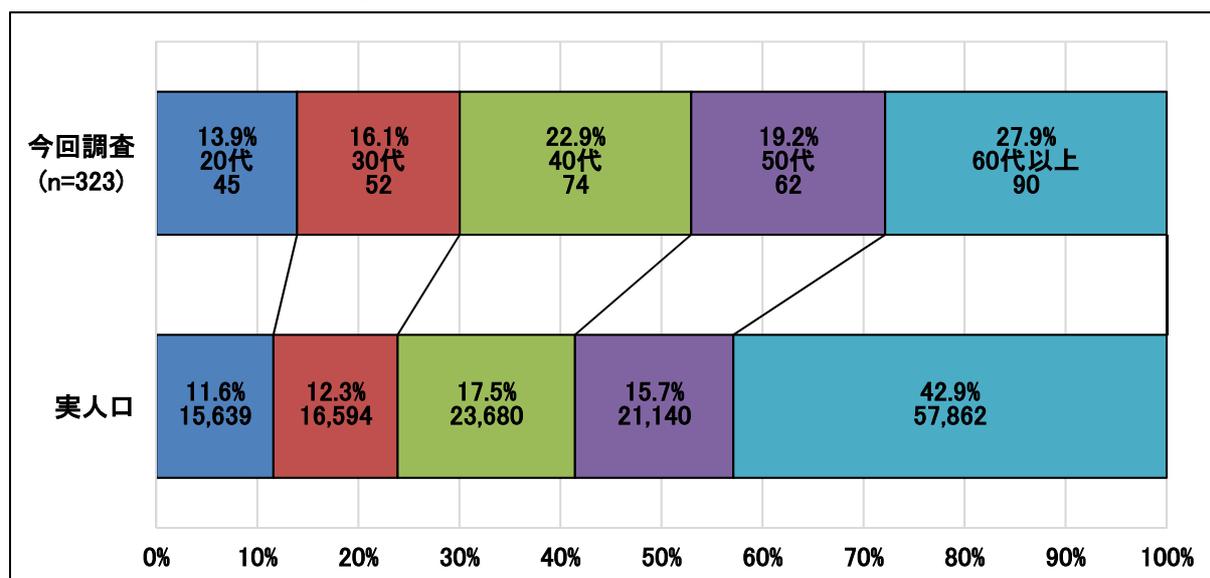
### 1 調査結果

60代以上が27.9%を占め最も高い割合となり、40代、50代が約20%前後で続きます。20代の割合は13.9%と最も低くなっています。



### 2 実人口割合との比較

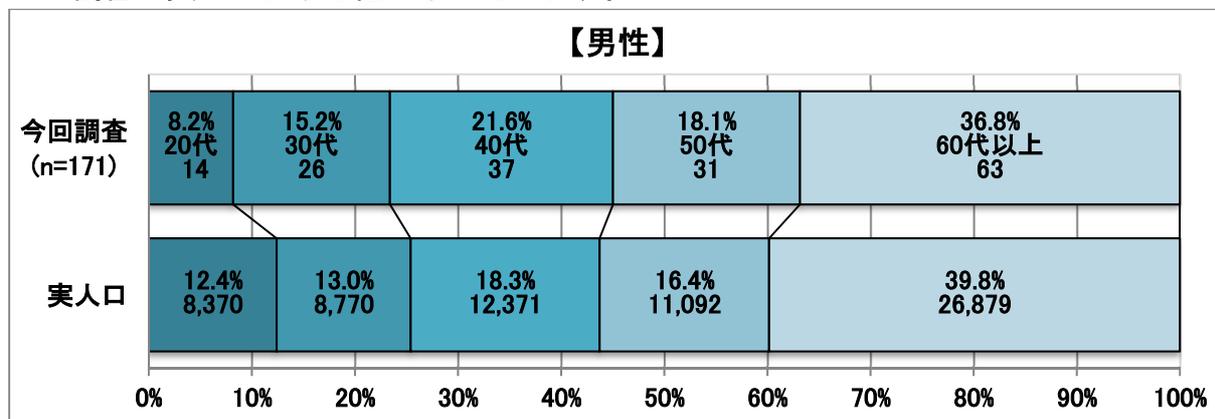
今回の調査では、60代以上の割合が実人口の割合よりも少なく、それ以外の年代の割合が多くなっています。



### 3 性別による比較

#### (1) 男性

60代以上の割合が36.8%で最も多くを占め、21.6%の40代、18.1%の50代と続きます。最も割合が高い60代以上は実人口の割合より低くなっている一方、30代、40代及び50代の割合は実人口の割合よりも高くなっています。また、20代の割合は実人口よりも低くなっています。



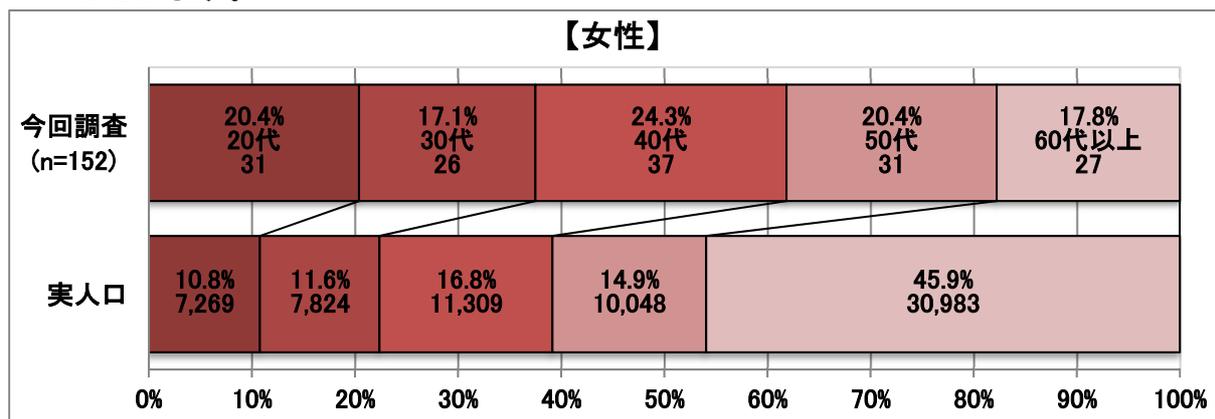
#### (2) 女性

40代の割合が24.3%で最も多くを占め、30代の割合が17.1%と最も少なくなっています。

20代から50代まで4つの年代全てがいずれも実人口の割合を上回り、女性全体の8割以上を占めています。

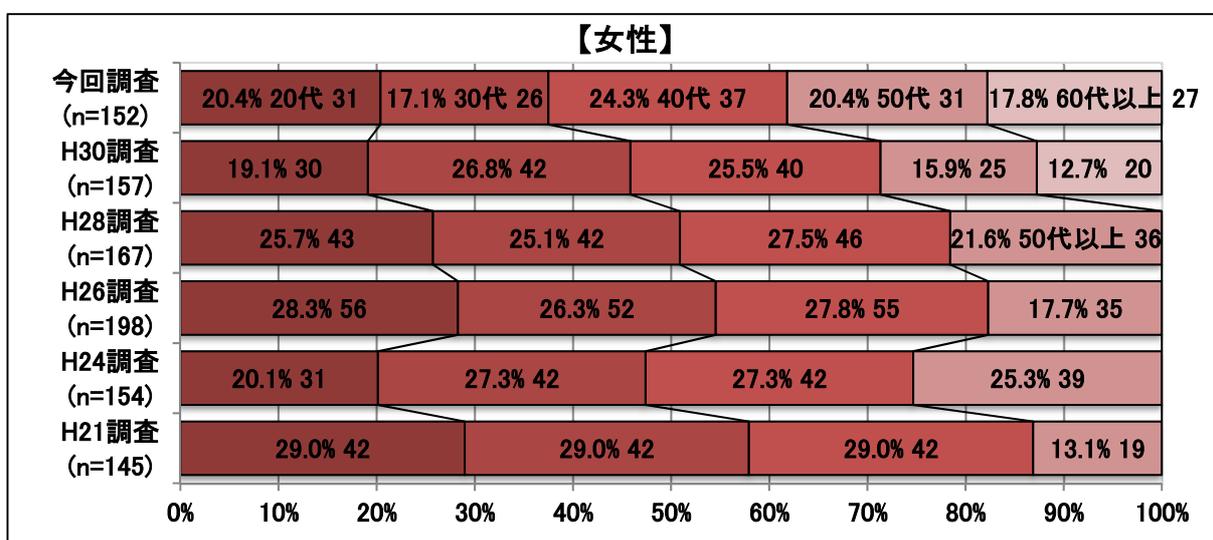
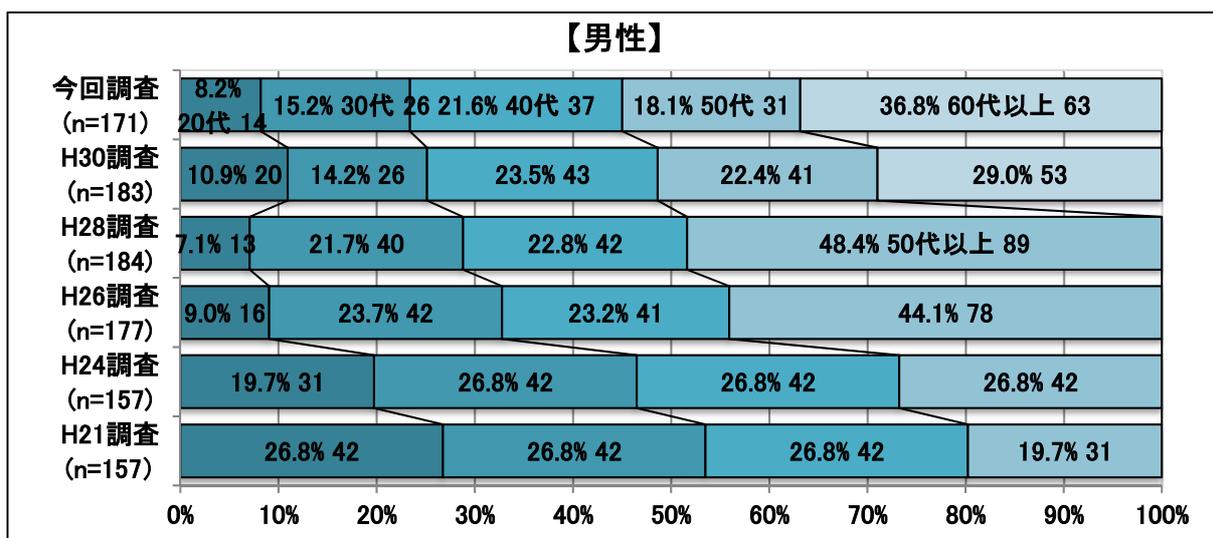
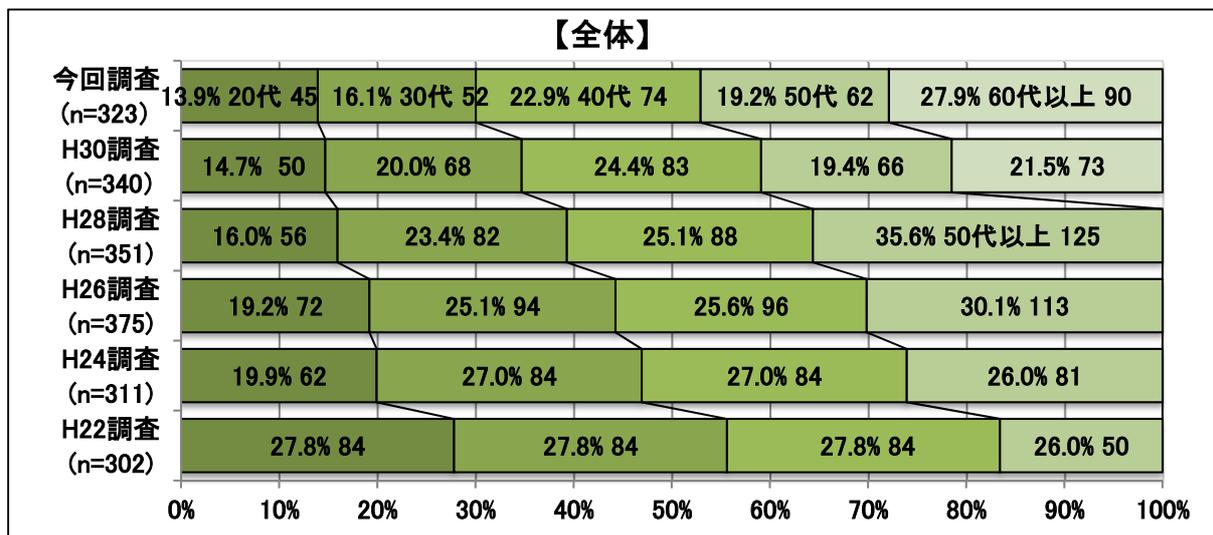
一方、60代以上の割合は実人口の割合を28.ポイント%も下回る結果となりました。

男性とは異なり、若い年代の占める割合が高く、高齢者の占める割合が低くなっています。



#### 4 過去の調査との比較(Web 調査のみ)

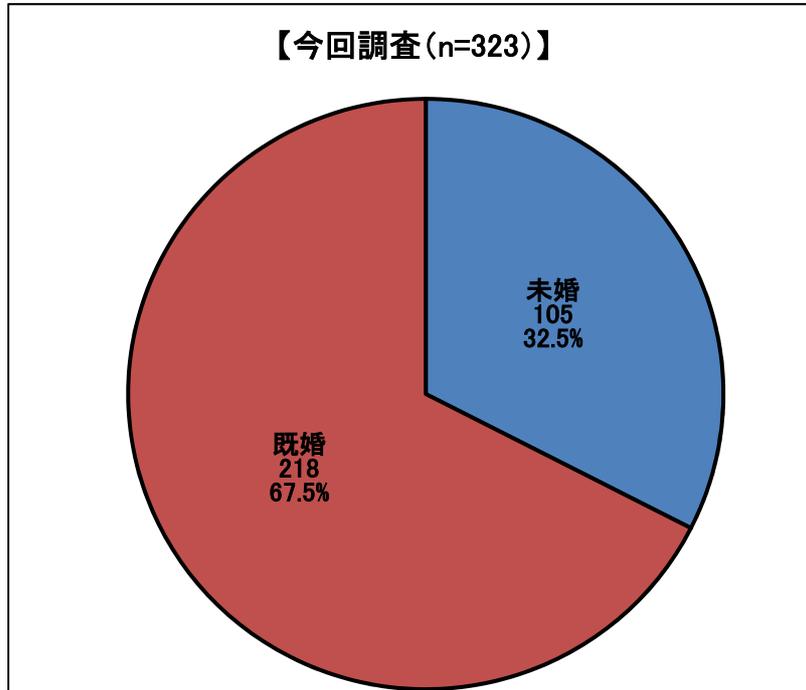
全体及び男性では、50代以上の割合が増え続け、それ以外の年代の割合は、減り続けています。女性には、一定の傾向は認められませんが、直近4回の調査結果からは、50代以上の割合が増加し、40代以下の割合が減少する傾向が見られます。



### 属性3 未既婚

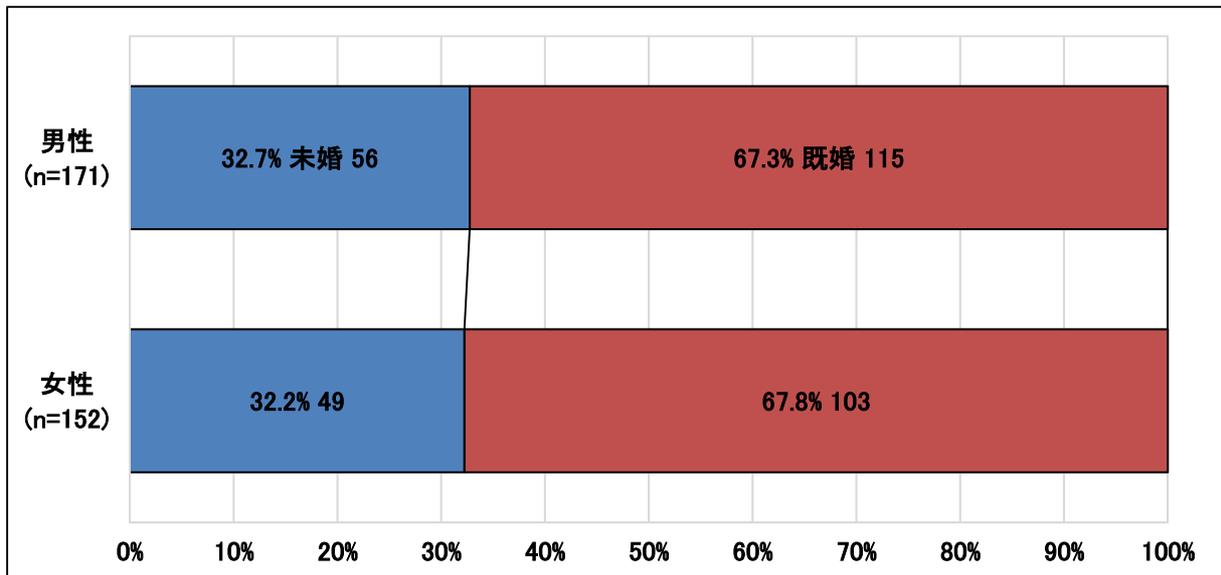
#### 1 調査結果

既婚者の割合が未婚者の割合よりも多くなっています。



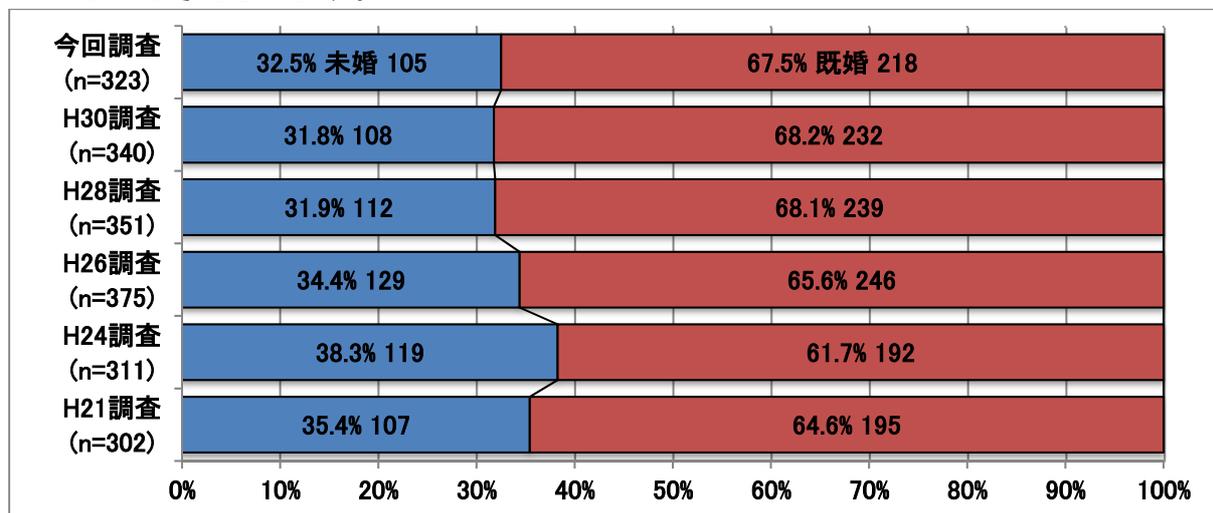
#### 2 性別による比較

既婚者の割合は、男女共に全体の割合と同程度になりました。



### 3 過去の調査との比較 (Web 調査のみ)

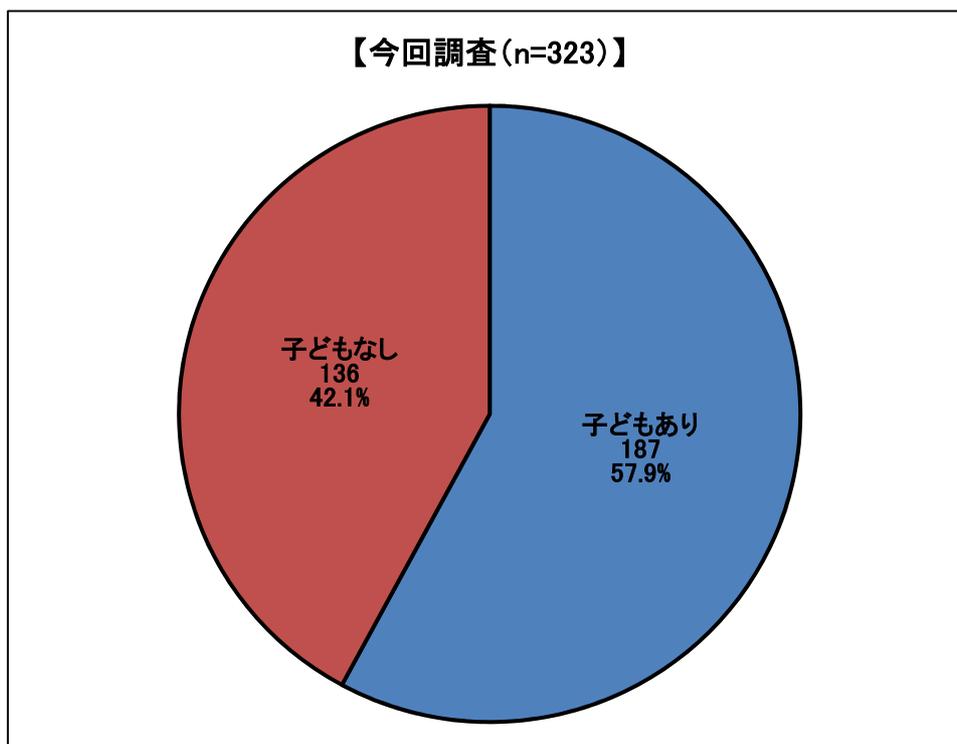
今回の調査では、前回の調査と比較して、未婚の割合が0.7ポイント増加していますが、未婚者が占める割合は、平成24年度(2012年度)の調査から減少傾向にあります。この傾向は、Web調査受託会社に登録している会員の特性に起因するものと思われるのですが、年齢層が高い世代のネット人口の増加により、未婚者の割合が下げ止まったとも考えられます。



## 属性4 子どもの有無

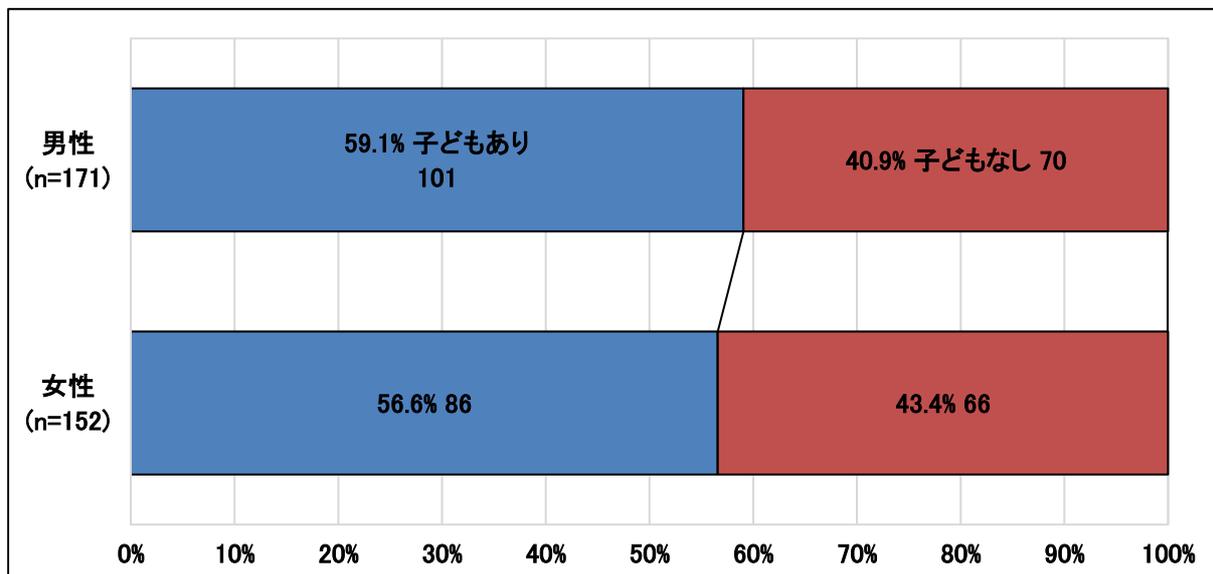
### 1 調査結果

「子どもあり」と答え人の割合は、57.9%となりました。なお、ここでいう「子ども」とは、青少年だけを指すものではなく、成人している場合も含まれています。



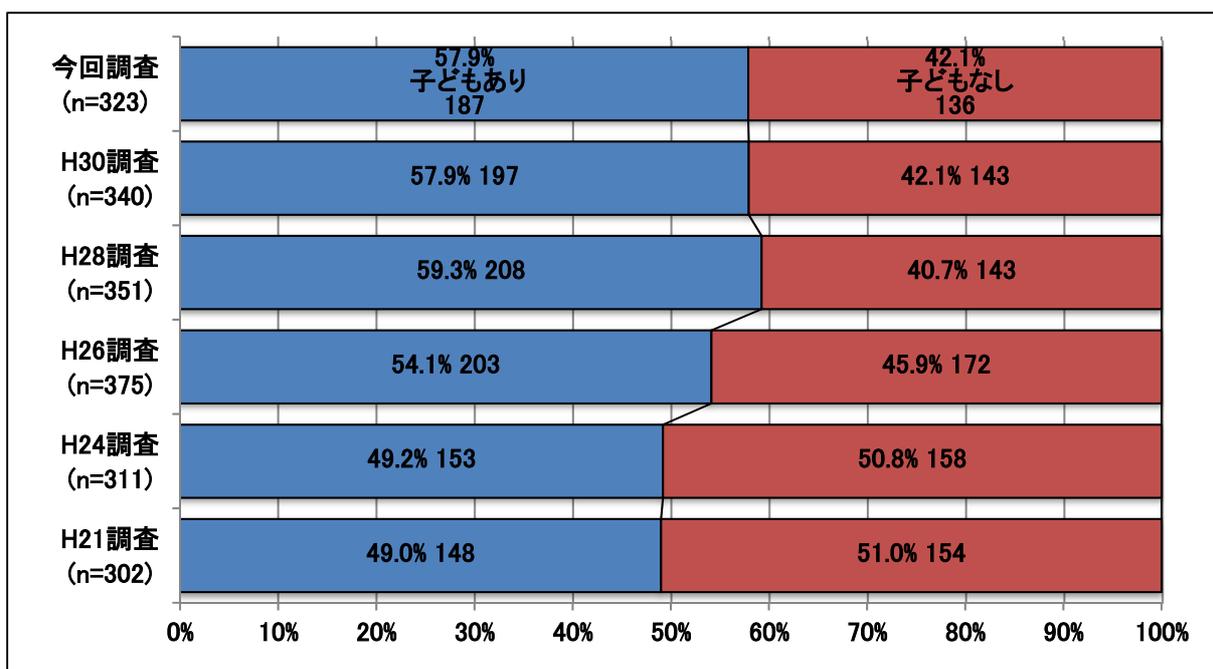
## 2 性別による比較

男性、女性ともに「子どもあり」と答えた人の割合の方が多くなっています。また、全体と比較すると、「子どもあり」と答えた人の割合は、女性よりも男性の方が高くなっています。これは、回答者の年代構成が男性のほうが高かったことに起因しています。



## 3 過去の調査との比較 (Web 調査)

「子どもあり」と答えた人の割合は、前々回の調査までは増加していましたが、平成30年度（2018年度）で減少に転じ、今回調査では横ばいになっています。少子化の影響が現れているとも考えられますが、平成26年度（2014年度）の調査よりも高い割合です。



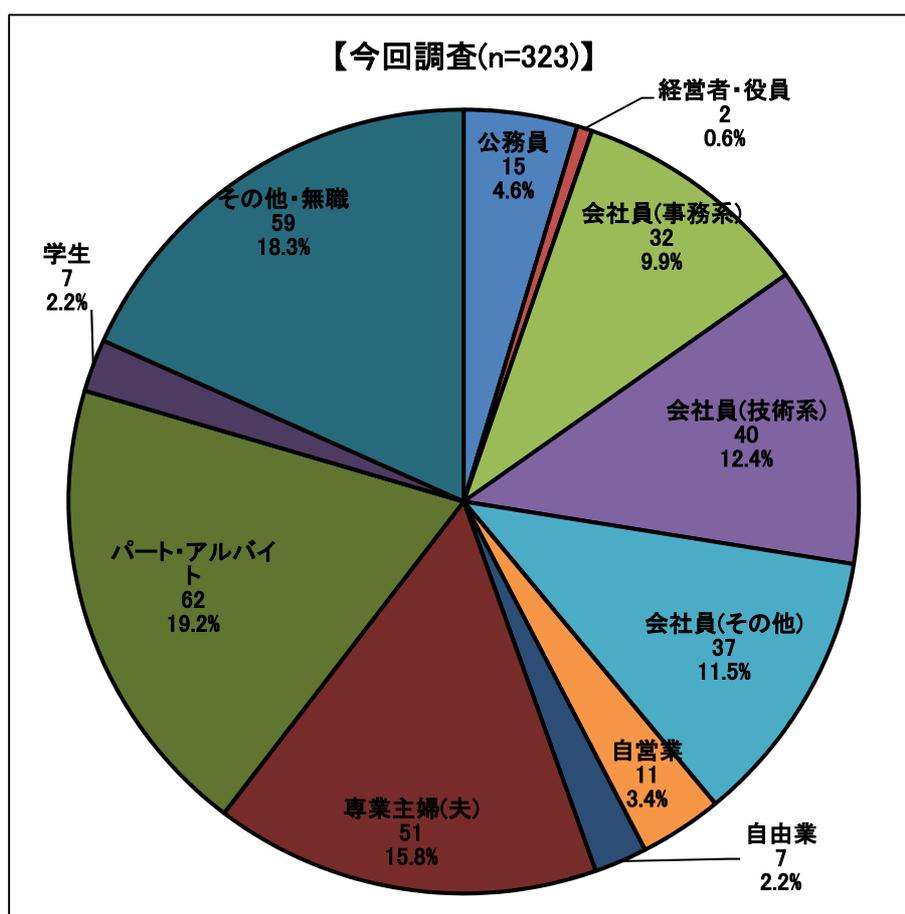
## 属性5 職業

### 1 調査結果

No.1 の公務員からNo.7 の自由業までを有職者とする、有職者の割合は 44.6% となっています。

ちなみに、平成 27 年度(2015 年度)国勢調査の結果では、本市の 15 歳以上の人口に占める就業者の割合は、49.7% となっています。

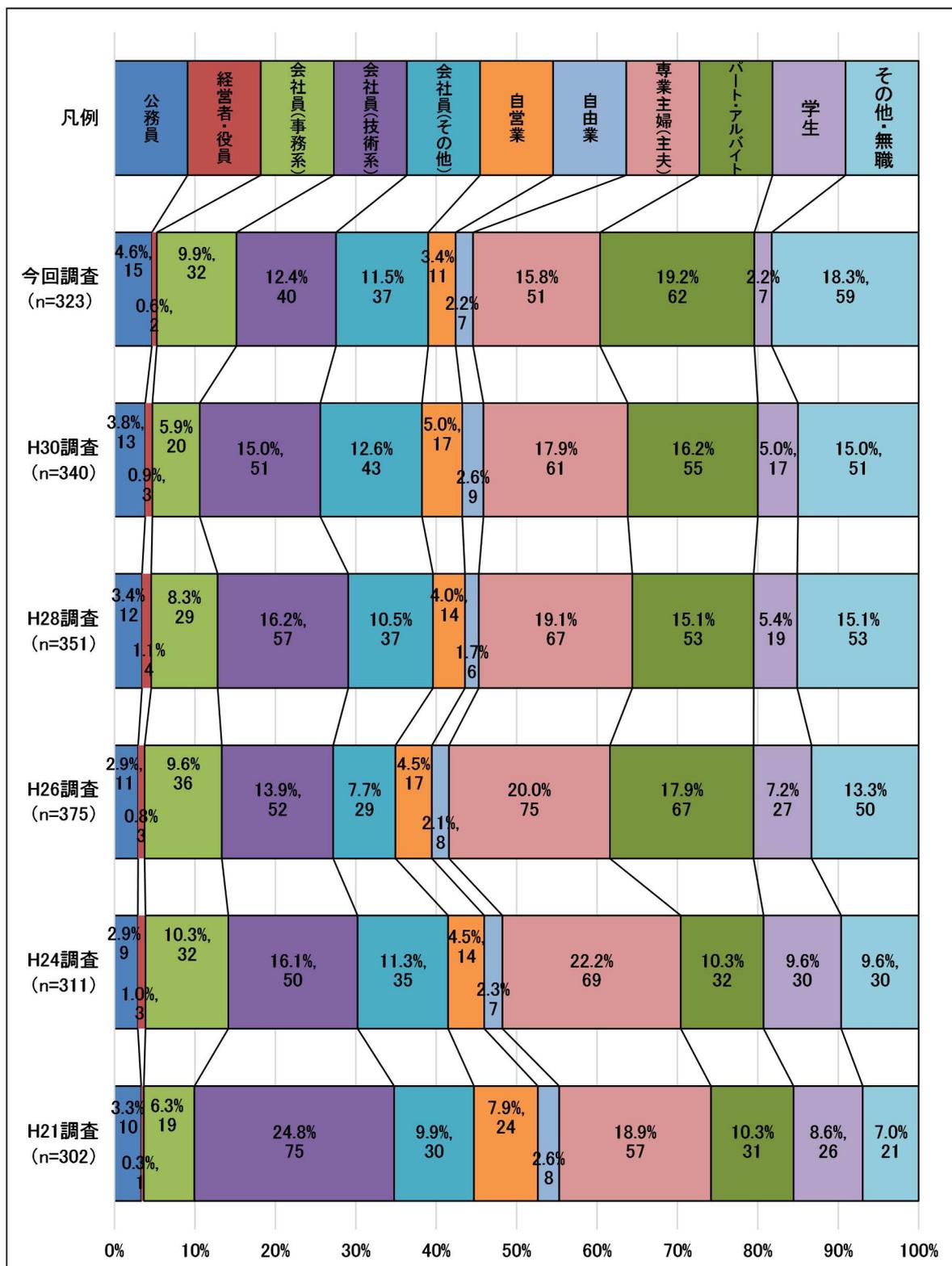
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
職業	公務員	役員 経営者	会社員 (事務系)	会社員 (技術系)	会社員 (その他)	自営業	自由業	(夫) 専業主婦	パート アルバイト	学生	無職 その他	
回答	15 (4.6%)	2 (0.6%)	32 (9.9%)	40 (12.4%)	37 (11.5%)	11 (3.4%)	7 (2.2%)	51 (15.8%)	62 (19.2%)	7 (2.2%)	59 (18.2%)	
	有職者 144 (44.6%)							有職者以外 179 (55.4%)				



## 2 過去の調査との比較(Web 調査のみ)

平成26年度（2014年度）の調査までは、公務員から自由業までの有職者の割合が減り続けていましたが、平成28年度（2016年度）調査からは増加傾向にあります。

また、その他・無職と答えた人の割合は調査開始時からずっと増加傾向にあります。これは、回答者に占める高齢者の割合が増加していることに起因していると考えられます。



### 第3節 設問及び回答内容並びに分析結果

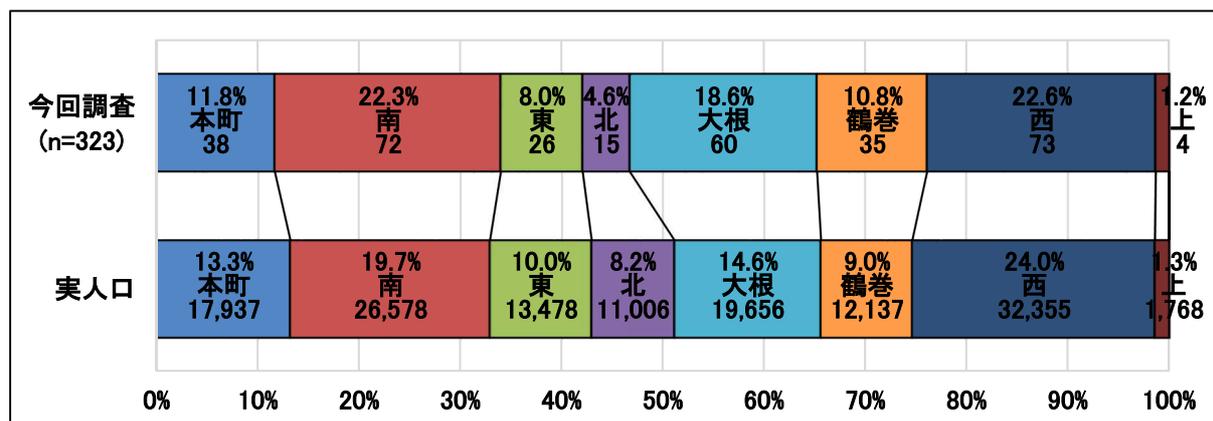
問1 あなたが居住している地区を教えてください。

- ① 本町地区 ② 南地区 ③ 東地区 ④ 北地区 ⑤ 大根地区  
⑥ 鶴巻地区 ⑦ 西地区 ⑧ 上地区

#### 1-1 調査結果

今回の調査では、南、大根、鶴巻地区に居住する人の割合が、実人口の割合よりも高く、本町、東、北、西、上地区に居住する人の割合が低くなっています。

「北地区」と回答した人の割合に標本誤差<sup>1</sup>を超える差が表れましたが、他地区の割合がいずれも標本誤差の範囲内であること、また回答した人の数が Web 調査受託会社に登録している会員の特性に起因することから、調査結果の信頼度に対する影響は少ないと考えられます。



回答肢	実人口の割合	調査結果と誤差範囲	n= 323
① 本町	13.3%	(8.2%) ~ 11.8% ~ (15.4%)	
② 南	19.7%	(17.7%) ~ 22.3% ~ (26.9%)	
③ 東	10.0%	(5.0%) ~ 8.0% ~ (11.0%)	
④ 北	8.2%	(2.3%) ~ 4.6% ~ (6.9%)	
⑤ 大根	14.6%	(14.3%) ~ 18.6% ~ (22.9%)	
⑥ 鶴巻	9.0%	(7.3%) ~ 10.8% ~ (14.3%)	
⑦ 西	24.0%	(17.9%) ~ 22.6% ~ (27.3%)	
⑧ 上	1.3%	(0.0%) ~ 1.2% ~ (2.4%)	

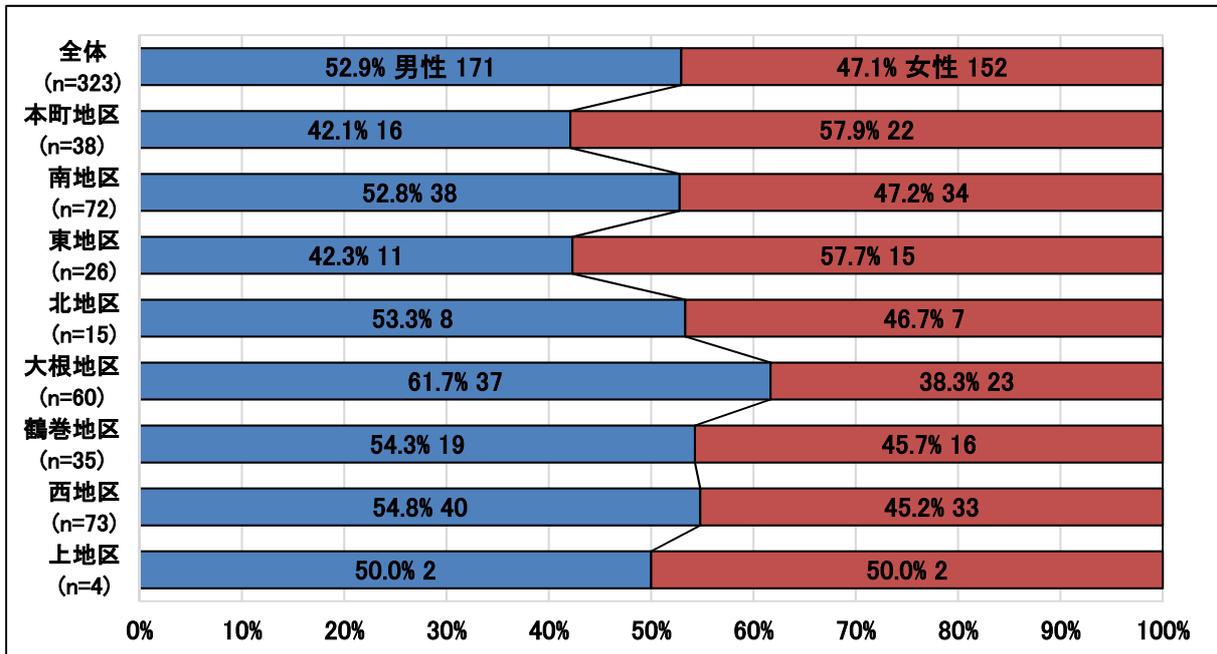
( )内は、信頼水準 95%<sup>2</sup>である標本誤差を加減した回答率

<sup>1</sup> 母集団から一部の標本を抽出する標本調査において、標本から得られた値と、母集団における値との間に生じる誤差で、確率論に基づき一定の式で計算する。

<sup>2</sup> 100回同じ調査を行った場合、95回が回答割合に標本誤差を加減した範囲の中に収まる結果になるという信頼度。回答率50%で信頼水準95%である標本誤差が5%の場合、その回答は100回中95回で45~55%の範囲に収まることになる。

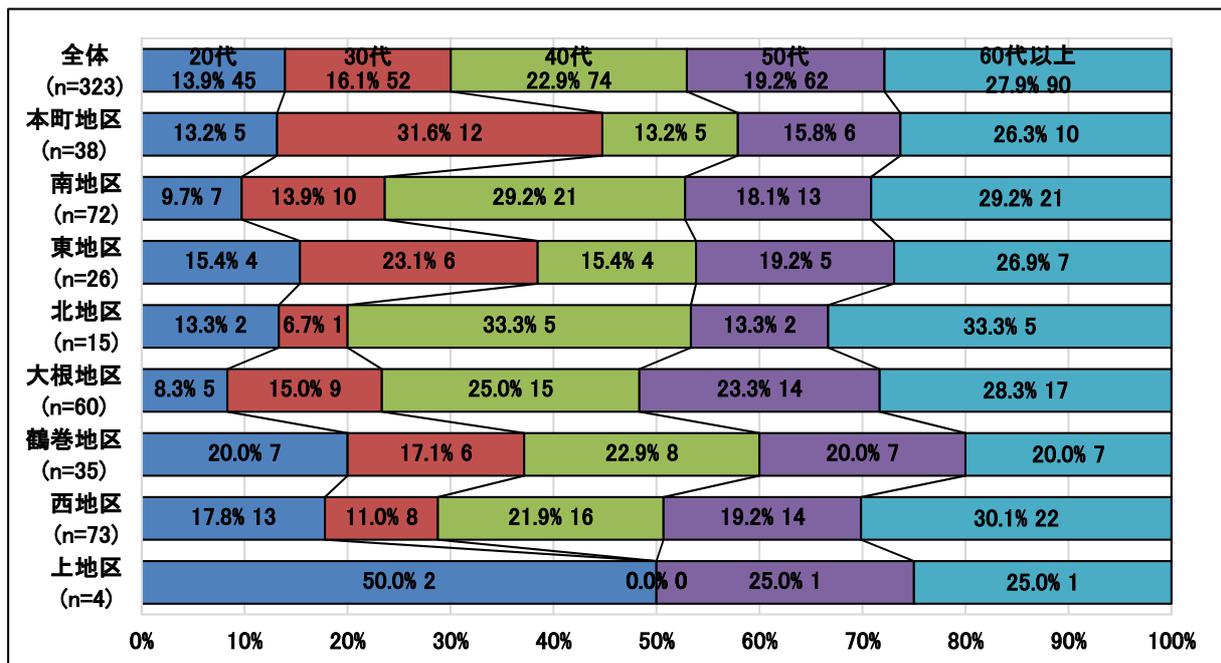
### 1-2 地区ごとの性別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、男性の割合が最も高かったのは、大根地区の 61.7%で、逆に女性の割合が最も高かったのは、本町地区の 57.9%となっています。



### 1-3 地区ごとの年代別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、20代以下の割合が最も高かったのは、鶴巻地区の 20.0%、30代の割合が最も高かったのは、本町地区の 31.6%、40代の割合が最も高かったのは、北地区の 33.3%、50代の割合が最も高かったのは、大根地区の 23.3%、60代以上の割合が最も高かったのは、北地区の 33.3%となっています。



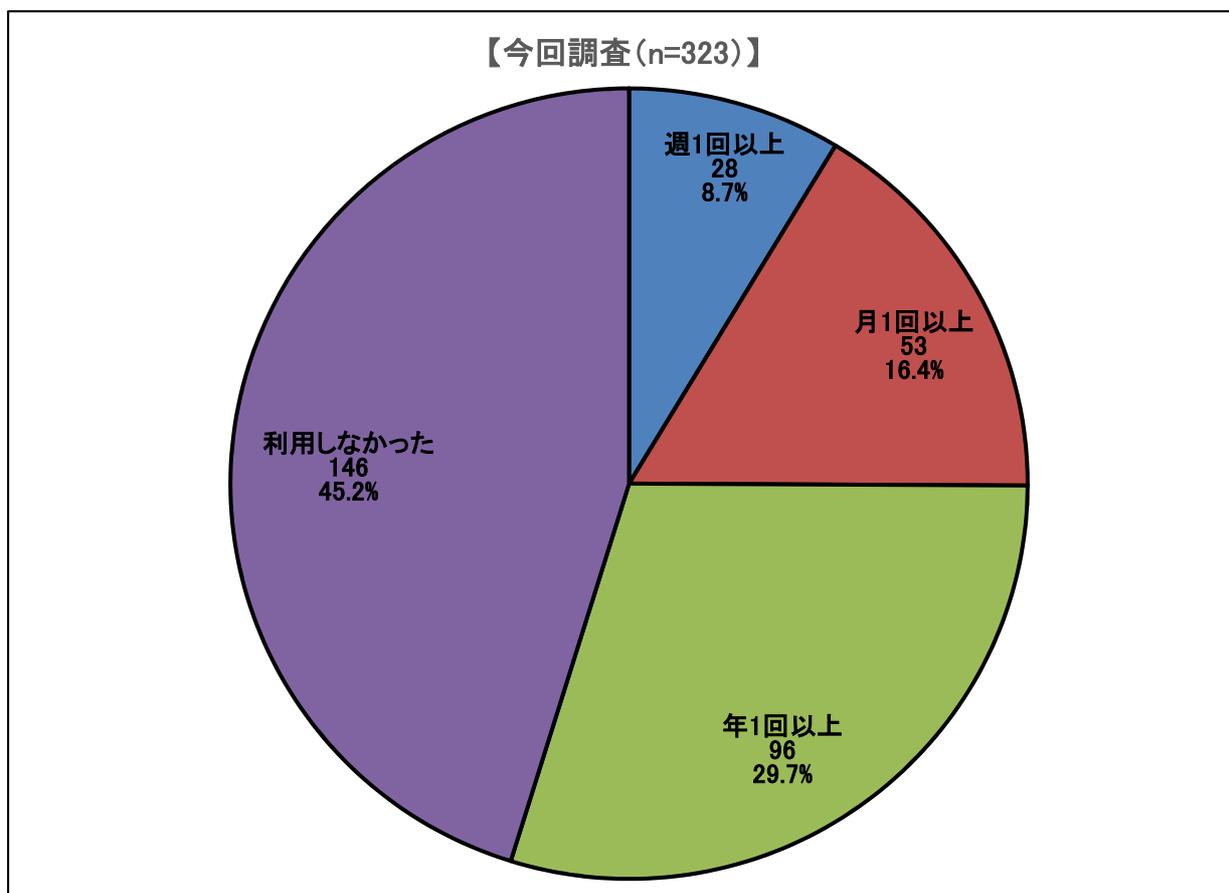
問2 あなたは、過去1年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。  
(公園のように職員が常駐していない施設は除きます。)

- ① 週に1回以上利用した。 ② 月に1回以上利用した。  
③ 年に1回以上利用した。 ④ 利用しなかった。

### 2-1 調査結果

「利用しなかった」と回答した人の割合が最も高く45.2%で、「週に1回以上利用した」と回答した人の割合は最も低く8.7%となりました。

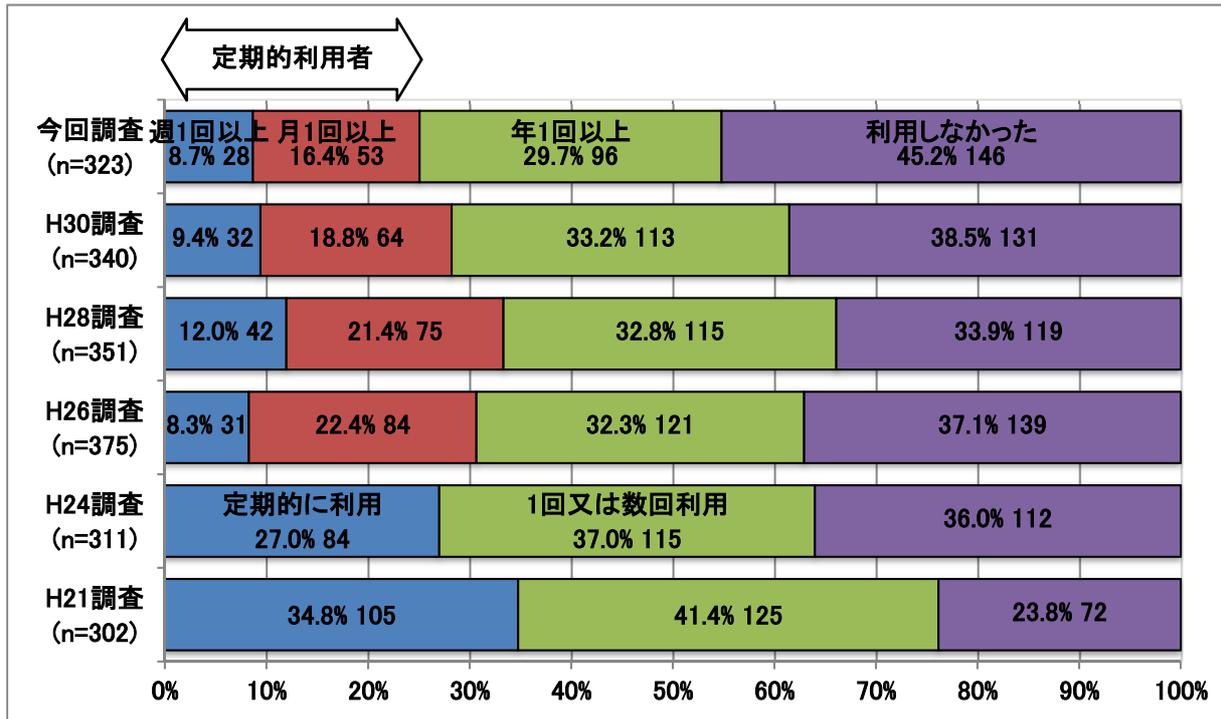
「週に1回以上利用した」及び「月に1回以上利用した」と回答した人（以下「定期的利用者」といいます。）の割合は25.1%でした。



### 2-2 過去の調査との比較(Web調査)

今回の調査では、定期的利用者の割合は25.1%となり、28.2%だった前回の調査より3.1ポイント減少しています。

平成26年度(2014年度)の調査以降、明確に回答が得られるように回答肢を変更していますが、定期的利用者の割合は、調査年度により増減はあるものの、約3割前後で推移していましたが、平成30年度(2018年度)以降は減少傾向が見られます。

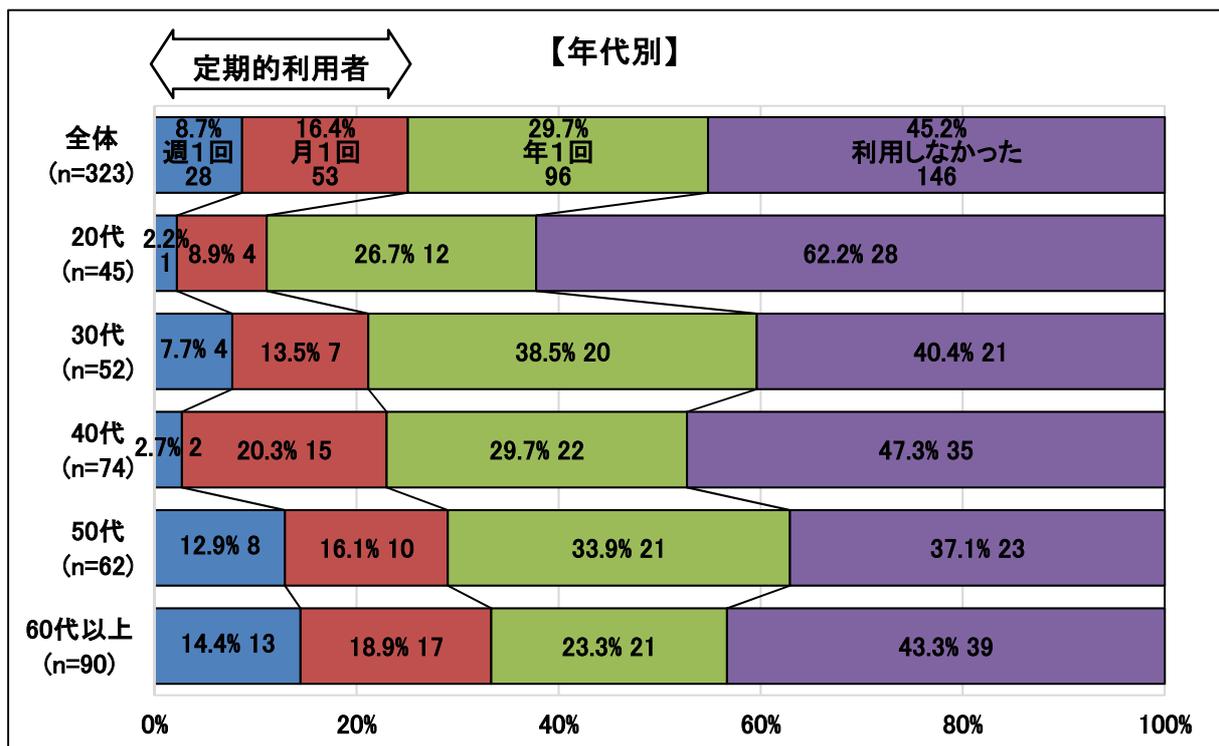


## 2-3 年代別及び性別の比較

### (1) 年代別

定期的利用者の割合は、60代以上が33.3%で最も高く、次いで50代が29.0%となっています。

30代、40代の定期的利用者の割合は20%台前半となっていますが、20代では11.1%と低くなっています。また、「利用しなかった」と回答した人の割合は20代が62.2%と最も高くなっています。

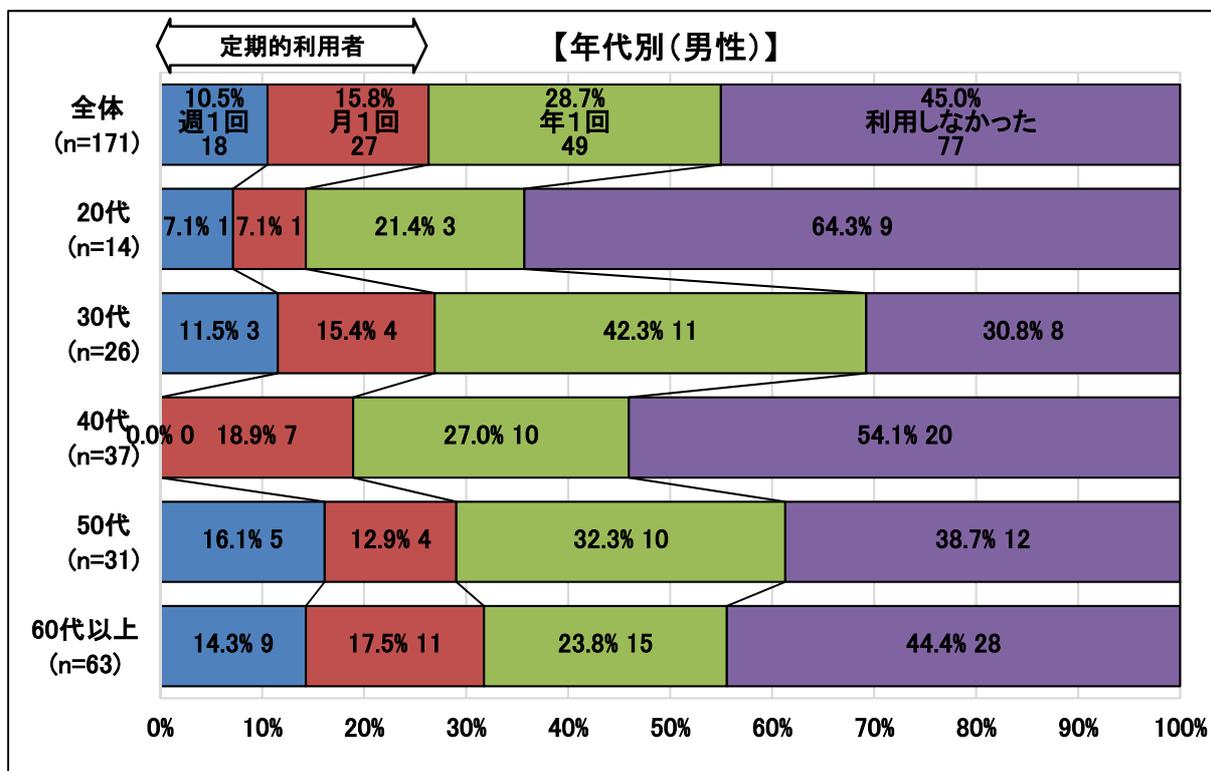


## (2) 男性

定期的利用者の割合は、60代以上が31.8%で最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、20代が64.3%で最も高くなっています。

男性と女性を合わせた全体の年代別傾向と比較すると、男性では20代と30代で定期的利用者の割合が高くなっています。

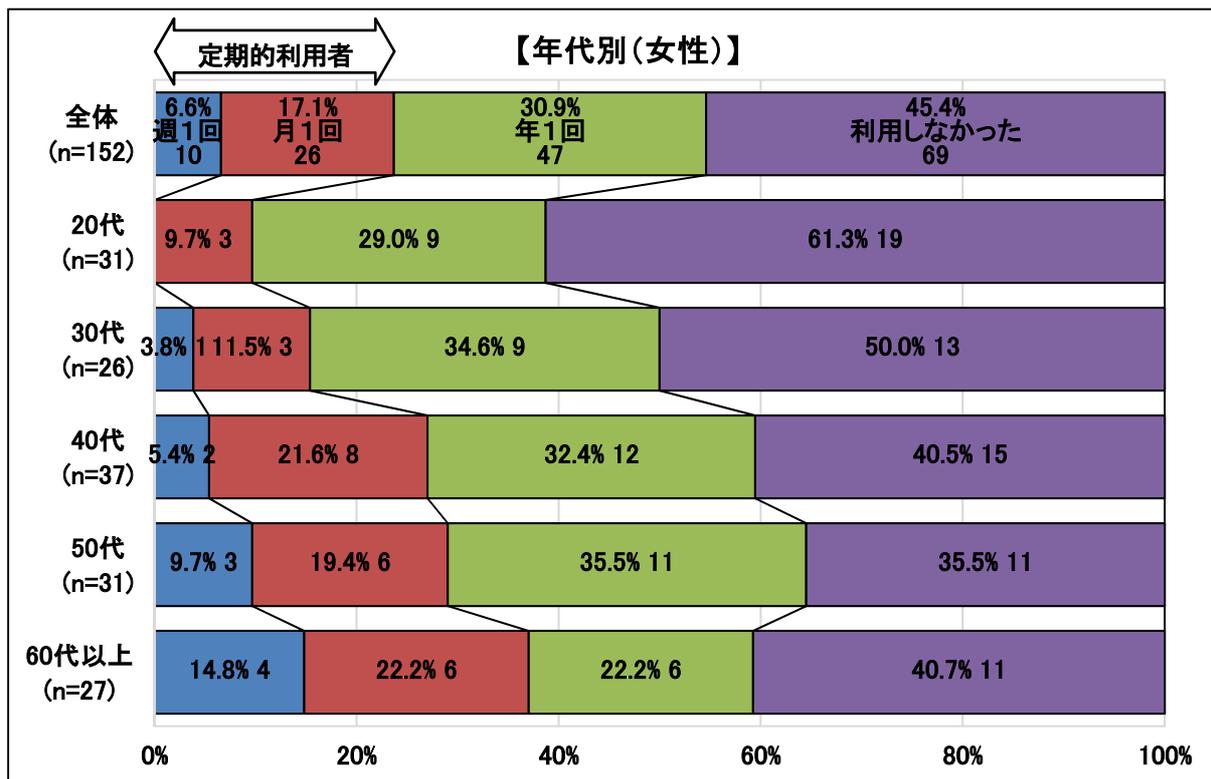


## (3) 女性

定期的利用者の割合は、60代以上が37.0%と最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、20代が61.3%で最も高く、次いで30代の50.0%となっています。

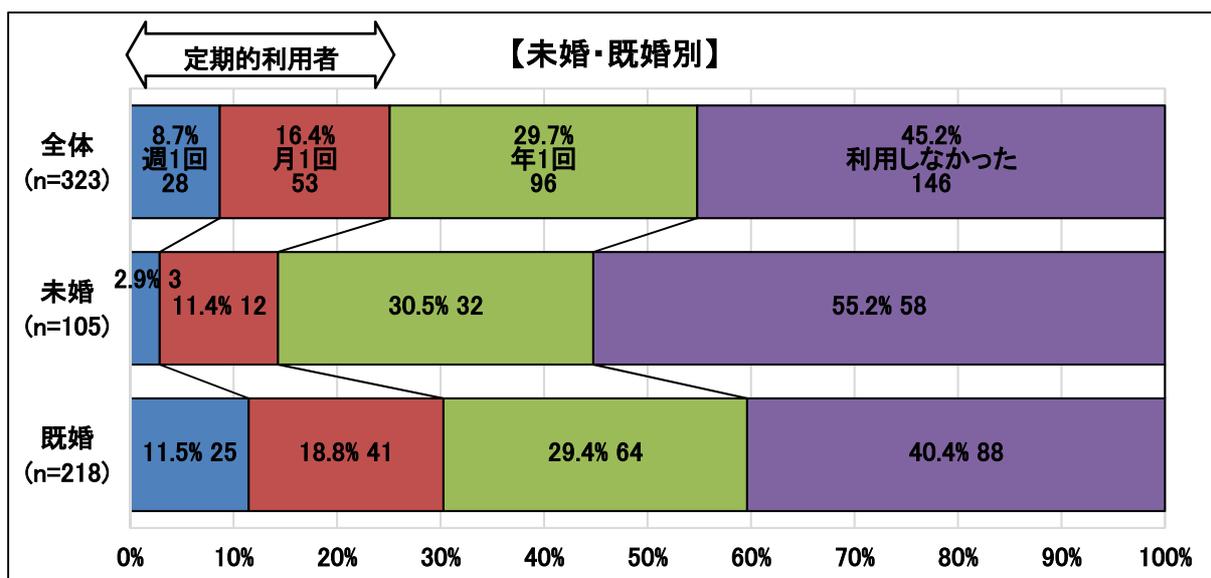
男性と女性を合わせた全体の年代別傾向と比較すると、女性では40代及び60代以上の世代で定期的利用者の割合が高くなっています。この割合からは、男性が20代、30代での定期的利用が多いことに対し、女性は40代を超える世代を中心に積極的に公共施設を利用していることが分かります。



#### 2-4 未既婚別の比較

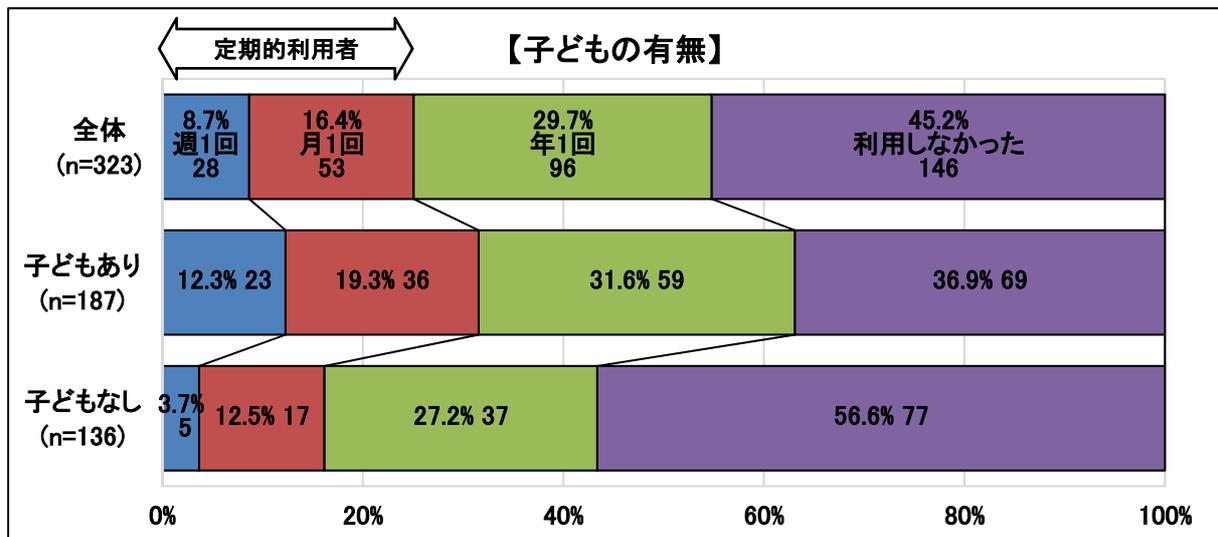
定期的利用者の割合は、未婚者の14.3%に対して、既婚者は30.3%と大きく上回っています。

「年に1回以上利用した」と回答した人の割合は、未婚者、既婚者の間に大きな差は見られませんが、「利用しなかった」と回答した人の割合は、未婚者では既婚者よりも14.8%も高い55.2%と、未婚者全体の過半数を占めています。



## 2-5 子どもの有無別の比較

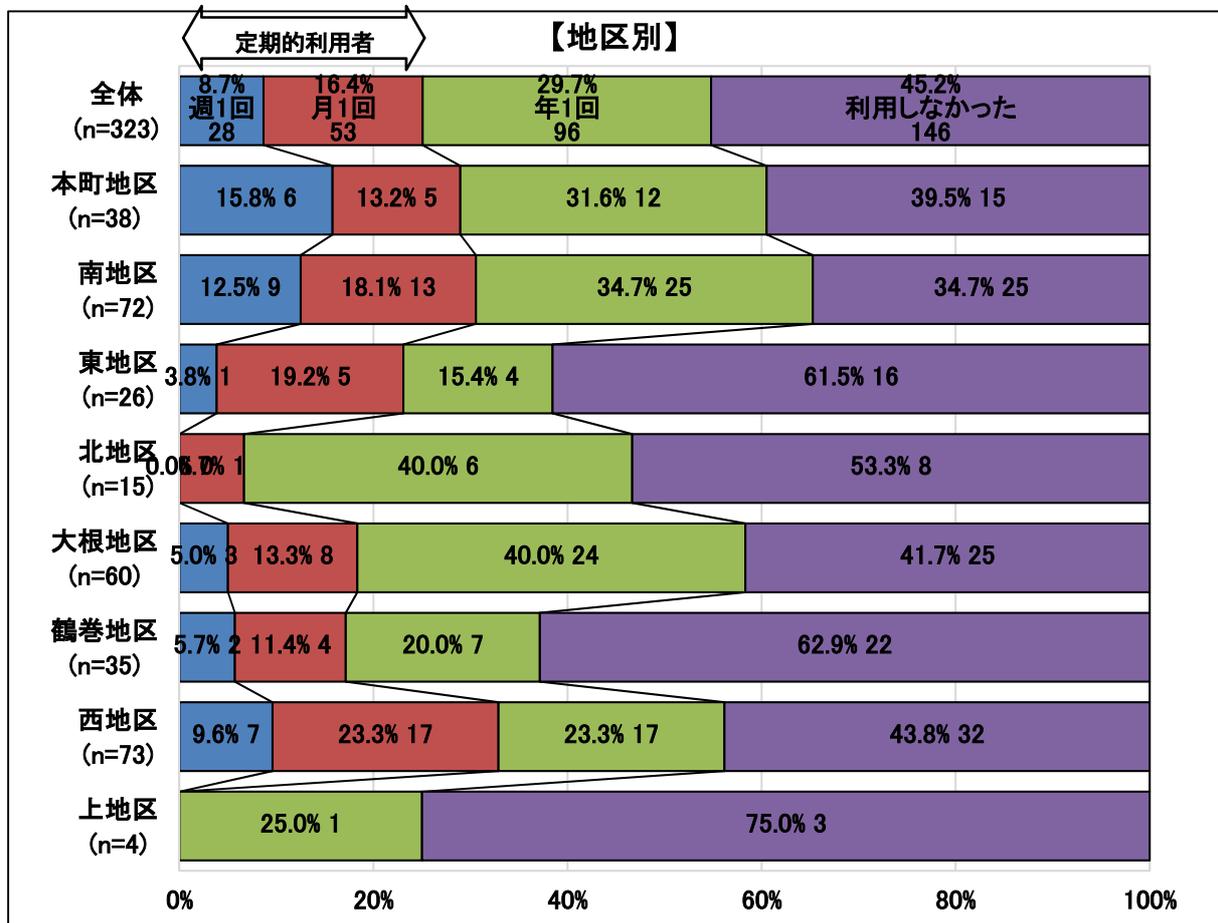
定期的利用者の割合は、「子どもあり」と答えた人が 31.6%と、「子どもなし」と回答した人の割合よりも 15.4%も高くなっています。



## 2-6 地区別の比較

回答者が少ない上地区を除くと、定期的利用者の割合は、西地区が 32.9%で最も高くなりました。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合が最も高かったのは、鶴巻地区の 62.9%となっています。



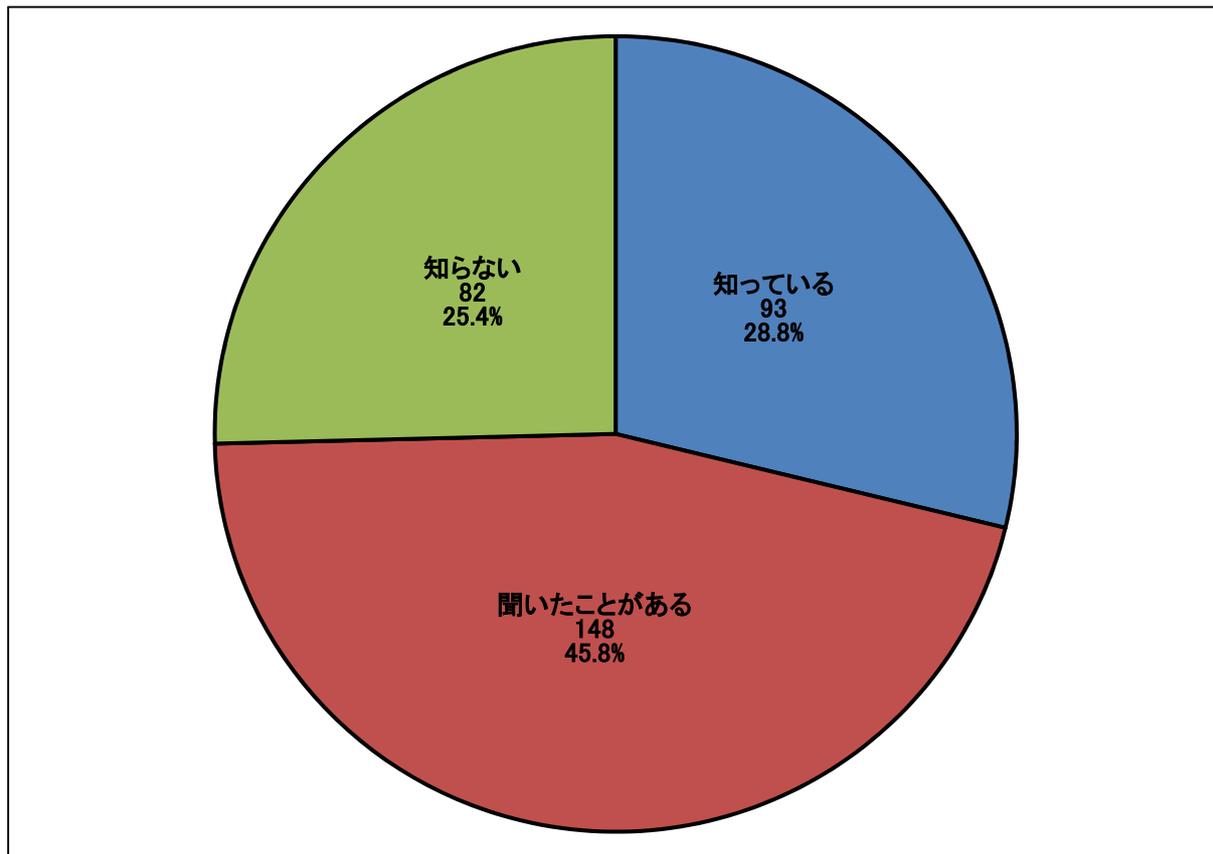
問3 日本各地で「公共施設の更新（老朽化）」が社会問題となっていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

- ① 知っている。 ② なんとなく聞いたことがある。 ③ 知らない。

### 3-1 調査結果

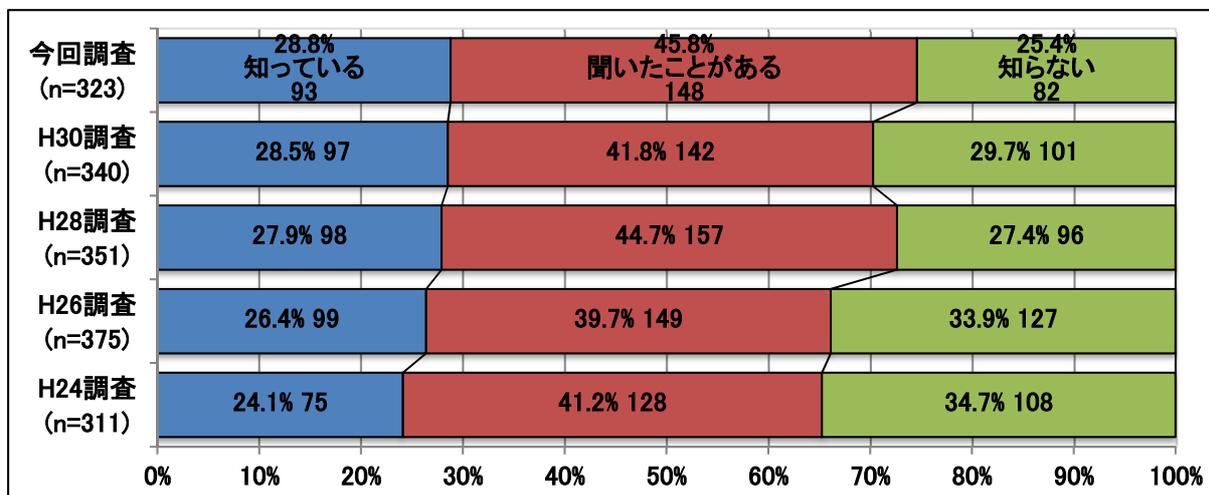
平成24年度(2012年度)のアンケート調査から継続している質問です。

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は74.6%となっています。



### 3-2 過去の調査との比較(Web 調査)

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は 74.6%で、前回調査よりも 4.3 ポイント増加しています。平成 30 年度 (2018 年度) 調査では平成 28 年度 (2016 年度) 調査と比べて 2.3 ポイントの減少が見られたものの、一定の認知度は確保されていることが伺えます。

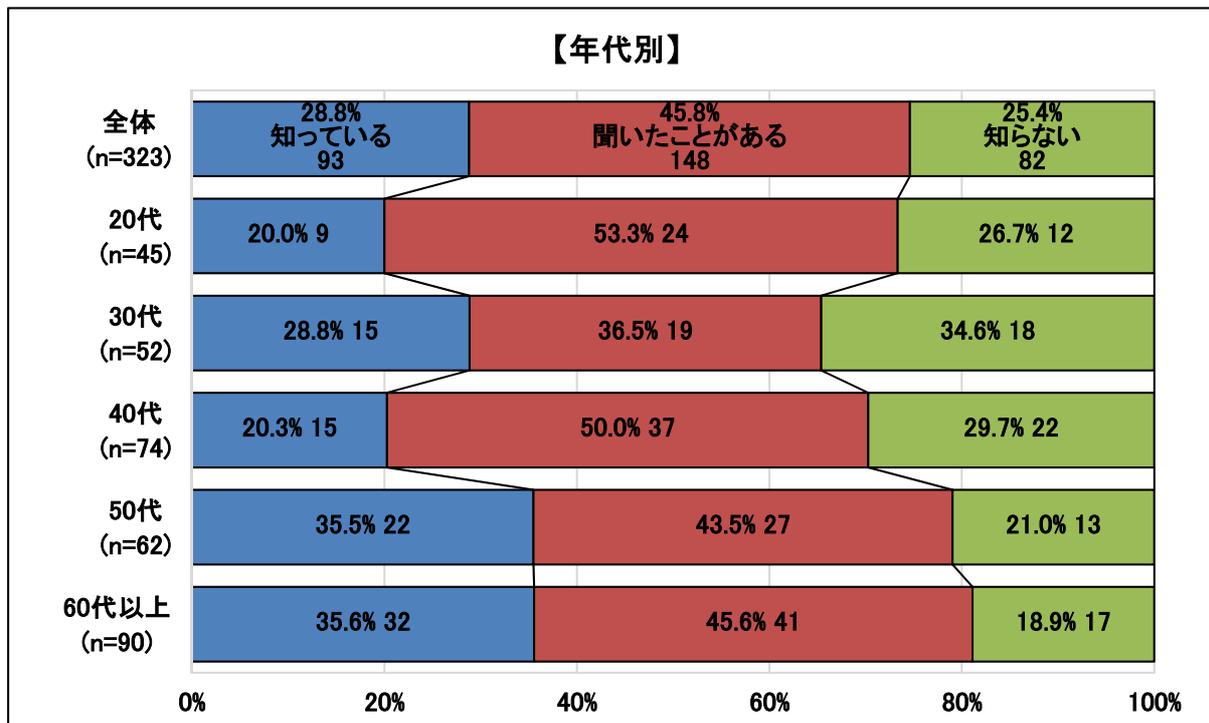


### 3-3 年代別及び性別の比較

#### (1) 年代別

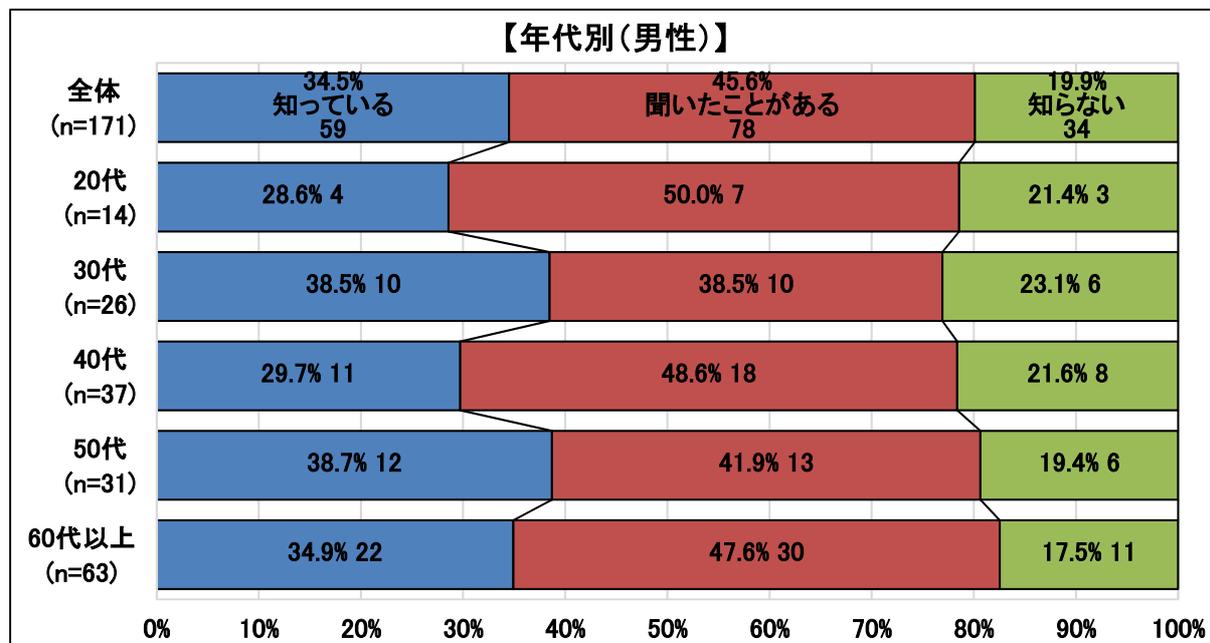
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 81.2%と最も高くなっています。

また、「知らない」と答えた人の割合は、30 代が 34.6%と最も高く、40 代の 29.7%が続いています。



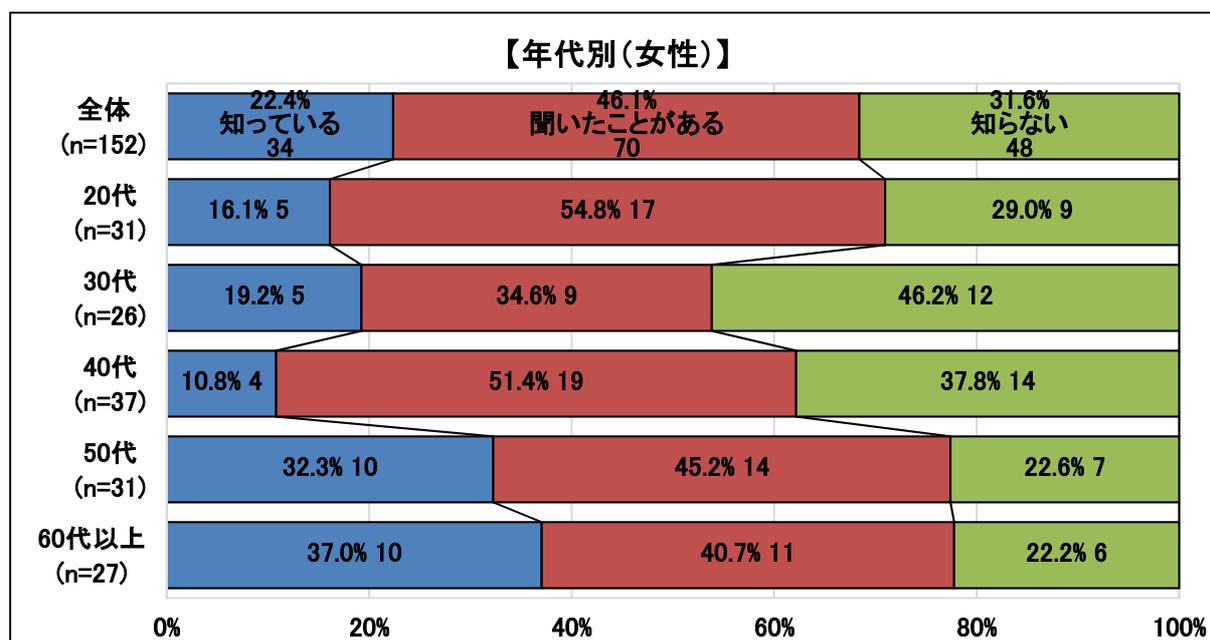
## (2) 男性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60代以上が82.5%と最も高く、全ての世代で80%前後となっています。男性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は80.1%で、男女を合わせた全体の認知度より5.5%高くなっています。男性では、全ての世代で認知度が高いことが伺えます。



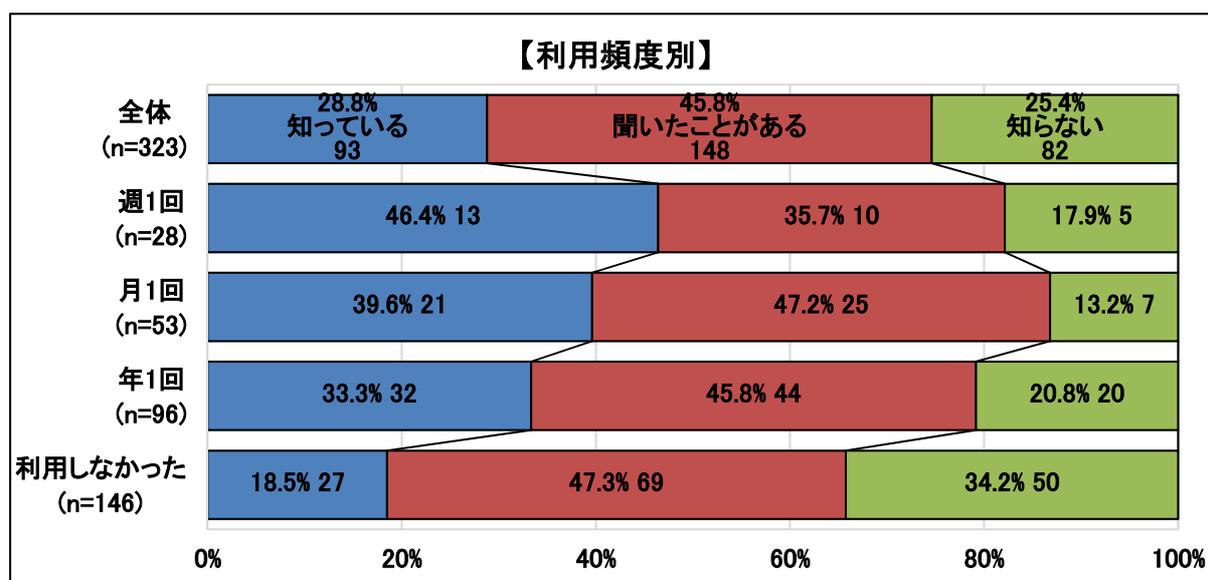
## (3) 女性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60代以上が77.7%と最も高く、20代及び50代も70%を超えています。女性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は68.5%で、男性ほど認知度は高くありませんが、50代以上の世代を中心に高い認知度であることが伺えます。



### 3-4 公共施設利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別に「公共施設の更新（老朽化）」の認知度を見てみると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、「月1回以上利用した」と回答した人が86.8%、「週1回以上利用した」と回答した人が82.1%と高くなり、「年1回以上利用した」と回答した人は79.1%と少し低くなりました。また、「利用しなかった」と答えた人の割合は65.8%でした。「公共施設の更新（老朽化）」の認知度は、定期的利用者のほうが高い割合となる傾向が見られます。



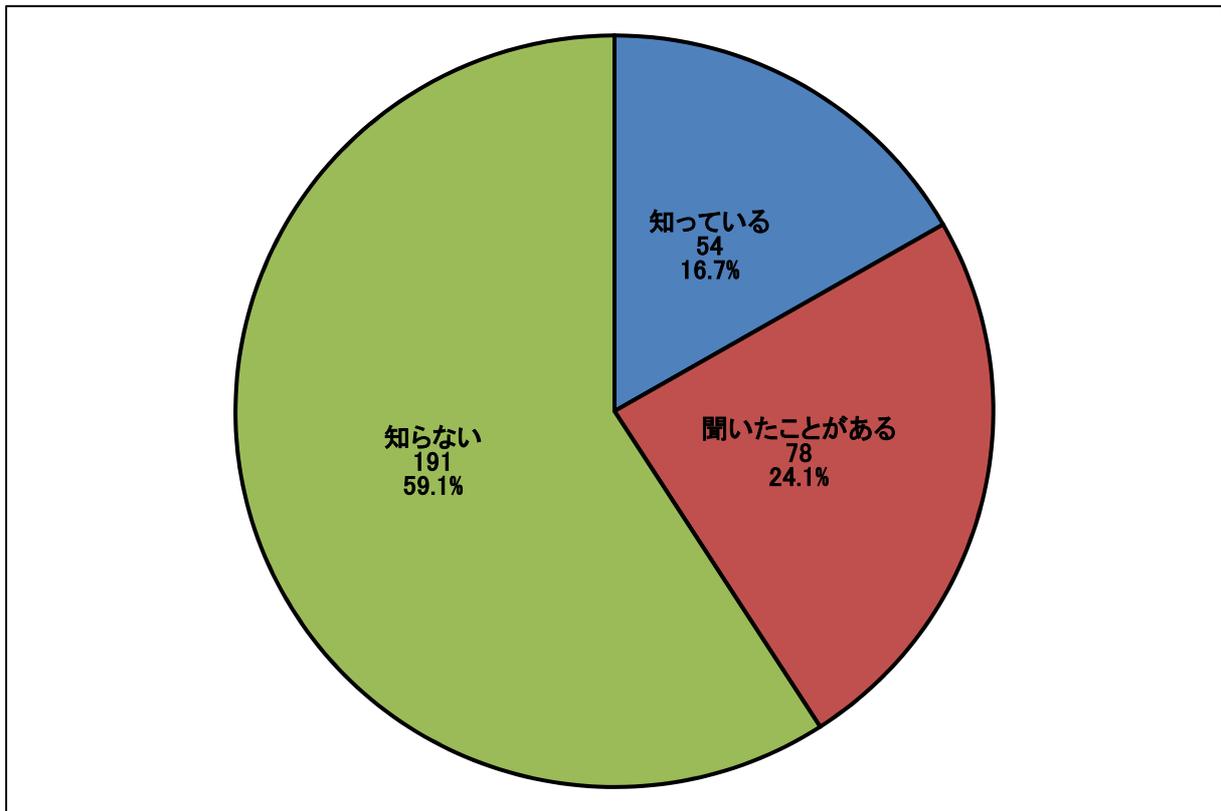
問4 秦野市は、この「公共施設の更新（老朽化）」に対応するため、「公共施設再配置計画」を進めています。

あなたは、このことをご存知でしたか。

- ① 知っている。 ② なんとなく聞いたことがある。 ③ 知らない。

#### 4-1 調査結果

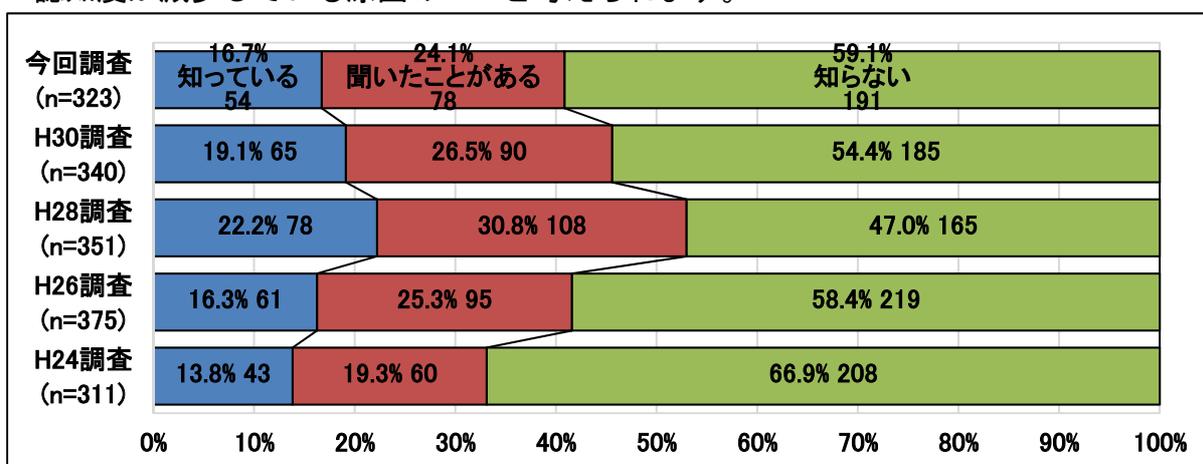
問3と同じく、平成24年度(2012年度)のアンケート調査から継続している質問ですが、「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は合わせて40.8%となっています。



#### 4-2 過去の調査との比較(Web 調査)

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、平成 24 年度(2012 年度)調査から平成 28 年度(2016 年度)調査まで増加していましたが、前回調査から減少に転じています。

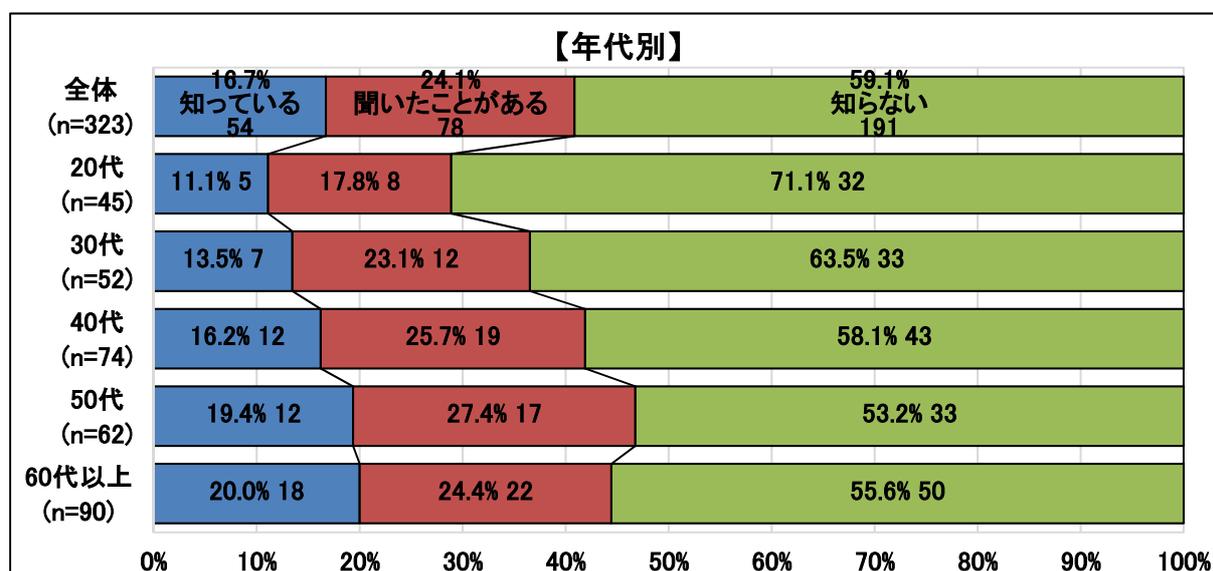
前回の調査では、このアンケートに連続(H28, 30)して回答した人が 172 名(50.6%)、そのうち 3 回連続(H26, 28, 30)して回答した人が 105 名(30.9%)となっていました。今回の調査では連続(H30, R02)して回答した人は 152 名(47.1%)、そのうち 3 回連続(H28, 30, R02)して回答した人が 104 名(32.2%)でした。3 回連続して回答した人の割合は増加していますが、連続して回答した人の割合が減少したということは、初めて回答した人の割合が増加したということであり、この割合の増加が認知度が減少している原因の一つと考えられます。



#### 4-3 年代別及び性別の比較

##### (1) 年代別

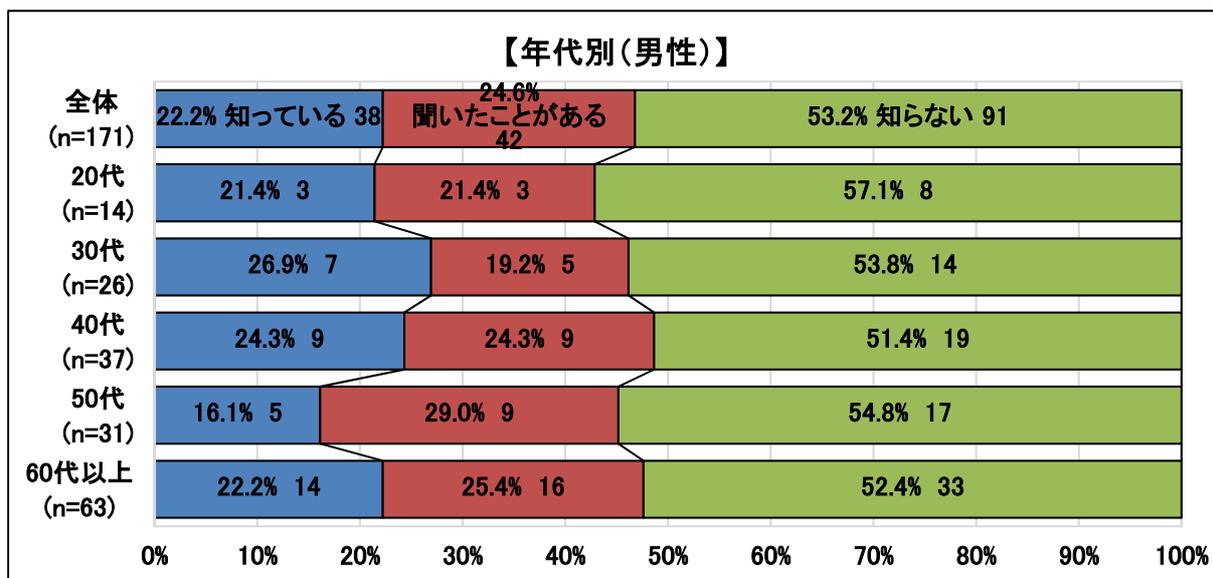
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、50 代が 46.8%で最も高くなりました。次に 60 代以上の 44.4%、40 代の 41.9%と続き、30 代では 36.6%、20 代は 28.9%と、若い世代ほど本市の「公共施設再配置」の取組みに対する認知度が低いことが分かります。



## (2) 男性

男性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、46.8%で男女を合わせた全体の割合より6.0ポイント高くなっています。公共施設の再配置の取組みに関する認知度は、男性の方が高いことがわかります。

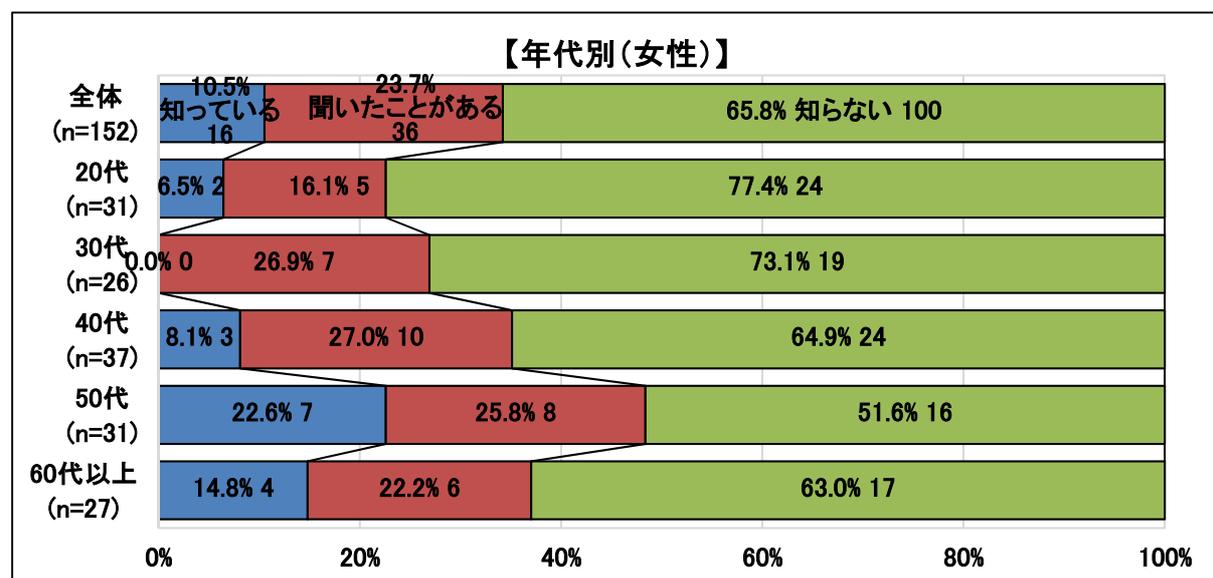
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、40代の48.6%で、60代以上の47.6%、30代の46.1%、50代の45.1%と続き、20代が42.8%と最も低くなっています。



## (3) 女性

女性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、38.9%で、男女を合わせた全体の割合より6.7ポイント低くなっています。

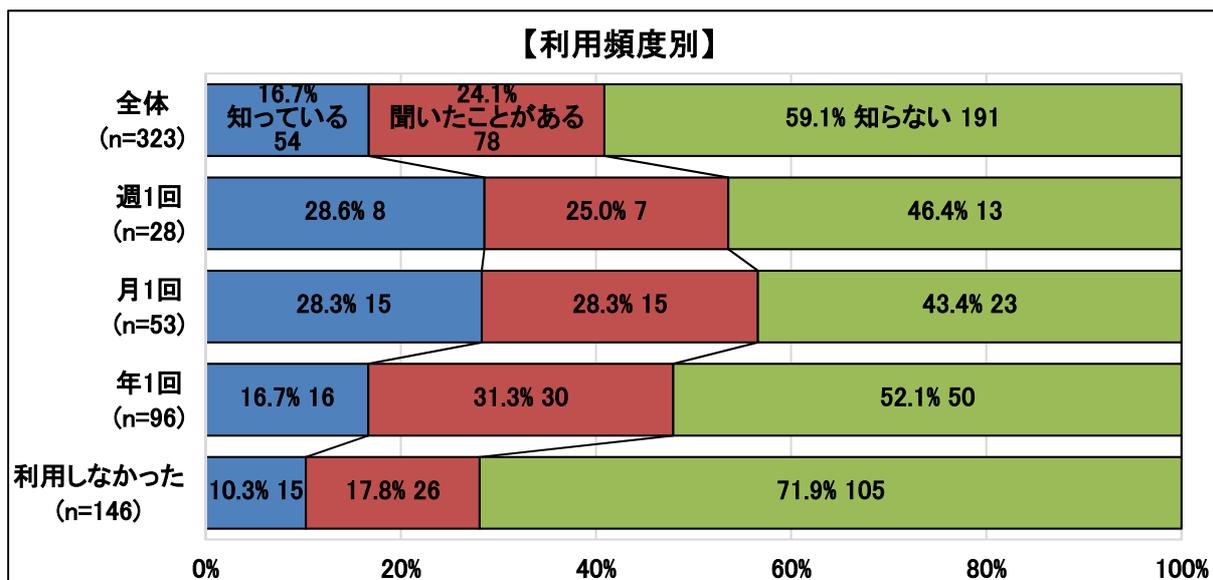
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、50代の48.4%で、60代以上の37.0%、40代の35.1%と続きますが、30代では26.9%、20代では22.6%と、世代間の認知度の違いや若い世代の認知度の低下が男性よりも顕著になっています。



#### 4-4 公共施設利用頻度別の比較

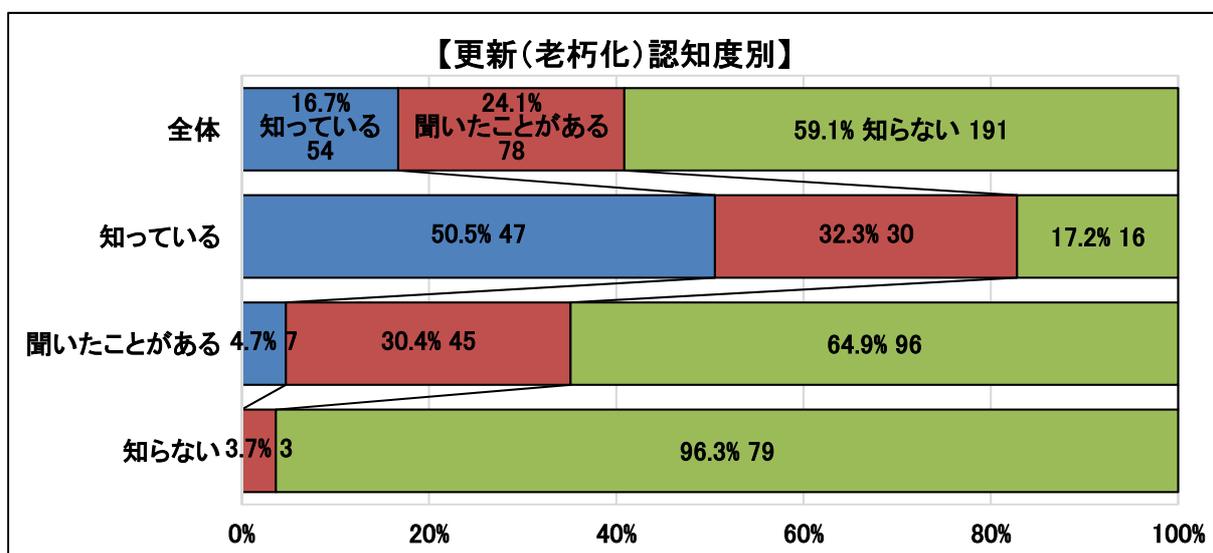
公共施設の利用頻度が高いほうが、「公共施設の再配置の取組み」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合も高くなる傾向が見られますが、「年に1回以上利用した」人でもその割合は48.0%と、全体の割合を7.2ポイント上回っています。

「利用しなかった」人では、「知らない」と回答した人の割合が71.9%にも達していることから、施設の利用頻度よりも利用の有無によって「公共施設再配置の取組み」の認知度に差が表れていると考えられます。



#### 4-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

「公共施設の更新（老朽化）」の認知度と、「公共施設再配置計画」の認知度は、密接に関係していることが分かります。「公共施設の更新（老朽化）」を「知っている」人では、「公共施設再配置計画」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した割合は82.8%に達していますが、「公共施設の更新（老朽化）」を「知らない」人では、3.7%（取組みを「知っている」割合は0%）に激減しています。



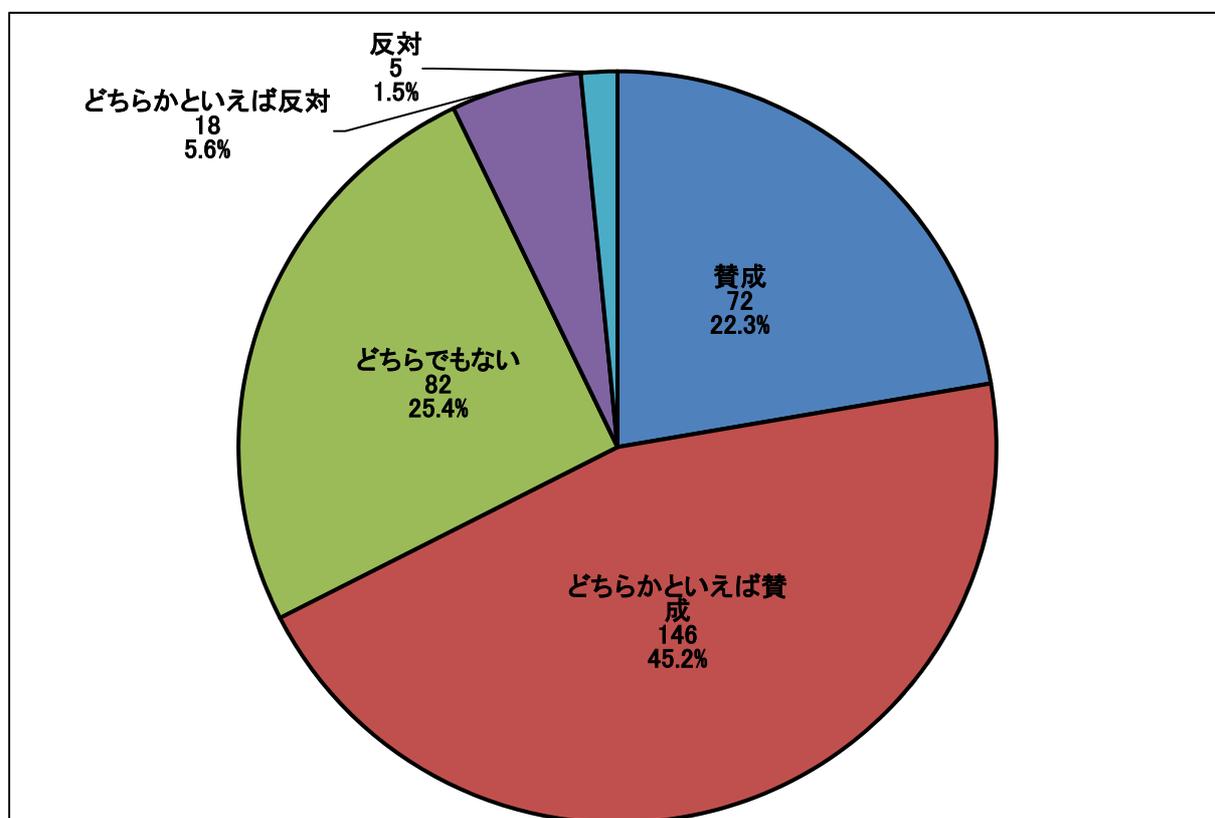
問5 秦野市の「公共施設再配置計画」は、できるだけ施設の機能を維持する方法を考えながら、40年間で31%の公共施設（床面積）を減らすことにより、人口減少と市民の高齢化が進む中でも、必要性の高い公共施設サービスを将来にわたり良好な状態で維持していこうとするものです。

このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

- ① 賛成である。 ② どちらかといえば賛成である。 ③ どちらでもない。
- ④ どちらかといえば反対である。 ⑤ 反対である。

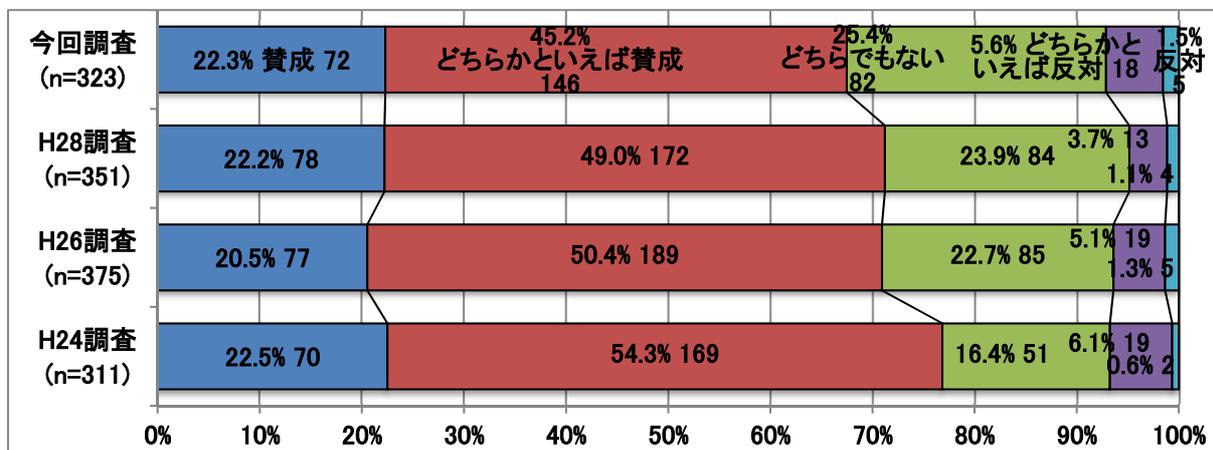
### 5-1 調査結果

問3及び問4と同じく、平成24年度（2012年度）のアンケート調査から継続している質問（前回調査を除く）ですが、「賛成である」又は「どちらかといえば賛成である」と回答した人の割合は合わせて67.5%となっています。



## 5-2 過去の調査との比較(Web調査)

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、平成24年度(2012年度)調査から平成28年度(2016年度)調査までは70%台が続いていましたが、今回調査では67.5%となっています。また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた人の割合は7.1%で、2.3ポイント増加しています。

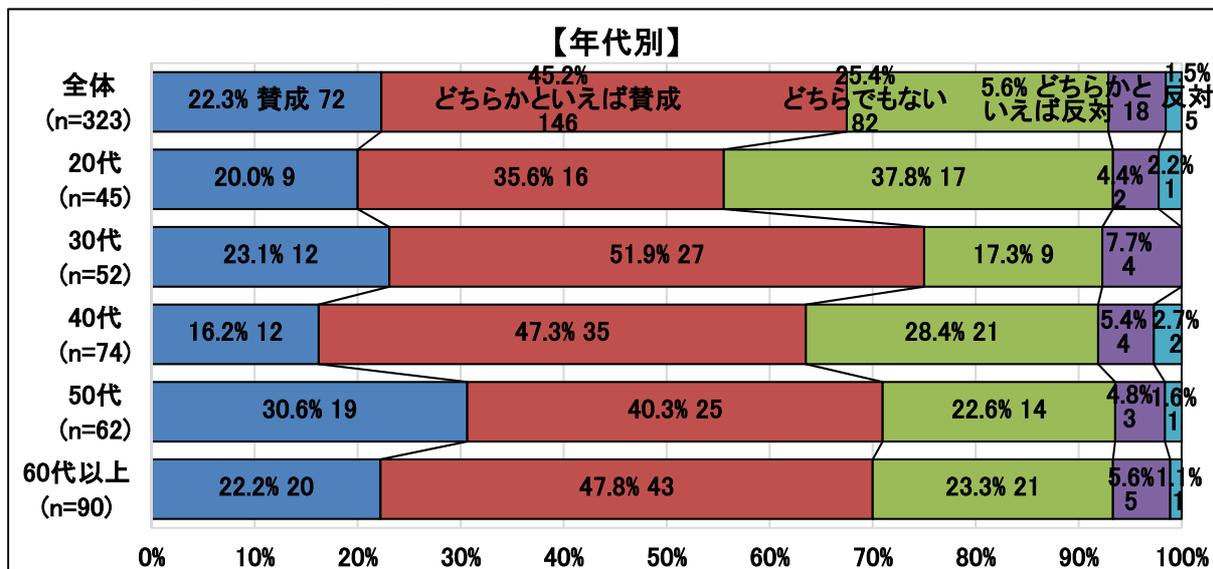


## 5-3 年代別及び性別の比較

### (1) 年代別

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、30代が75.0%と最も高く、50代の70.9%、60代以上の70.0%と続いています。

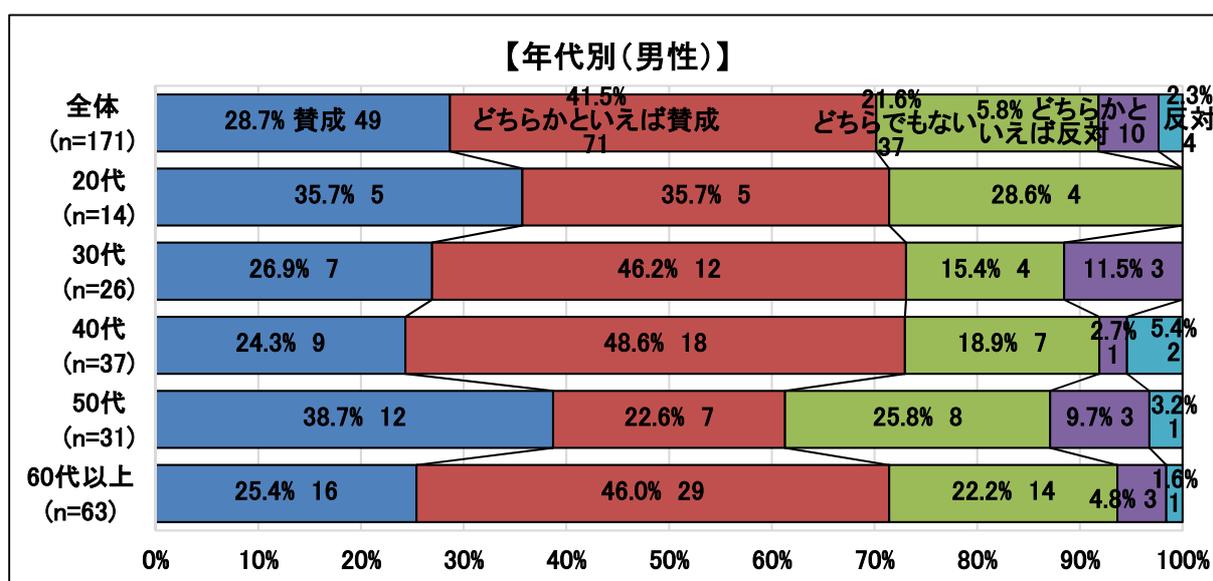
また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた人の割合は、40代が8.1%と最も高くなっていますが、その他の世代を見ると7%前後となっており大きな差は見られません。



## (2) 男性

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、70.2%で男女を合わせた全体の割合より2.7ポイント高くなっています。公共施設の再配置の取組みに対する理解度は、男性の方が高いことがわかります。

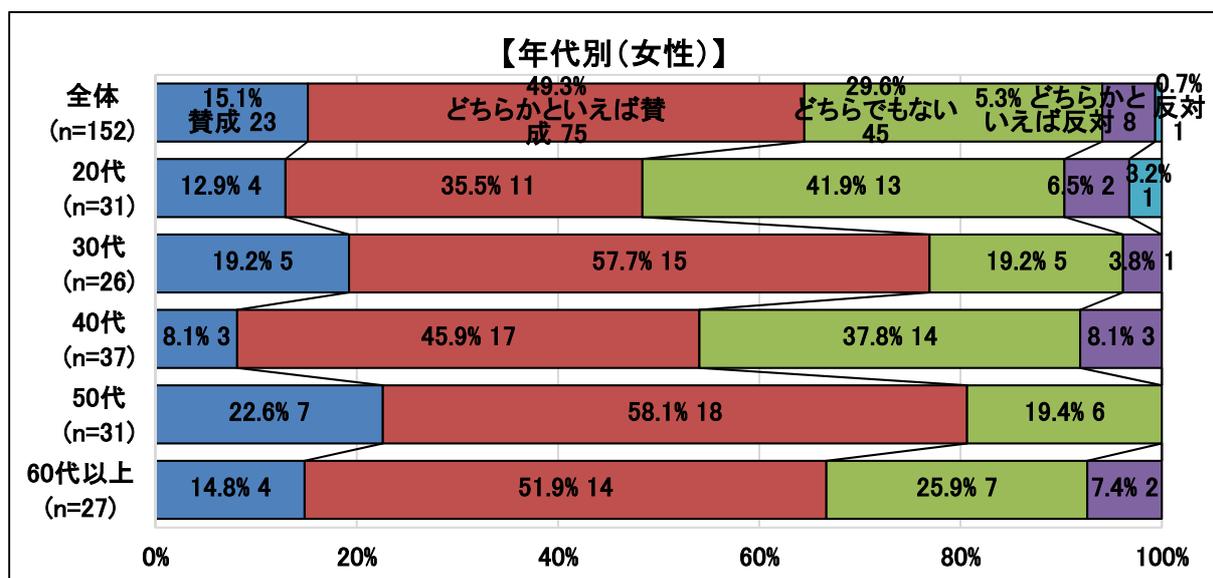
年代別で見ると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合が最も高くなったのは、30代の73.1%で、40代、20代、60代以上といずれも70%台が続きますが、50代では61.3%と理解度が低い結果となりました。



## (3) 女性

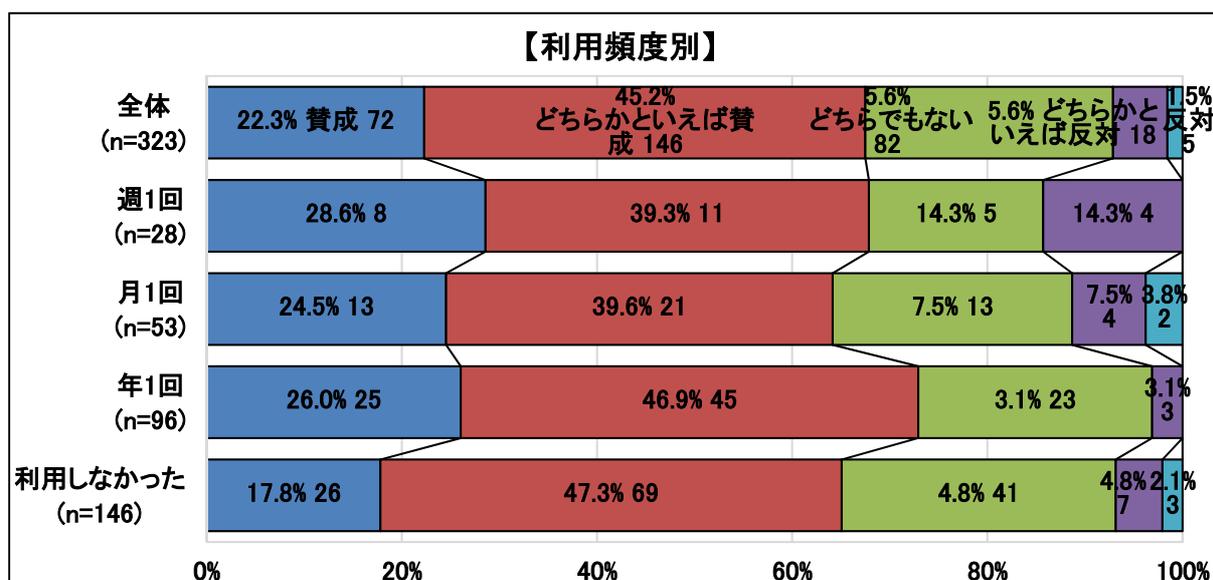
女性で「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、64.4%、で男女を合わせた全体の割合より3.1ポイント低くなっています。

年代別で見ると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、50代が80.7%と最も高く、30代が76.9%と続いています。40代では54.0%、20代では48.4%と、理解度の格差が男性よりも顕著に表れています。



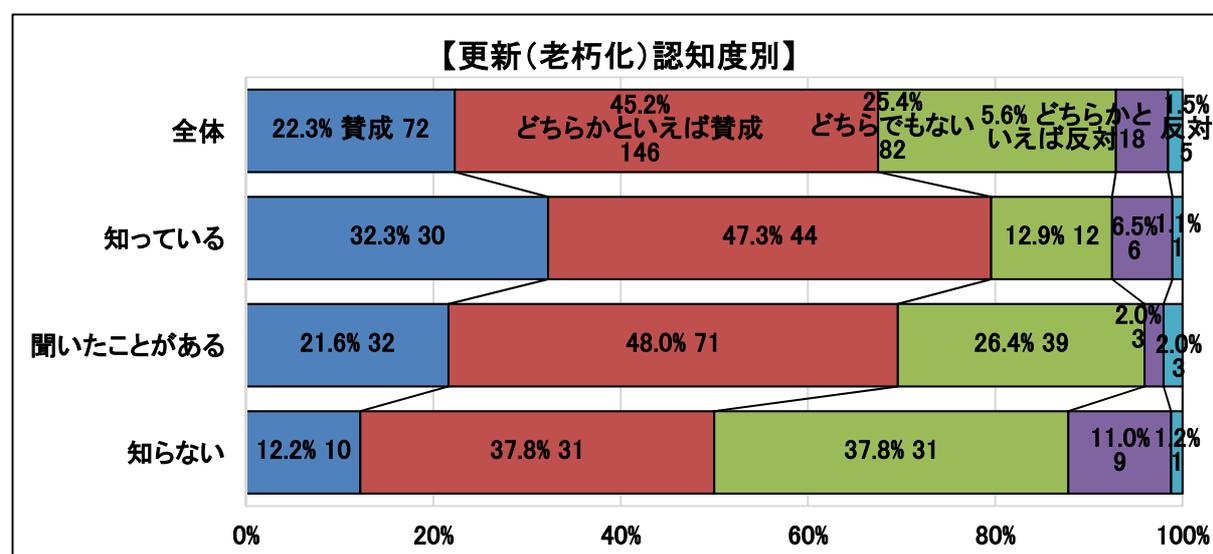
#### 5-4 公共施設利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別に「公共施設再配置計画の理解度」を見てみると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、「年1回以上利用した」と回答した人が72.9%と最も高くなり、「週1回以上利用した」と回答した人の67.9%、「月1回利用した」と回答した人の64.1%が続いています。「利用しなかった」と回答した人の割合も65.1%なので、利用頻度の違いによる大きな差は見られません。また、公共施設の利用頻度が高くなるほど、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた人の割合も高くなる傾向が見られ、「週1回以上利用した」及び「月1回以上利用した」と答えた人の割合はいずれも全体の割合を上回っています。



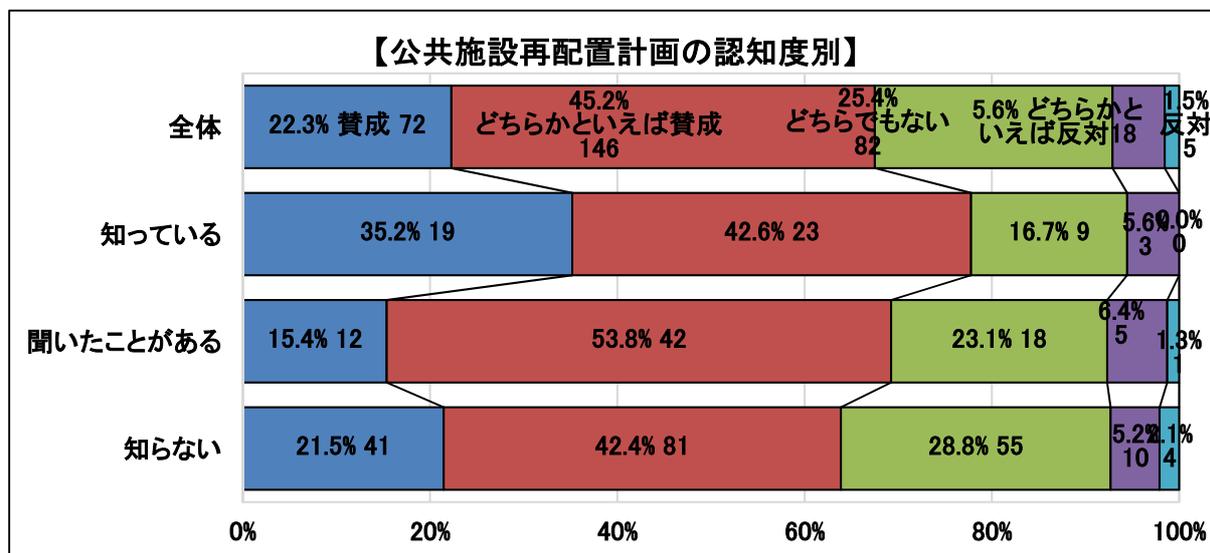
#### 5-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

「公共施設の更新（老朽化）の認知度」と、「公共施設再配置計画」への理解度は、4-5ほどではありませんが関係していることが分かります。「公共施設の更新（老朽化）」の認知度が高くなるほど、「公共施設再配置計画」に「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答える人の割合も高くなる傾向が見られます。



### 5-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

公共施設再配置計画への認知度が高くなるほど、理解度も高くなる傾向があります。「公共施設再配置計画」を「知っている」と答えた人のうち、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、77.8%と最も高く、「聞いたことがある」と答えた人の割合が69.2%と続いており、いずれも全体の割合より高くなっています。



問6 秦野市では、「公民連携によるサービスの充実」を公共施設再配置計画のシンボル事業のひとつに位置付け、公有財産の活用に取り組んできました。

民間事業者等を活用することによる効果（サービス向上やコスト削減等）が期待される一方、管理運営主体の経営状況等によっては不安定な運営となる可能性がある、などの課題もあります。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

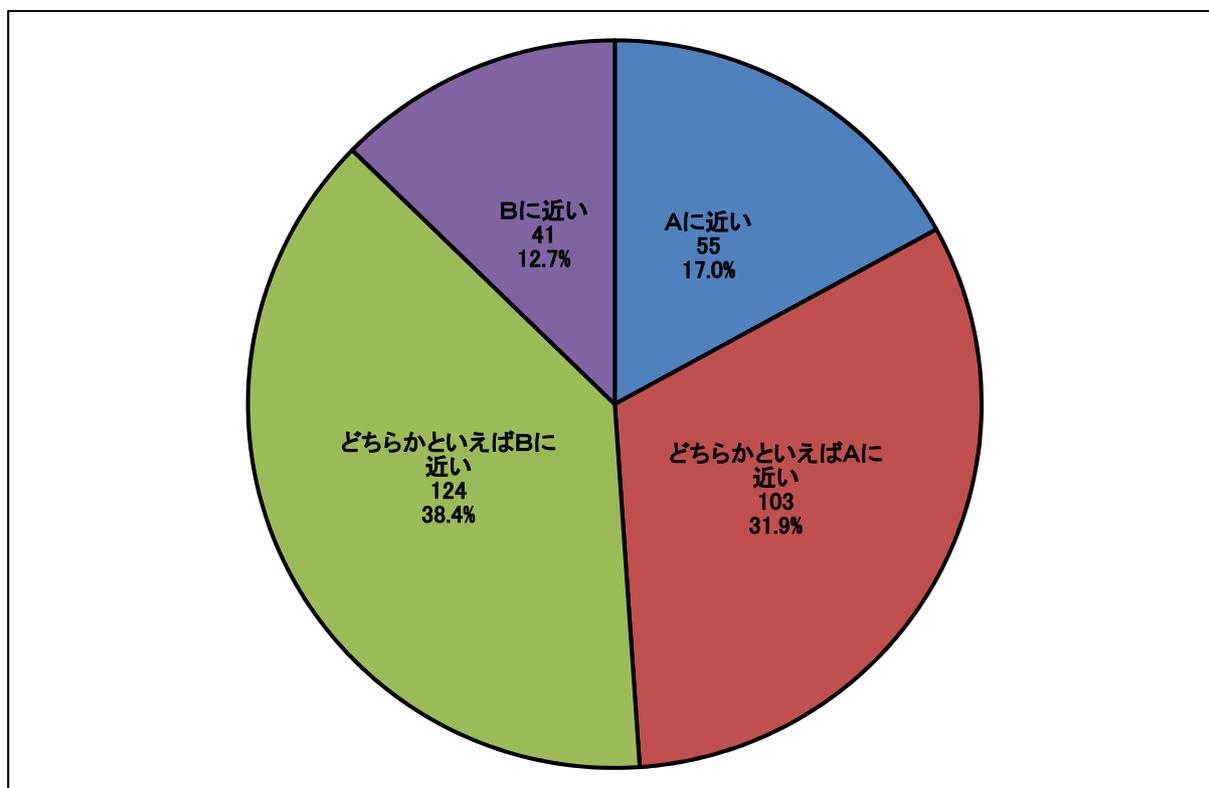
A	多少のリスクがあったとしても、魅力的な施設運営を行えるのであれば公民連携をもっと進めるべきである。
B	公共施設は安定的な運営を第一に考えるべきであり、施設の運営はできるだけ市が行うべきである。

- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。  
 ③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

### 6-1 調査結果

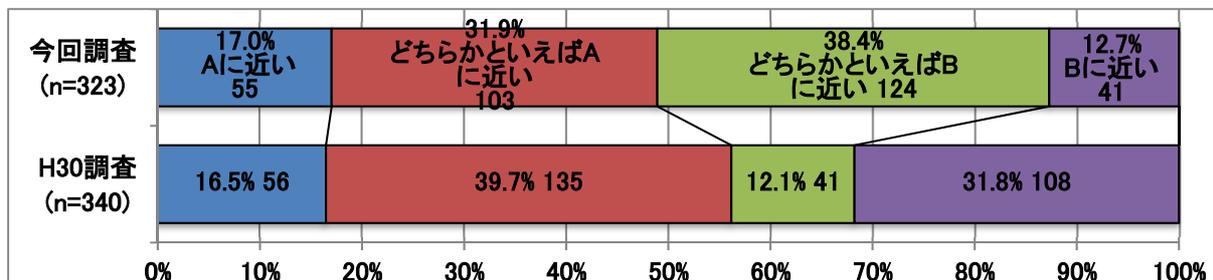
これまで本市が進めてきた「公民連携」に関する市民の意識を把握するために、前回調査から継続している質問です。

公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」と回答した人の割合は 17.0%で、「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合を合わせると 48.9%となり、「施設運営は市で行うべき」と考える人の割合を下回る結果となりました。



## 6-2 過去の調査との比較 (Web 調査)

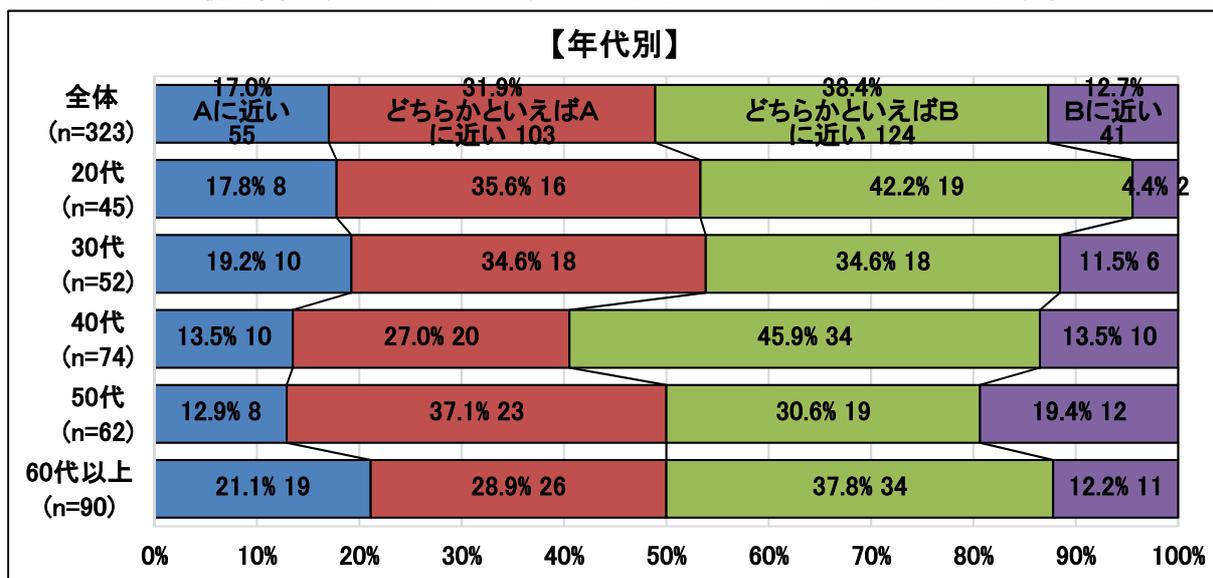
前回調査と比較すると、「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は 7.8 ポイント、「Bに近い」と答えた人の割合は 19.1 ポイント減少しています。「どちらかといえばBに近い」と答えた人の割合は 38.4%で、前回調査の割合を大きく上回る結果となっています。



## 6-3 年代別及び性別の比較

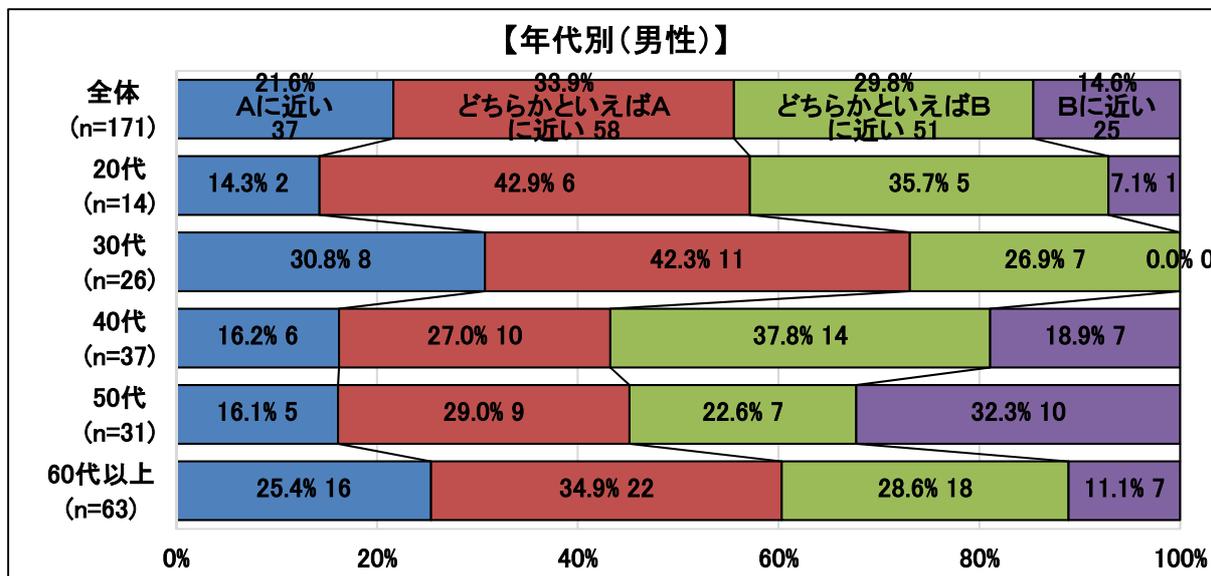
### (1) 年代別

「Aに近い」と回答した人の割合は 60 代以上が 21.1%と最も高く、40 代及び 50 代は 20 代及び 30 代よりも低くなっています。「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めると、公民連携の推進に賛成している人の割合は、30 代の 54.1%が最も高く、次いで 20 代、50 代及び 60 代以上となっています。



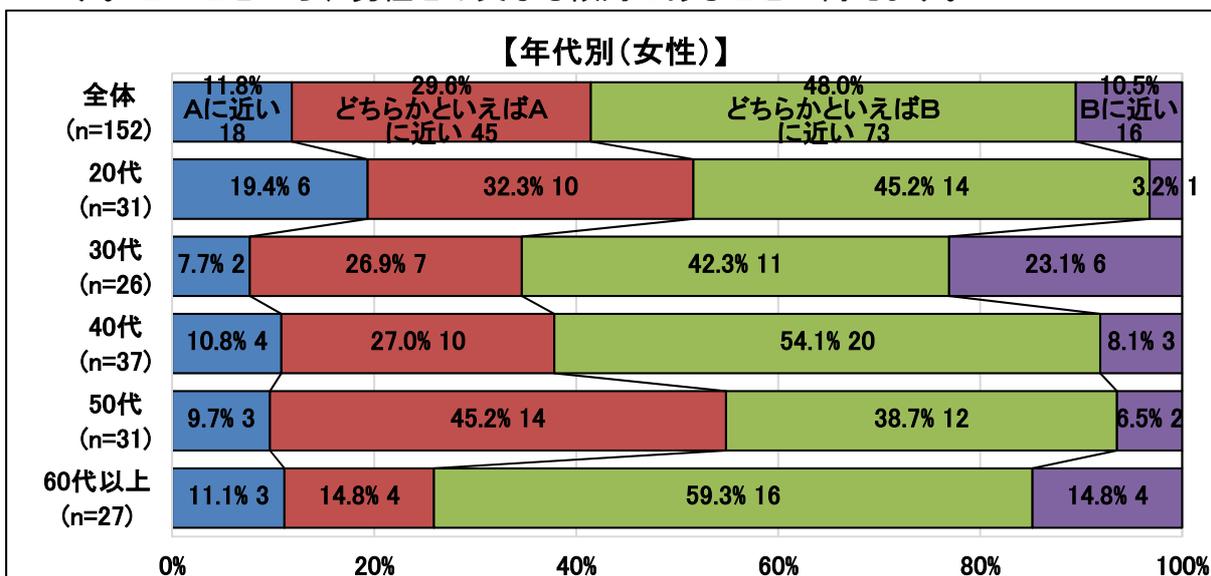
## (2) 男性

男女を合わせた全体の傾向と同じく、公民連携の推進に賛成している人の割合は、30代が最も高く73.1%となっています。また、「Aに近い」と回答した人の割合は、30代で30.8%、60代以上で25.4%と高くなっています。



## (3) 女性

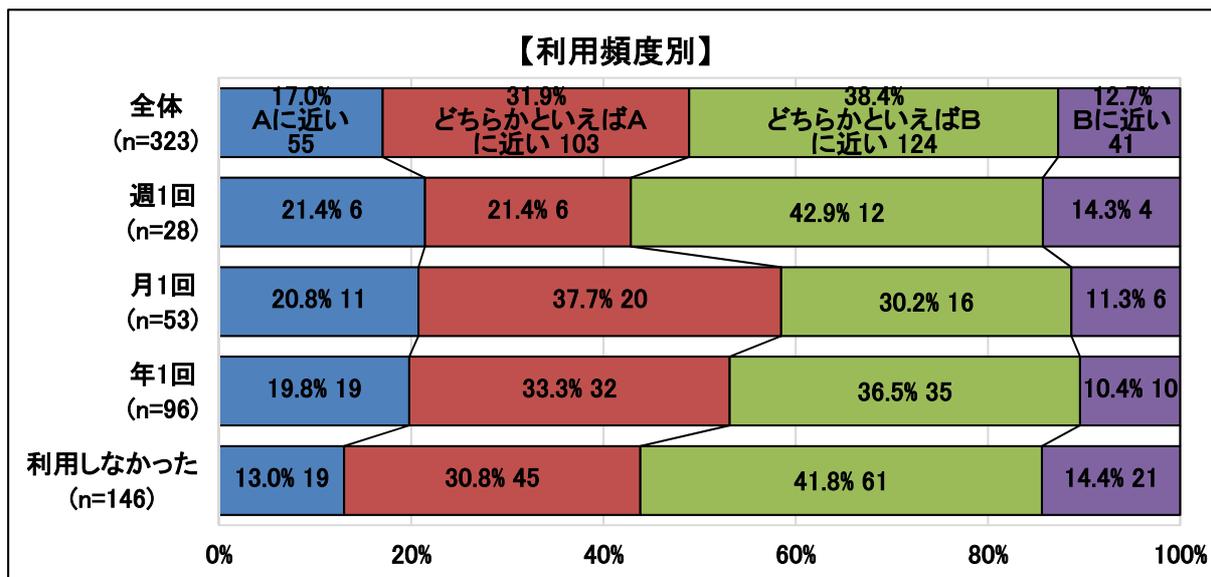
「Aに近い」と回答した人の割合は、20代が19.4%と高くなっていますが、「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合では、50代が54.9%と最も高く、次に20代の51.7%が続いています。このことから、男性とは異なる傾向であることが伺えます。



#### 6-4 公共施設利用頻度別の比較

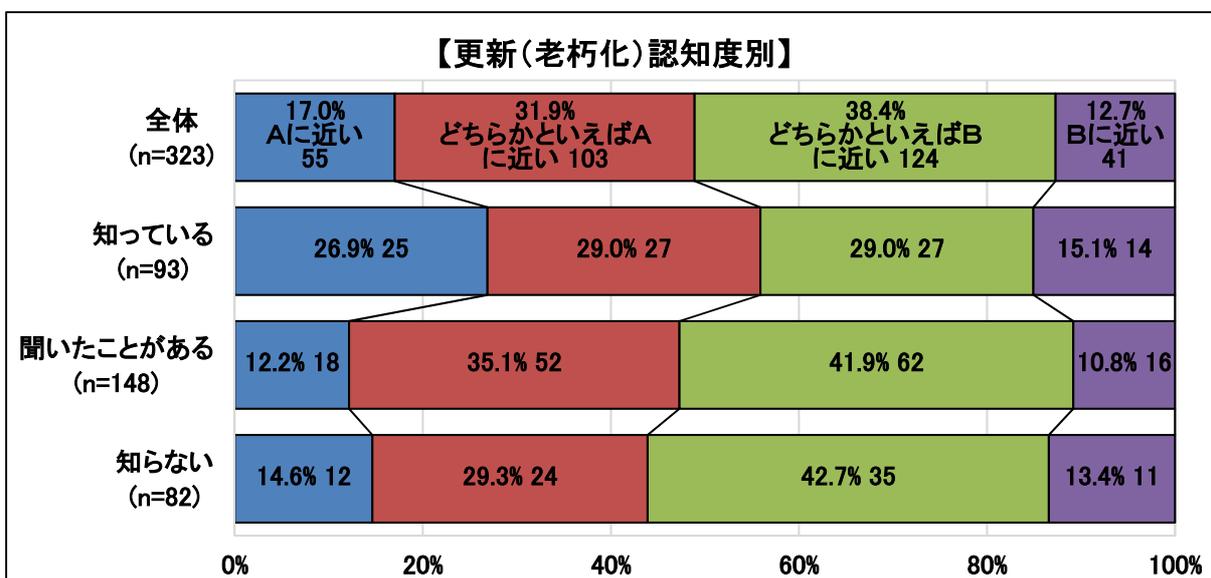
「Aに近い」と回答した人の割合は、「利用しなかった」人だけが13.0%と低く、それ以外の区分では20%前後となっています。

「どちらかといえばAに近い」と回答した人を含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合は、「月1回以上利用した」人が58.5%と最も高く、「年1回以上利用した」人が53.1%でしたが、「週1回以上利用した」人は42.8%と低くなりました。「利用しなかった」と答えた人の割合も43.8%なので、公民連携の推進に対する意識に関して、利用頻度の違いによる大きな差は見られませんでした。



#### 6-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

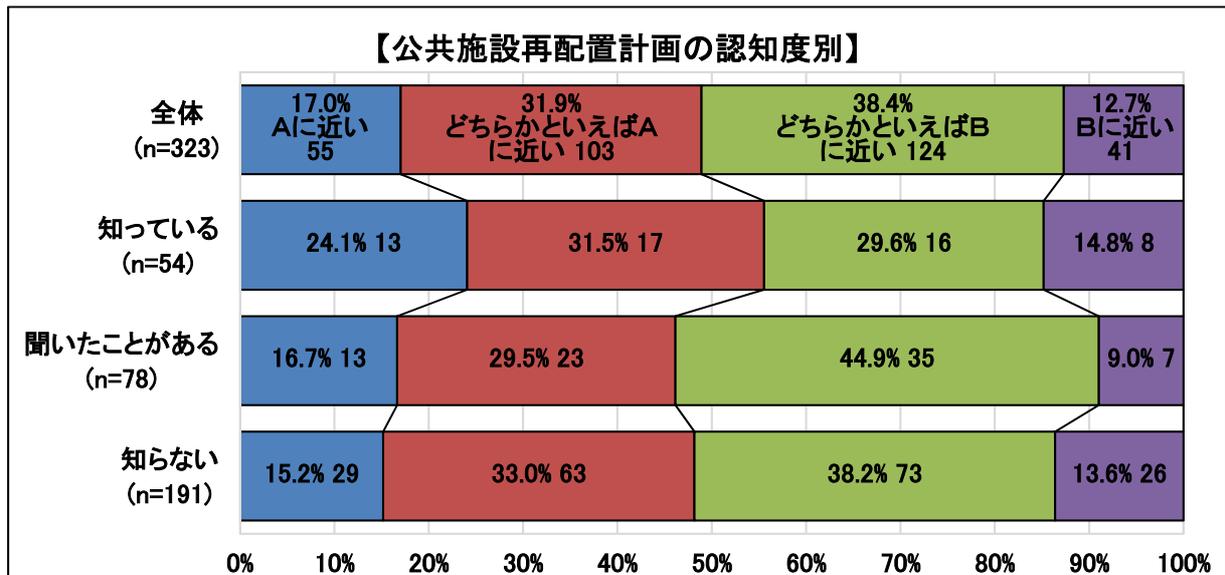
「公共施設の更新（老朽化）」を「知っている」人では、「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は合わせて55.9%で、公共施設更新問題の認知度と公民連携の推進に賛成している人の割合には、一定の関係性が見られます。しかし、「公共施設の更新（老朽化）」を「聞いたことがある」と「知らない」人の中には大きな差は見られませんでした。



### 6-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した、公民連携の推進に賛成している人の割合は、公共施設再配置の取組みを「知っている」人が55.6%と最も高くなっていますが、「知らない」人が「聞いたことがある」人を2.0ポイント上回っています。

公共施設再配置の取組みを「知っている」人は、再配置の内容を理解したうえで、また、「知らない」人は一般論的な立場から、公民連携の推進に賛成していると考えられます。



問7 秦野市では、将来にわたって公共施設を適正に維持していくため、平成29年10月に使用料の見直しを行いました。

このとき、従前の使用料等の2倍を引き上げの限度としたため、目標とする1/3の負担割合に達していない施設もあることから、将来的には再度の見直しを行うことも考えられます。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いもの一つを選んでください。

A	公共施設を適正に維持・管理していくためには、利用者が応分の負担をすべきであり、今後も実態に応じて使用料の見直しを行うべきである。
B	公共施設の適正維持も大切だが、昨年度の見直しにより多くの施設で使用料が引き上げられ、利用しにくくなった人もいるため、これ以上の見直しは行うべきではない。

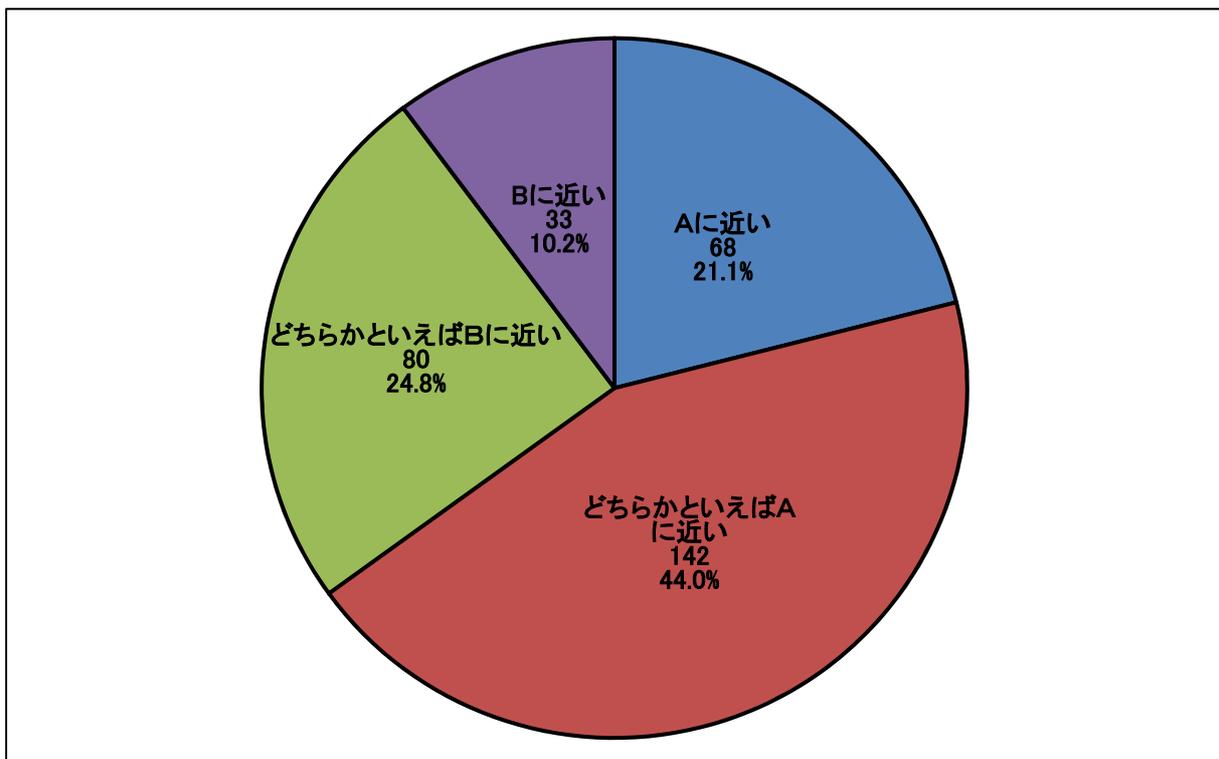
- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。  
 ③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

### 7-1 調査結果

平成29年(2017年)10月の使用料見直しに伴う今後の利用者負担のあり方の参考とするために、前回調査から継続している質問です。

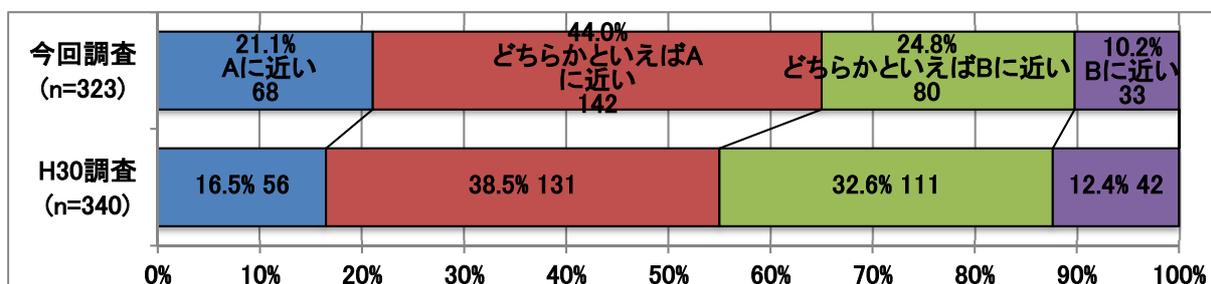
実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、合わせて65.1%で、再度の見直しに反対となる、「Bに近い」又は「どちらかといえばBに近い」と回答をした人の割合を30.1ポイント上回っています。

税負担の公平性を確保することについて、継続的な検討が必要と考えられます。



## 7-2 過去の調査との比較 (Web 調査)

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は 65.1%で、前回調査よりも 10.1 ポイント増加しています。

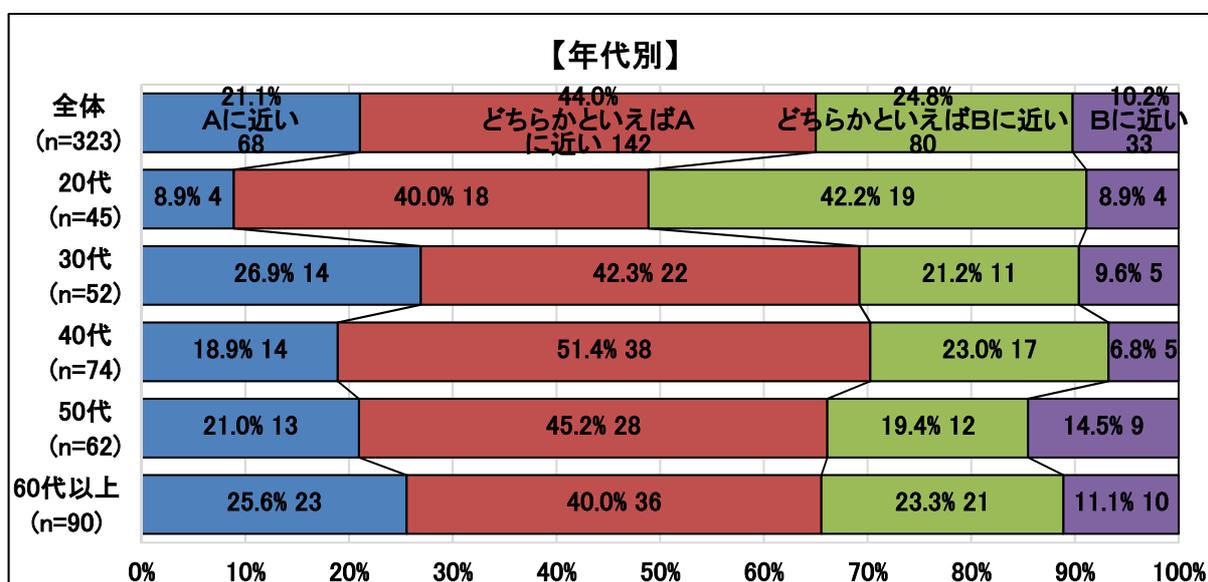


## 7-3 年代別及び性別の比較

### (1) 年代別

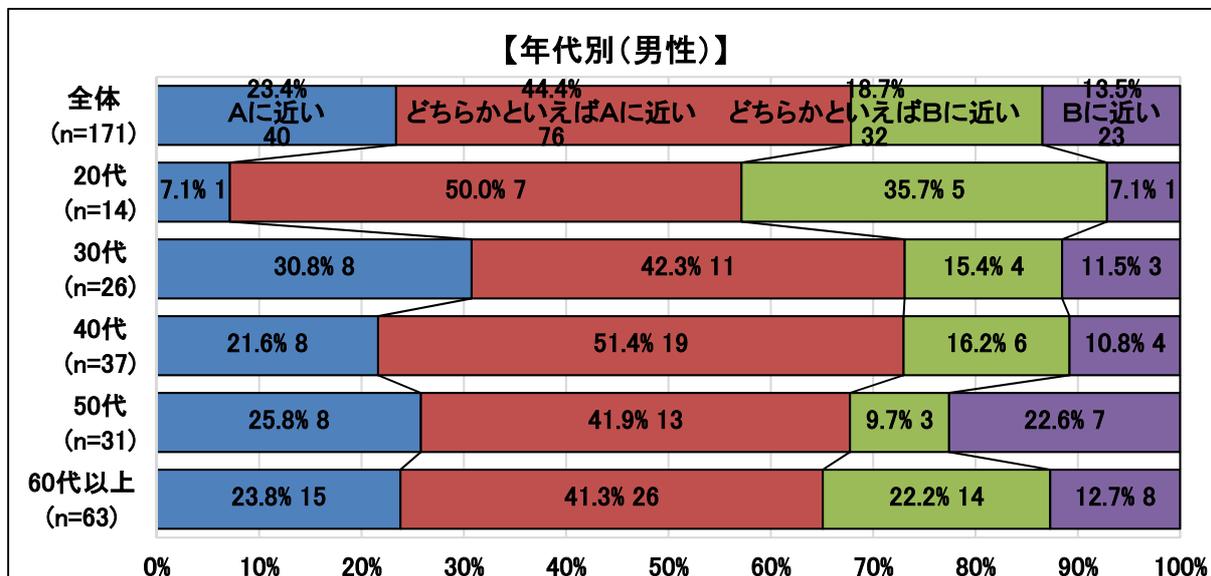
「Aに近い」と回答した人の割合は、30代が 26.9%と最も高く、20代が 8.9%と最も低くなっています。「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めた、実態に応じた使用料の見直しに賛成と回答した人は、30代以上の世代で 70%前後となっていますが、20代は 48.9%と著しく低い結果となりました。

実態に応じた使用料の見直しに関して、20代の若い世代で反対の割合が多い傾向となっています。このことから、30代以上の世代では賛成とする人が一定の割合を占めている一方、学生や就業年数の浅い社会人が多い20代では、使用料の見直しに対して慎重な姿勢であることが伺えます。



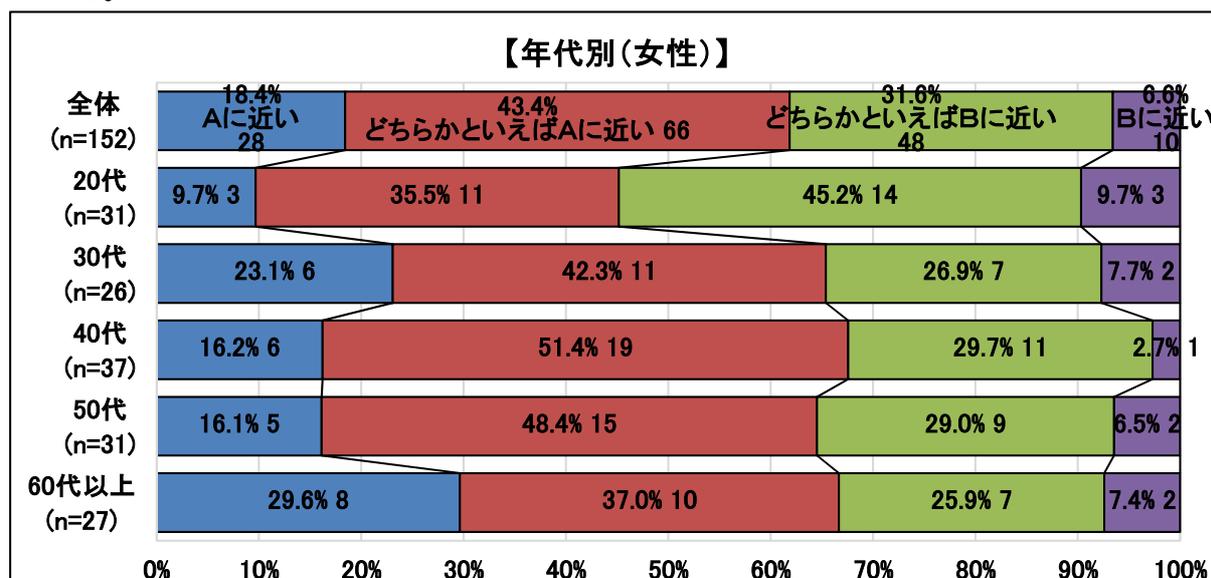
## (2) 男性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、30代及び40代が約70%と高くなっています。20代では、「Aに近い」と回答した人の割合は7.1%で、その他の世代と比べて著しく低い結果になっています。



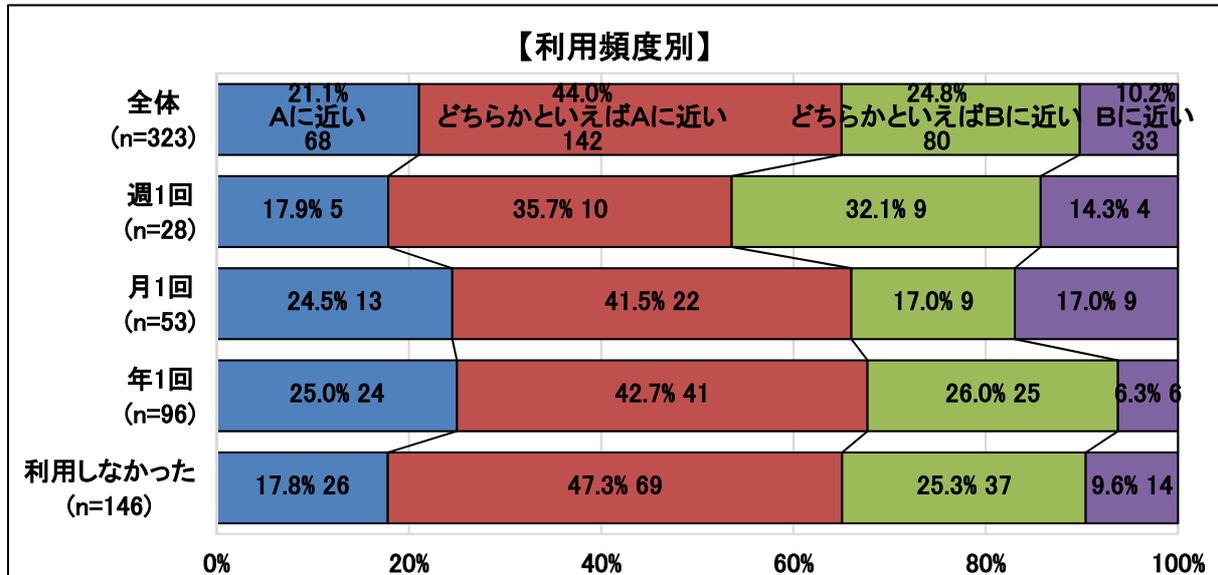
## (3) 女性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、40代が67.6%と最も高く、次に30代が65.4%と続いています。また、20代は男性と比較して11.9ポイント低く、45.2%で最も低くなっていますが、その他の世代では男性との間に大きな差は見られません。



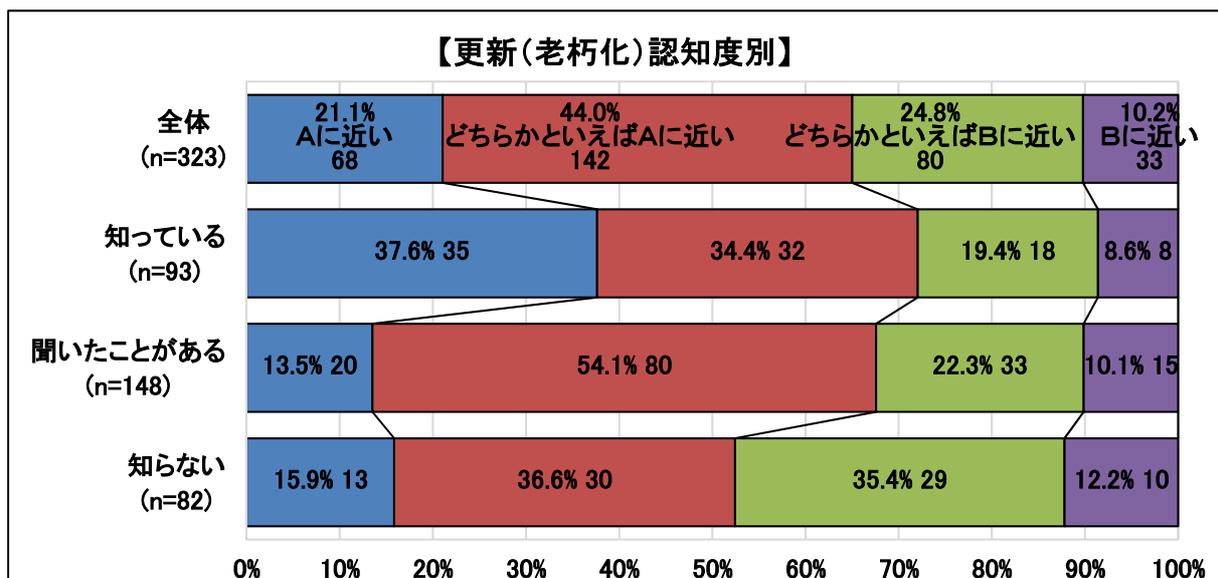
#### 7-4 公共施設の利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別で見ると、実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、「週1回以上利用した」人の割合だけが53.6%と低く、それ以外の区分では65%を超えています。公共施設を頻繁に利用する人ほど、実態に応じた使用料の見直しに対して慎重な考えを持っていることが伺えます。



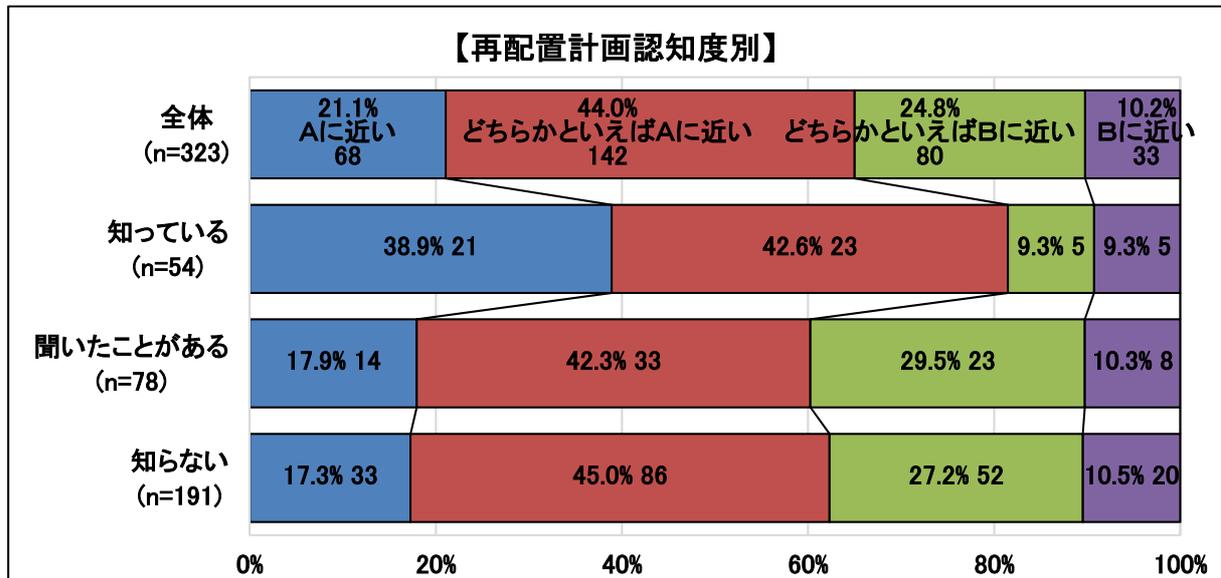
#### 7-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設更新問題を「知っている」人が、72.0%と最も高くなりました。公共施設更新問題の認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



### 7-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設再配置計画を「知っている」人が81.5%と最も高く、「知らない」人では前回調査から19.1ポイント上昇しています。7-5と同様に、公共施設再配置計画認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



問8 秦野市は、行政サービスに必要な財源を確保するため、「臨時財政対策債」という「借金」をしており、公共施設の維持に必要な財源の一部もこの「借金」でまかなわれています。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いもの一つを選んでください。

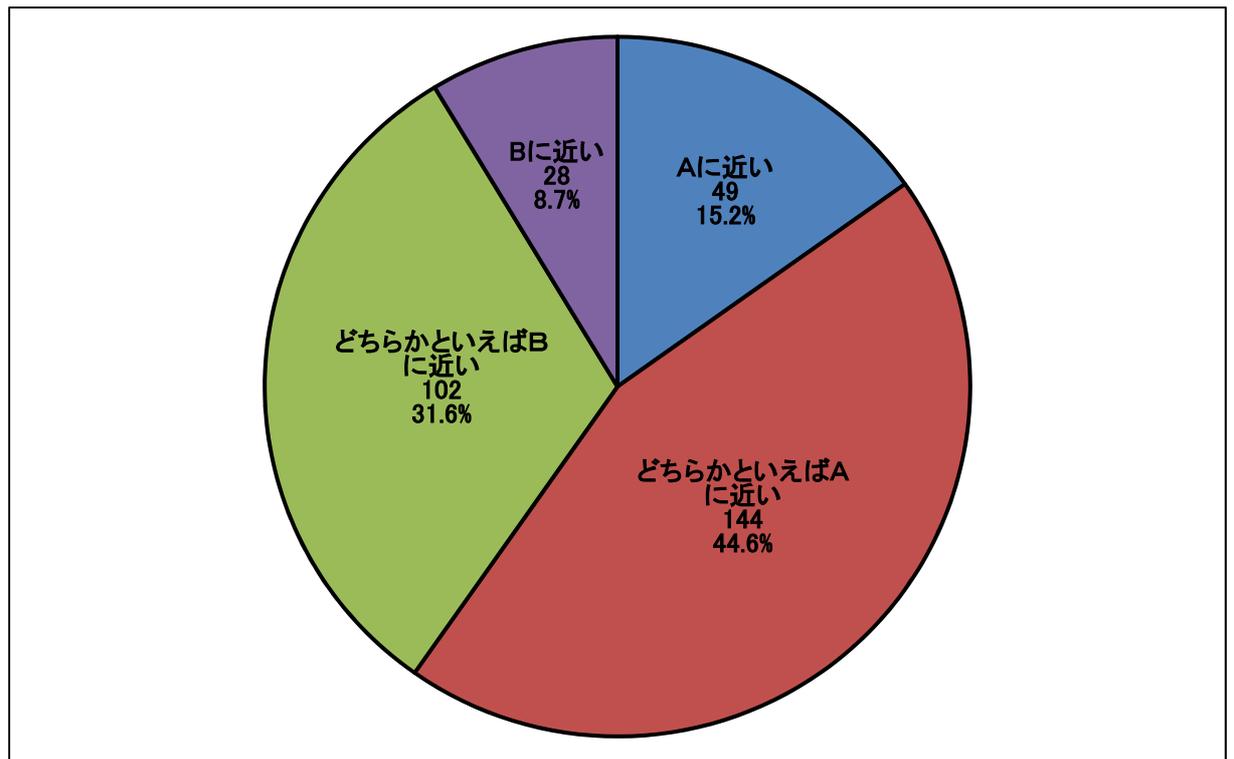
A	現在の公共施設サービスに係るコストは先送りしないで、できるだけ現在の市民の負担とすべきである。
B	現在の公共施設サービスに係るコストであっても、一部を将来の市民の負担としても仕方がない。

- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。  
 ③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

### 8-1 調査結果

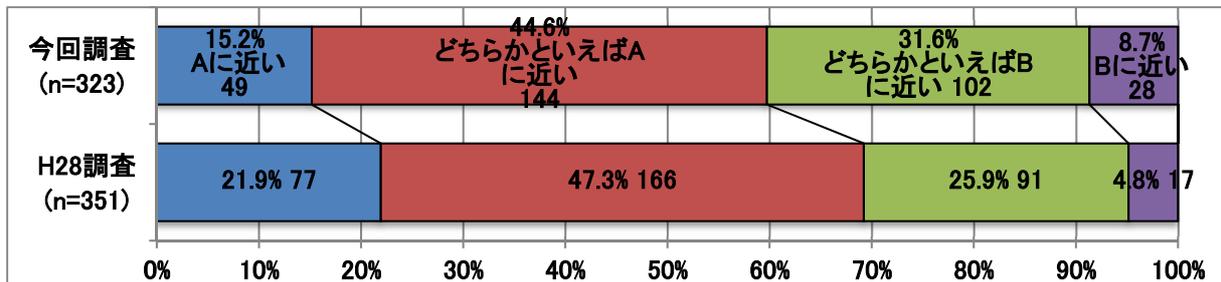
平成28年度（2016年度）調査及び今回調査で実施した質問です。

現在の市民のコスト負担に賛成となる、「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は、59.8%となりました。



## 8-2 過去の調査との比較 (Web 調査)

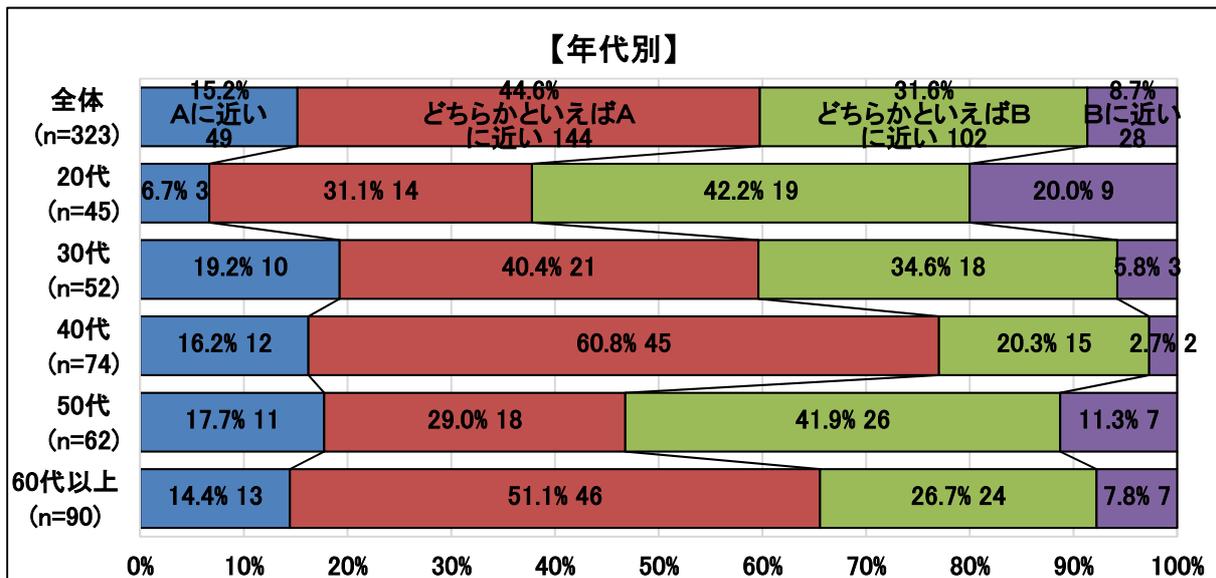
「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は 59.8%で、平成 28 年度調査よりも 9.4 ポイント減少しています。



## 8-3 年代別及び性別の比較

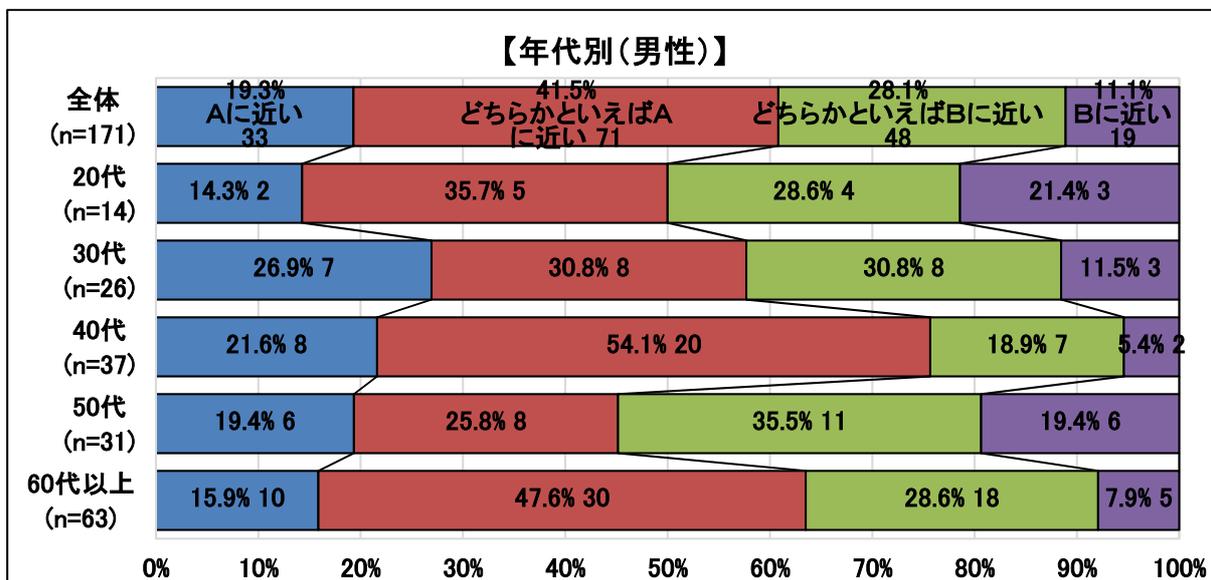
### (1) 年代別

「Aに近い」と答えた人の割合は 30 代が 19.2%と最も高く、50 代の 17.7%、40 代の 16.2%が続いていますが、20 代はその他の世代の半分以下と著しく低い結果になっています。「どちらかといえばAの考えに近い」と回答した人も含めると、現在の市民のコスト負担に賛成している人の割合は、40 代の 77.0%が最も高く、次いで 60 代以上の 65.5%となっています。30 代以上の子育て経験世代では、なるべく次世代への負担は避けたいと考える傾向が強いことが伺えます。



## (2) 男性

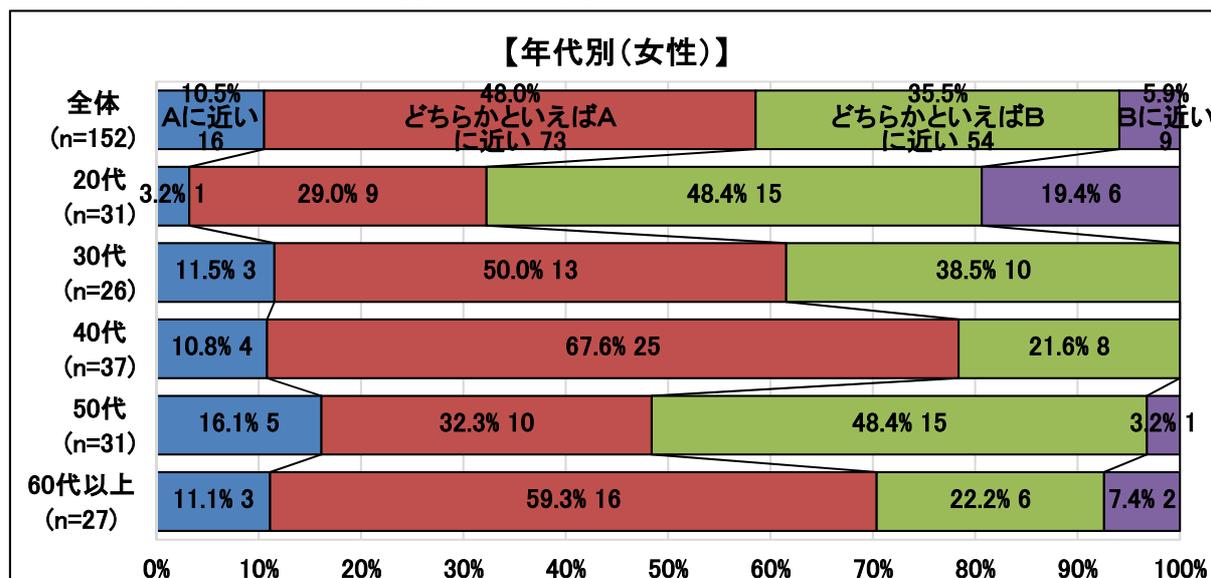
現在の市民のコスト負担に賛成となる、「Aの考えに近い」又は「どちらかといえばAの考えに近い」と答えた人の割合は、40代が最も高く75.7%となりました。また、男女を合わせた全体の割合と比べると、20代は50.0%で12.2ポイント上回っています。



## (3) 女性

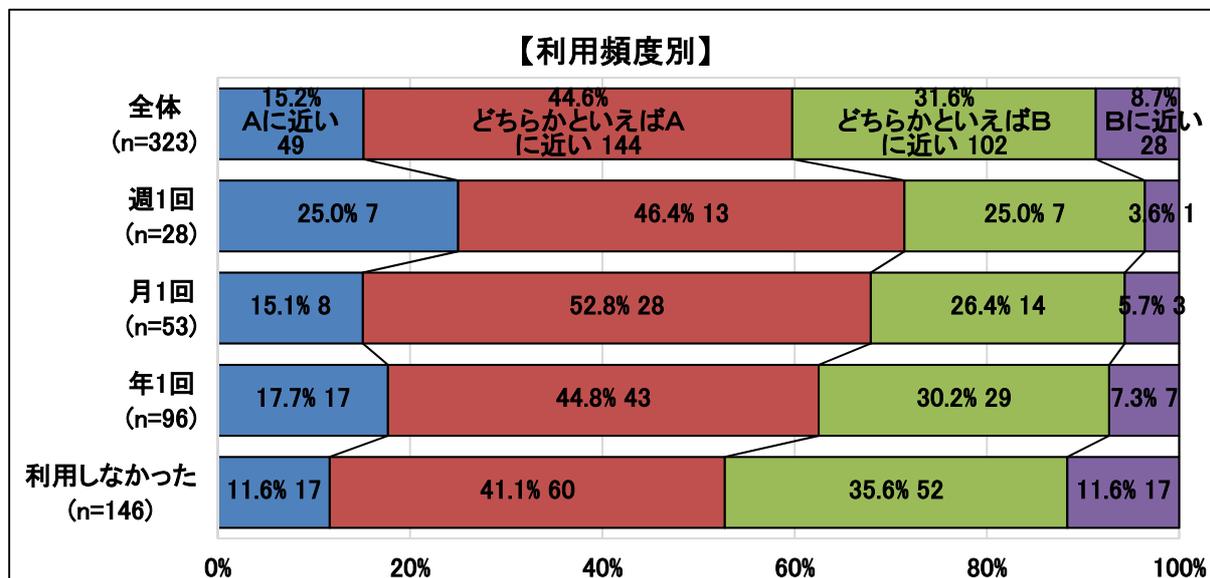
「Aに近い」と答えた人の割合は、男性と比べると全ての世代で低くなっていますが、中でも20代から40代では大きな差が見られます。

「どちらかといえばAの考えに近い」と答えた人も含めると、現在の市民のコスト負担に賛成となる人の割合は、男性と同じく40代の78.4%が最も高く、次いで60代以上の70.4%が続いています。



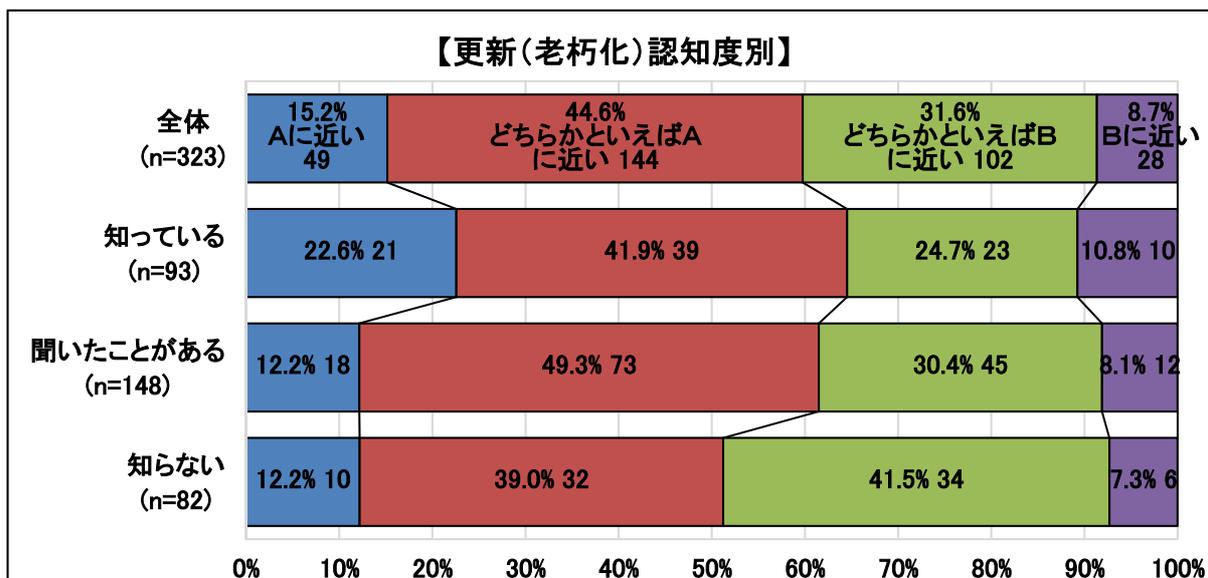
### 8-4 公共施設の利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度が高くなるほど、現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合も高くなる傾向が見られます。「週に1回利用した」と回答した人の割合が71.4%と最も高く、「年に1回利用した」人でも65.2%と全体を2.7ポイント上回っています。



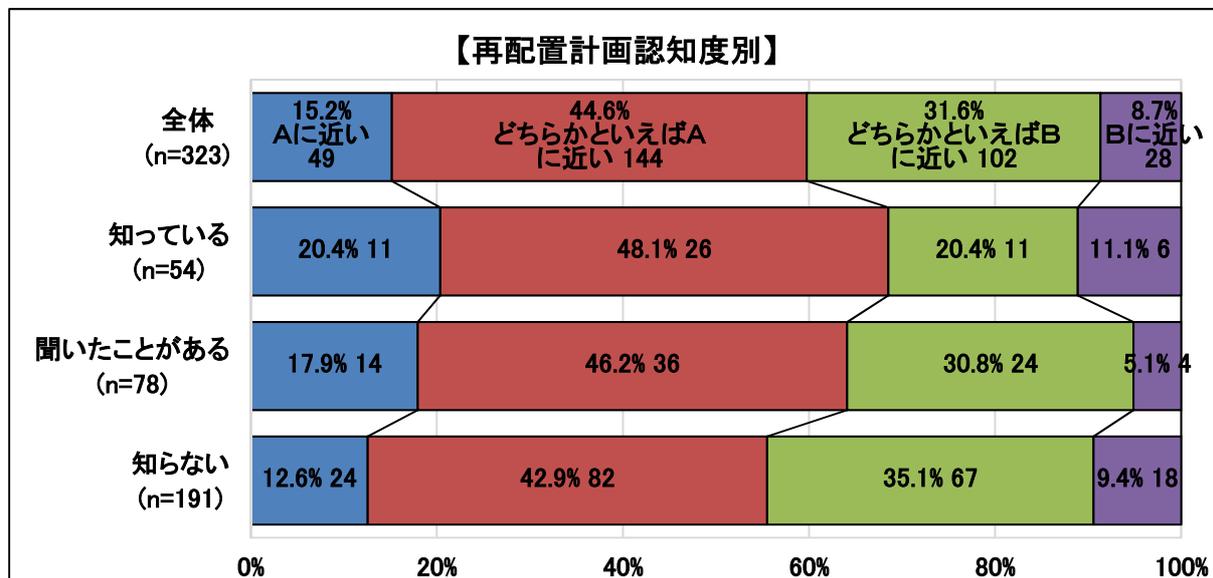
### 8-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設の更新（老朽化）について「知っている」人が、64.5%と最も高くなりました。公共施設の更新（老朽化）認知度と市民のコスト負担に対する考え方には関連性があることが伺えます。



### 8-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設再配置計画を「知っている」と答えた人が、68.56%と最も高くなりました。8-5と同様に、公共施設再配置計画の認知度と市民のコスト負担に対する考え方には関連性があることが伺えます。



問9 不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持するべきと考える公共施設を5つ選び、優先順位を付けてください。

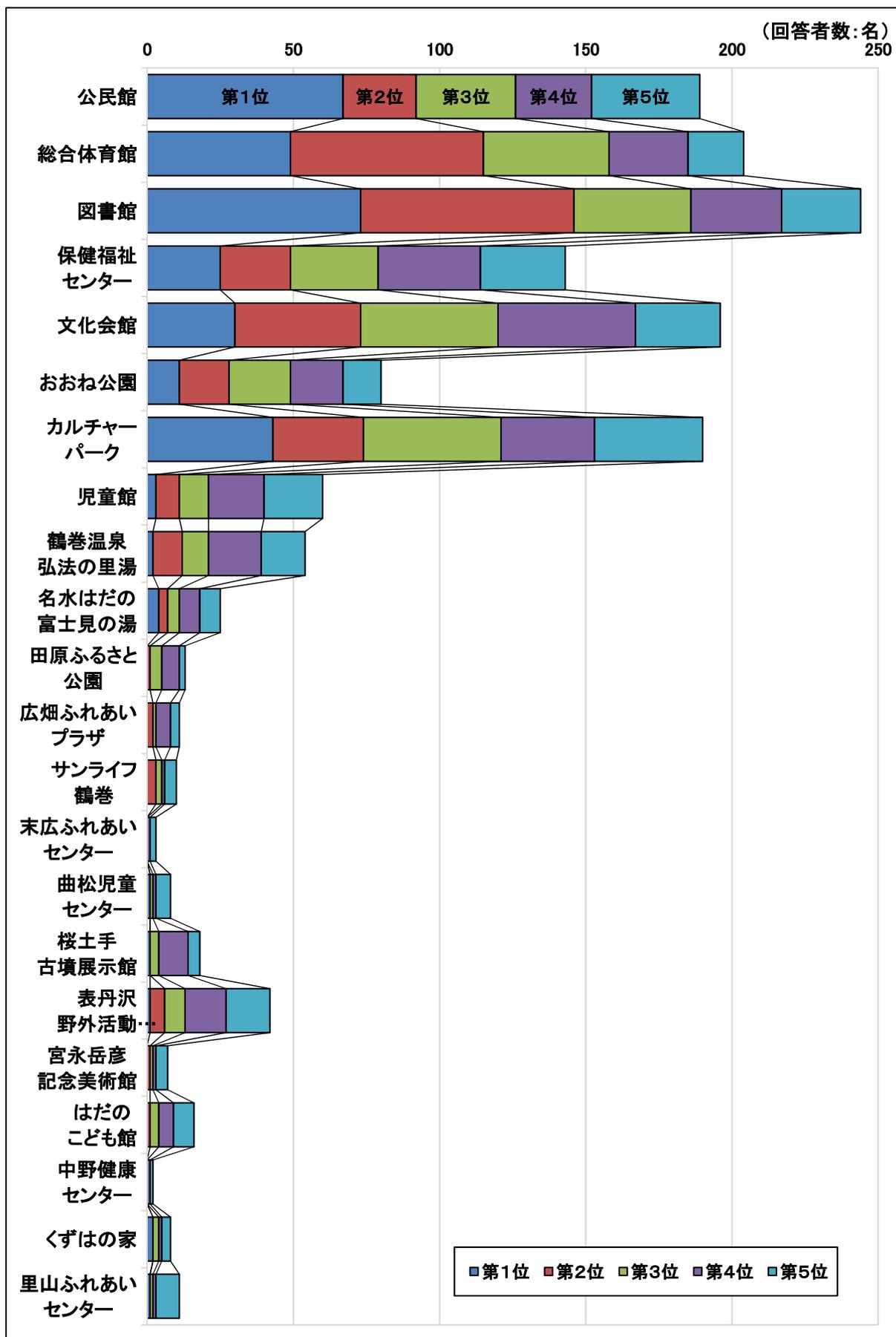
- |                    |               |             |
|--------------------|---------------|-------------|
| ① 各地区の公民館          | ② 総合体育館       | ③ 図書館       |
| ④ 保健福祉センター         | ⑤ 文化会館        | ⑥ おおね公園     |
| ⑦ カルチャーパーク(中央運動公園) | ⑧ 各地区の児童館     | ⑨ 鶴巻温泉弘法の里湯 |
| ⑩ 名水はだの富士見の湯       | ⑪ 田原ふるさと公園    | ⑫ 広畑ふれあいプラザ |
| ⑬ サンライフ鶴巻          | ⑭ 末広ふれあいセンター  | ⑮ 曲松児童センター  |
| ⑯ 桜土手古墳展示館         | ⑰ 表丹沢野外活動センター | ⑱ 宮永岳彦記念美術館 |
| ⑲ はだのこども館          | ⑳ 中野健康センター    | ㉑ くずはの家     |
| ㉒ 里山ふれあいセンター       | ㉓ この中にはない     |             |

### 9-1 調査結果

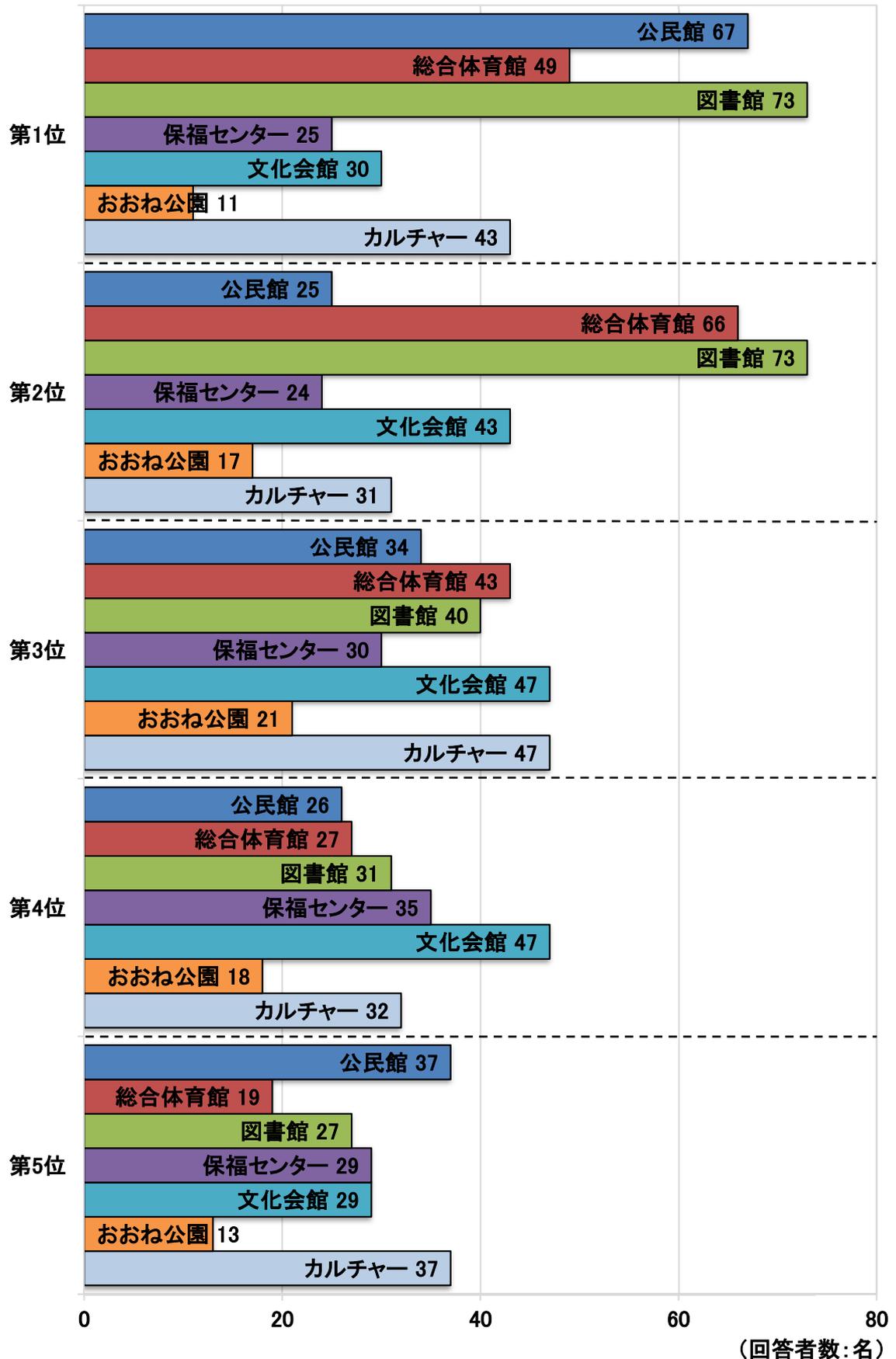
第1位と回答された割合が最も高かった施設は、過去の調査結果と同じく「図書館」となりました。以下、「各地区の公民館」、「総合体育館」、「カルチャーパーク(中央運動公園)」、「文化会館」となっています。

また、第1位と回答した人が10名以上となった施設は、「各地区の公民館」、「総合体育館」、「図書館」、「保健福祉センター」、「文化会館」、「おおね公園」及び「カルチャーパーク(中央運動公園)」の7施設となっています。

施設名	順位		第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
1 各地区の公民館	67	20.7%	25	7.7%	34	10.5%	26	8.0%	37	11.5%		
2 総合体育館	49	15.2%	66	20.4%	43	13.3%	27	8.4%	19	5.9%		
3 図書館	73	22.6%	73	22.6%	40	12.4%	31	9.6%	27	8.4%		
4 保健福祉センター	25	7.7%	24	7.4%	30	9.3%	35	10.8%	29	9.0%		
5 文化会館	30	9.3%	43	13.3%	47	14.6%	47	14.6%	29	9.0%		
6 おおね公園	11	3.4%	17	5.3%	21	6.5%	18	5.6%	13	4.0%		
7 カルチャーパーク(中央運動公園)	43	13.3%	31	9.6%	47	14.6%	32	9.9%	37	11.5%		
8 各地区の児童館	3	0.9%	8	2.5%	10	3.1%	19	5.9%	20	6.2%		
9 鶴巻温泉弘法の里湯	2	0.6%	10	3.1%	9	2.8%	18	5.6%	15	4.6%		
10 名水はだの富士見の湯	4	1.2%	3	0.9%	4	1.2%	7	2.2%	7	2.2%		
11 田原ふるさと公園	0	0.0%	1	0.3%	4	1.2%	6	1.9%	2	0.6%		
12 広畑ふれあいプラザ	0	0.0%	2	0.6%	1	0.3%	5	1.5%	3	0.9%		
13 サンライフ鶴巻	0	0.0%	3	0.9%	2	0.6%	1	0.3%	4	1.2%		
14 末広ふれあいセンター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%		
15 曲松児童センター	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	5	1.5%		
16 桜土手古墳展示館	1	0.3%	0	0.0%	3	0.9%	10	3.1%	4	1.2%		
17 表丹沢野外活動センター	1	0.3%	5	1.5%	7	2.2%	14	4.3%	15	4.6%		
18 宮永岳彦記念美術館	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%		
19 はだのこども館	0	0.0%	1	0.3%	3	0.9%	5	1.5%	7	2.2%		
20 中野健康センター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%		
21 くずはの家	2	0.6%	0	0.0%	2	0.6%	1	0.3%	3	0.9%		
22 里山ふれあいセンター	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	8	2.5%		
23 この中にはない	10	3.1%	10	3.1%	13	4.0%	16	5.0%	32	9.9%		



【1位回答10名以上の7施設の回答順位内訳】



## 9-2 得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、優先的に維持すべきと考える施設の第1位は「図書館」、第2位は「総合体育館」、第3位は「各地区の公民館」となりました。

### 【算式】

各施設の得点＝第1位回答数×5点＋第2位回答数×4点…第5位回答数×1点

「第1位」と回答した人が10名以上となった7施設が、得点化の集計においても上位を占める結果となっています。

順位・変動	施設名	得点
1 ←	図書館 <sup>(1)</sup>	866
2 ←	総合体育館 <sup>(3)</sup>	711
3 ↑	各地区の公民館 <sup>(2)</sup>	626
4 ↓	文化会館 <sup>(5)</sup>	586
5 ←	カルチャーパーク(中央運動公園) <sup>(4)</sup>	581
6 ←	保健福祉センター <sup>(6)</sup>	410
7 ←	おおね公園 <sup>(7)</sup>	235
8 ←	各地区の児童館	135
9 ←	鶴巻温泉弘法の里湯	128
10 ↑	表丹沢野外活動センター	89
11 ↓	名水はだの富士見の湯	65
12 ↑	桜土手古墳展示館	38
13 ↑	田原ふるさと公園	30
14 ↓	はだのこども館	30
15 ↑	広畑ふれあいプラザ	24
16 ←	サンライフ鶴巻	24
17 ↓	くずはの家	21
18 ↑	里山ふれあいセンター	18
19 ←	曲松児童センター	15
20 ↓	宮永岳彦記念美術館	13
21 ↑	末広ふれあいセンター	4
22 ↓	中野健康センター	3

### 【凡 例】

←：前回と順位が同じもの

↑：前回より順位が上がったもの

↓：前回より順位が下がったもの

(数字)：第1位回答が10名以上だった施設とその順位

【集計結果内訳】

施設名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	得点	順位
各地区の公民館	67	25	34	26	37	626	3
総合体育館	49	66	43	27	19	711	2
図書館	73	73	40	31	27	866	1
保健福祉センター	25	24	30	35	29	410	6
文化会館	30	43	47	47	29	586	4
おおね公園	11	17	21	18	13	235	7
カルチャーパーク（中央運動公園）	43	31	47	32	37	581	5
各地区の児童館	3	8	10	19	20	135	8
鶴巻温泉弘法の里湯	2	10	9	18	15	128	9
名水はだの富士見の湯	4	3	4	7	7	65	11
田原ふるさと公園	0	1	4	6	2	30	13
広畑ふれあいプラザ	0	2	1	5	3	24	15
サンライフ鶴巻	0	3	2	1	4	24	16
末広ふれあいセンター	0	0	0	1	2	4	21
曲松児童センター	1	0	1	1	5	15	19
桜土手古墳展示館	1	0	3	10	4	38	12
表丹沢野外活動センター	1	5	7	14	15	89	10
宮永岳彦記念美術館	0	1	1	1	4	13	20
はだのこども館	0	1	3	5	7	30	14
中野健康センター	0	0	0	1	1	3	22
くずはの家	2	0	2	1	3	21	17
里山ふれあいセンター	1	0	1	1	8	18	18
この中にはない	10	10	13	16	32	—	—

### 9-3 過去の調査(Web 調査)との比較

「図書館」は、これまでの6回の調査全てで第1位となっています。上位を占める7つの施設は、その順位に多少の変動はあるものの、構成は変わっていません。

第8位以下の施設については、得点差が小さく、回答者数のわずかな差で順位が変動しますが、前回調査と比較して2ランク以上順位が上がった施設は田原ふるさと公園、広畑ふれあいプラザ、里山ふれあいセンターの3施設となっています。逆に2ランク以上下がった施設は、はだのこども館、くずはの家、宮永岳彦美術館の3施設でした。

順位	施設名	得点	前回調査	H28調査	H26調査	H24調査	H21調査
1 ←	図書館	866	1 ←	1 ←	1 ←	1 ←	1
2 ←	総合体育館	711	2 ←	2 ←	2 ←	2 ↑	4
3 ↑	各地区の公民館	626	4 ←	4 ↓	3 ↑	4 ↑	5
4 ↓	文化会館	586	3 ←	3 ↑	5 ↓	3 ←	3
5 ←	カルチャーパーク(中央運動公園)	581	5 ←	5 ↓	4 ↑	5 ↓	2
6 ←	保健福祉センター	410	6 ←	6 ←	6 ←	6 ↑	7
7 ←	おおね公園	235	7 ←	7 ←	7 ←	7 ↓	6
8 ←	各地区の児童館	135	8 ↑	9 ←	9 ←	9 ←	9
9 ←	鶴巻温泉弘法の里湯	128	9 ↓	8 ←	8 ←	8 ←	8
10 ↑	表丹沢野外活動センター	89	11 ↓	10 ←	10 ←	10 ↑	11
11 ↓	名水はだの富士見の湯	65	10 -	-	-	-	-
12 ↑	桜土手古墳展示館	38	13 ↓	11 ↑	15 ↓	11 ↓	10
13 ↑	田原ふるさと公園	30	15 ↓	12 ←	12 ↑	17 ↓	12
14 ↓	はだのこども館	30	12 ←	12 ↓	11 ↑	14 ↑	20
15 ↑	広畑ふれあいプラザ	24	17 ↓	16 ↓	14 ↓	12 ↑	15
16 ←	サンライフ鶴巻	24	16 ↓	15 ↓	13 ↑	15 ↓	14
17 ↓	くずはの家	21	14 ←	14 ↑	16 ↓	13 ←	13
18 ↑	里山ふれあいセンター	18	20 ↓	18 ↑	19 ↓	16 ↑	19
19 ←	曲松児童センター	15	19 ↓	17 ←	17 ↑	21 ↓	20
20 ↓	宮永岳彦記念美術館	13	18 ↑	20 ↑	21 ↓	20 ↓	17
21 ↑	末広ふれあいセンター	4	22 ↓	21 ↓	20 ↑	22 ←	22
22 ↓	中野健康センター	3	21 ↓	19 ↓	18 ↑	18 ←	18

#### 【凡例】

- ← : 前回と順位が同じもの
- ↑ : 前回より順位が上がったもの
- ↓ : 前回より順位が下がったもの

#### 9-4 性別及び年代別の比較

「図書館」は、20代及び40代の男性、30代の女性以外で第1位となっています。スポーツ系の施設のうち、「総合体育館」は、若い世代の支持が高い傾向がありますが、「カルチャーパーク（中央運動公園）」は、若い世代の特に女性を中心として支持が高くなっています。また、「保健福祉センター」は、60代以上の女性の支持が高くなっています。

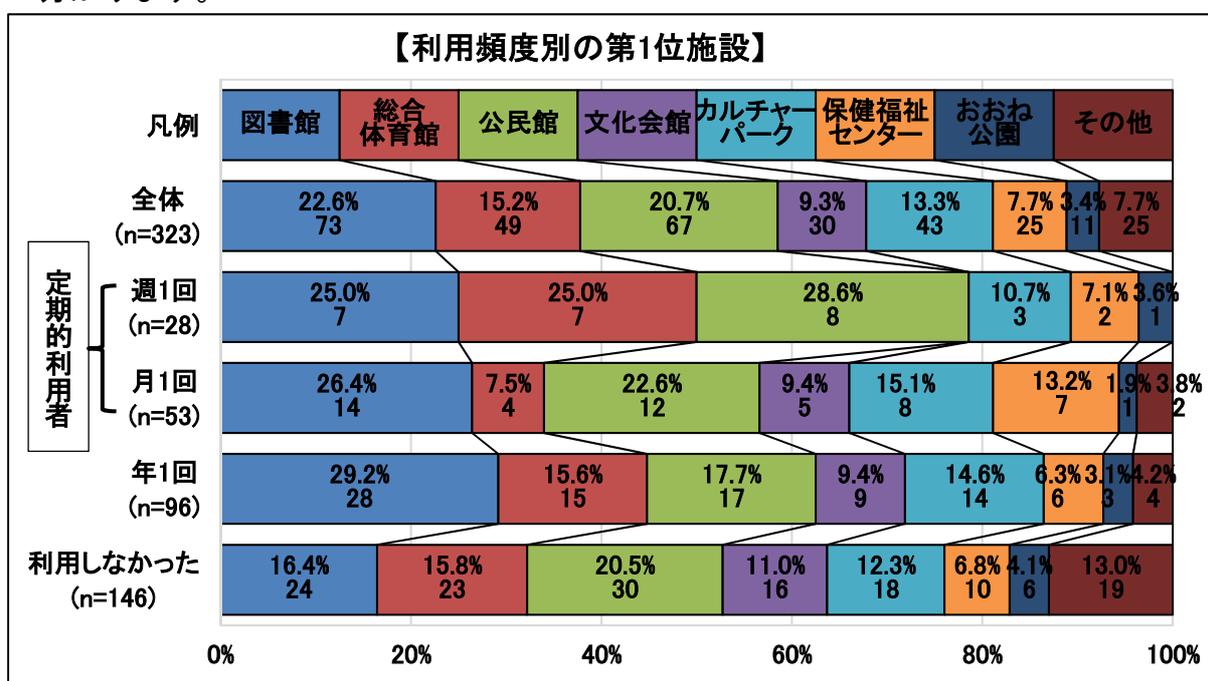
年代	性別	男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20代	1	総合体育館	34	図書館	75	図書館	109
	2	図書館	34	総合体育館	66	総合体育館	100
	3	公民館	33	カルチャーパーク(中央運動公園)	61	カルチャーパーク(中央運動公園)	77
	4	文化会館	24	文化会館	52	文化会館	76
	5	保健福祉センター	19	保健福祉センター	35	公民館	63
	6	カルチャーパーク(中央運動公園)	16	公民館	30	保健福祉センター	54
30代	1	図書館	78	総合体育館	70	総合体育館	146
	2	総合体育館	76	図書館	62	図書館	140
	3	公民館	52	公民館	46	公民館	98
	4	カルチャーパーク(中央運動公園)	46	カルチャーパーク(中央運動公園)	42	カルチャーパーク(中央運動公園)	88
	5	保健福祉センター	38	文化会館	40	保健福祉センター	75
	6	文化会館	32	保健福祉センター	37	文化会館	72
40代	1	総合体育館	95	図書館	99	図書館	190
	2	図書館	91	カルチャーパーク(中央運動公園)	77	総合体育館	159
	3	文化会館	75	公民館	73	文化会館	145
	4	カルチャーパーク(中央運動公園)	60	文化会館	70	カルチャーパーク(中央運動公園)	137
	5	公民館	57	総合体育館	64	公民館	130
	6	保健福祉センター	39	保健福祉センター	33	保健福祉センター	72
50代	1	図書館	91	図書館	97	図書館	188
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	70	公民館	84	公民館	148
	3	公民館	64	総合体育館	71	総合体育館	129
	4	総合体育館	58	文化会館	56	カルチャーパーク(中央運動公園)	116
	5	文化会館	39	カルチャーパーク(中央運動公園)	46	文化会館	95
	6	保健福祉センター	37	保健福祉センター	39	保健福祉センター	76
60代以上	1	図書館	166	図書館	73	図書館	239
	2	文化会館	141	保健福祉センター	63	文化会館	198
	3	公民館	138	文化会館	57	公民館	187
	4	総合体育館	136	公民館	49	総合体育館	178
	5	カルチャーパーク(中央運動公園)	116	カルチャーパーク(中央運動公園)	47	カルチャーパーク(中央運動公園)	163
	6	保健福祉センター	69	総合体育館	42	保健福祉センター	132
合計	1	図書館	460	図書館	406	図書館	866
	2	総合体育館	399	総合体育館	313	総合体育館	712
	3	公民館	344	公民館	282	公民館	626
	4	文化会館	311	文化会館	275	文化会館	586
	5	カルチャーパーク(中央運動公園)	308	カルチャーパーク(中央運動公園)	273	カルチャーパーク(中央運動公園)	581
	6	保健福祉センター	202	保健福祉センター	207	保健福祉センター	409

### 9-5 公共施設の利用頻度との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、公民館、文化会館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、公共施設の利用頻度別に「優先的に維持すべき施設」の第 1 位の施設を集計しました。

利用頻度が高い人ほど、実際の利用者数も多い上位 7 施設のいずれかを第 1 位と回答する人が多く、定期的利用者では「週 1 回以上利用した」人は 100%、「月 1 回以上利用した」人は 96.2%になっています。このことから、自身が日ごろから利用している施設を第 1 位とする傾向が伺えます。

また、「利用しなかった」と回答した人でも、上位 7 施設が第 1 位に占める割合は 87.0%と非常に高く、全体でも 92.3%となっています。この結果から、多くの市民が優先的に維持したいと考える施設は、この上位 7 施設のいずれかであることが分かります。

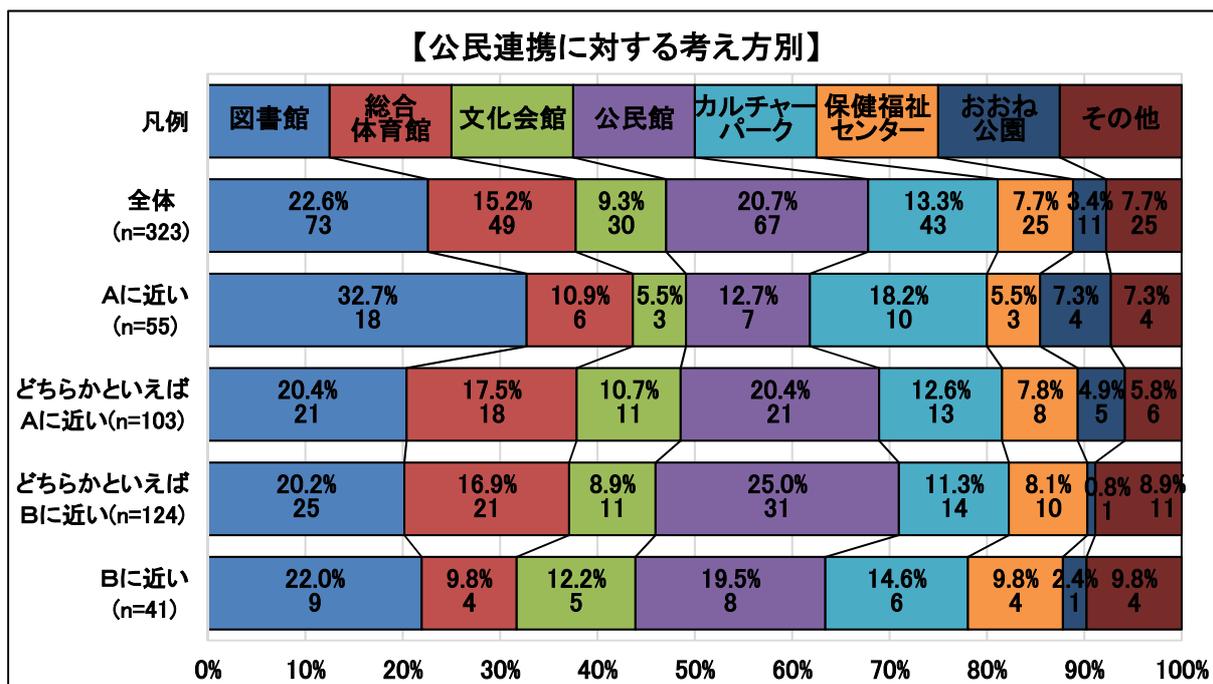


### 9-6 公民連携の推進に対する考え方との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、公民館、文化会館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、公民連携の推進に対する考え方別に「優先的に維持すべき施設」の第 1 位の施設を集計しました。

上位 7 施設の割合では、公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した人は、反対となる「どちらかといえばBに近い」及び「Bに近い」と回答した人よりも、「図書館」及び「おおね公園」の割合が高く、「公民館」の割合が低い傾向が見られます。

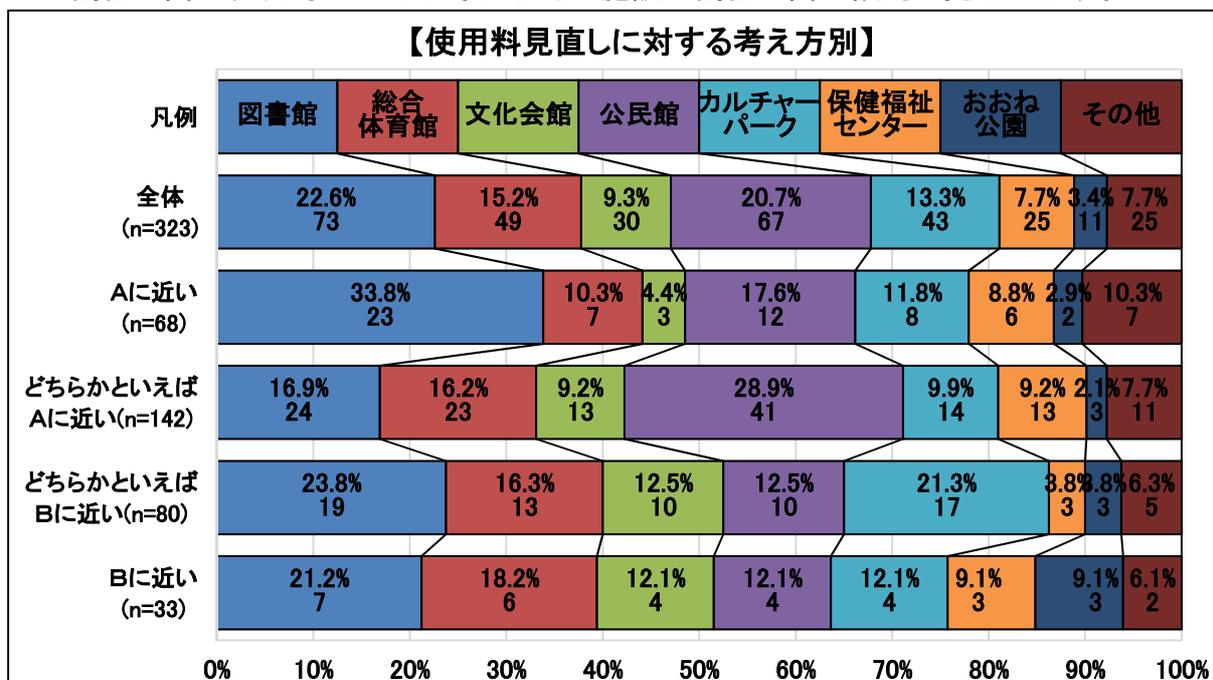
また、上位 7 施設以外の「その他の施設」を第 1 位と回答した人の割合は、公民連携の推進に反対している人では、賛成の人よりも 5.6 ポイント高い 18.7%となっており、反対している人は、比較的小規模な施設を優先的に維持したいと考える傾向が伺えます。



### 9-7 使用料見直しに対する考え方との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、公民館、文化会館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、使用料見直しに対する考え方別に、「優先的に維持すべき施設」の第 1 位の施設を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した人では、「図書館」、「公民館」及び「保健福祉センター」の割合が高く、反対の人ではそれ以外の施設の割合が高い傾向が見られます。



問10 公共施設の更新問題に対し、秦野市ではできる限り機能を維持する方策を講じながら、優先順位を付けたうえで公共施設の廃止又は縮小を進めることとしています。不特定の市民が利用できる公共施設の機能のうち、あなたが廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能を3つ選んで順位をつけてください。

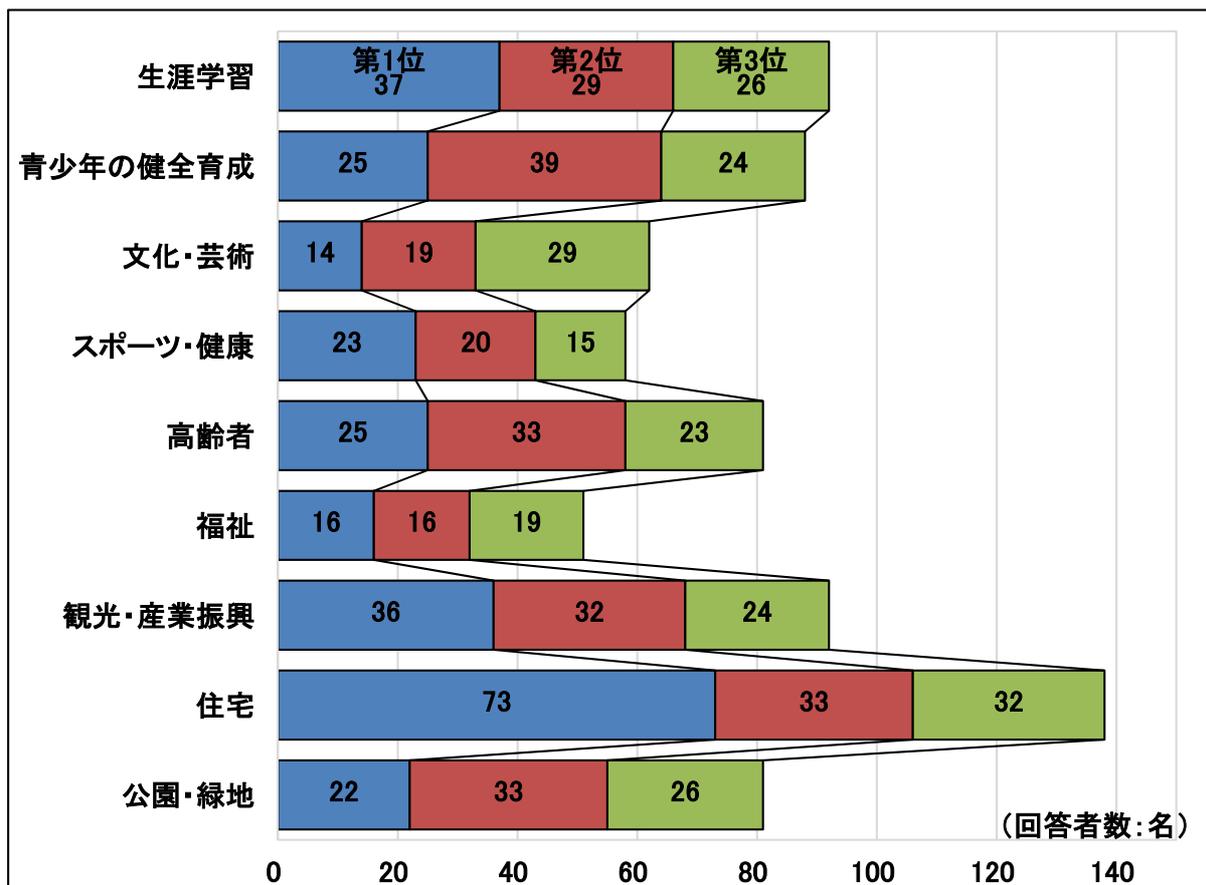
- ① 生涯学習に関する機能（各公民館）
- ② 青少年の健全育成に関する機能  
（児童館、曲松児童センター、はだのこども館、表丹沢野外活動センター）
- ③ 文化芸術に関する機能（文化会館、図書館、桜土手古墳展示館、宮永岳彦美術館）
- ④ スポーツ・健康に関する機能  
（総合体育館、カルチャーパーク、おおね公園、サンライフ鶴巻、スポーツ広場、中野健康センター）
- ⑤ 高齢者に関する機能  
（広畑ふれあいプラザ、末広ふれあいセンター、老人いこいの家）
- ⑥ 福祉に関する機能（保健福祉センター）
- ⑦ 観光・産業振興に関する機能  
（弘法の里湯、名水はだの富士見の湯、田原ふるさと公園、里山ふれあいセンター、駐車場）
- ⑧ 住宅に関する機能（公営住宅）
- ⑨ 公園・緑地に関する機能  
（公園・緑地、くずはの家、蓑毛自然観察の森及び緑水庵）
- ⑩ この中にはない

### 10-1 調査結果

前回調査から継続している質問です。

第1位と回答された割合が最も高かった機能は、「住宅に関する機能」で22.6%となっています。「この中にはない」を除くと、「生涯学習に関する機能」が11.5%、「観光・産業に関する機能」が11.1%と続いています。

機能	順位	第1位		第2位		第3位	
		回答	%	回答	%	回答	%
1	生涯学習に関する機能	37	11.5%	29	9.0%	26	8.0%
2	青少年の健全育成に関する機能	25	7.7%	39	12.1%	24	7.4%
3	文化芸術に関する機能	14	4.3%	19	5.9%	29	9.0%
4	スポーツ・健康に関する機能	23	7.1%	20	6.2%	15	4.6%
5	高齢者に関する機能	25	7.7%	33	10.2%	23	7.1%
6	福祉に関する機能	16	5.0%	16	5.0%	19	5.9%
7	観光・産業振興に関する機能	36	11.1%	32	9.9%	24	7.4%
8	住宅に関する機能	73	22.6%	33	10.2%	32	9.9%
9	公園・緑地に関する機能	22	6.8%	33	10.2%	26	8.0%
10	この中にはない	52	16.1%	69	21.4%	105	32.5%



### 10-2 得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、廃止又は縮小しても良いと考える施設の第1位は「住宅に関する機能」、第2位は「観光・産業振興に関する機能」、第3位は「生涯学習に関する機能」となりました。

#### 【算式】

各施設の得点 = 第1位回答数 × 3点 + 第2位回答数 × 2点 + 第3位回答数 × 1点

「第1位」と回答した割合の上位3機能が、得点化の集計においても上位を占める結果となっています。

順位	施設名	得点
1	住宅に関する機能	317
2	観光・産業振興に関する機能	196
3	生涯学習に関する機能	195
4	青少年の健全育成に関する機能	177
5	高齢者に関する機能	164
6	公園・緑地に関する機能	158
7	スポーツ・健康に関する機能	124
8	文化・芸術に関する機能	109
9	福祉に関する機能	99

【集計結果内訳】

機能	第1位	第2位	第3位	得点	順位
生涯学習に関する機能	111	58	26	195	3
青少年の健全育成に関する機能	75	78	24	177	4
文化・芸術に関する機能	42	38	29	109	8
スポーツ・健康に関する機能	69	40	15	124	7
高齢者に関する機能	75	66	23	164	5
福祉に関する機能	48	32	19	99	9
観光・産業振興に関する機能	108	64	24	196	2
住宅に関する機能	219	66	32	317	1
公園・緑地に関する機能	66	66	26	158	6
この中にはない	156	138	105	—	—

10-3 性別及び年代別の比較

点数化による上位3機能を見ると、「住宅に関する機能」は、20代男性及び40代女性以外で第1位で、「生涯学習に関する機能」や「公園・緑地に関する機能」は、若い世代のほうが順位が高い特徴が伺えます。逆に「青少年に関する機能」は、40代以上で順位が高くなっています。

そのほかの機能では、「高齢者に関する機能」及び「福祉に関する機能」は20代男性で順位が高くなっています。

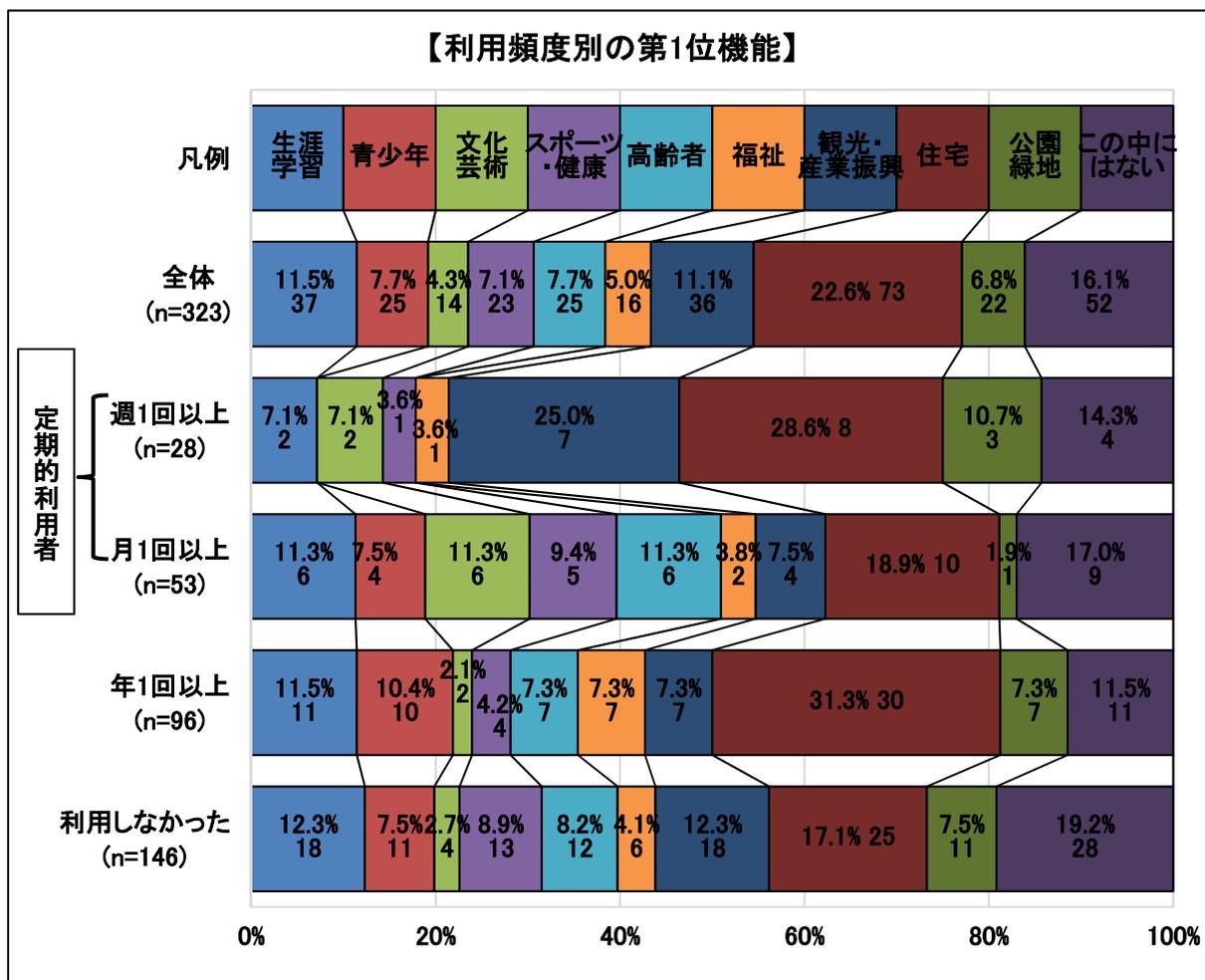
年代	性別	男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20代	1	高齢者	14	住宅	29	住宅	35
	2	公園・緑地	12	生涯学習	21	生涯学習	30
	3	生涯学習 福祉	9	観光・産業振興	18	高齢者 公園・緑地	21
30代	1	住宅	36	住宅	26	住宅	62
	2	高齢者	20	観光・産業振興	22	観光・産業振興	38
	3	観光・産業振興	16	生涯学習	17	生涯学習 高齢者	31
40代	1	住宅	28	青少年	27	青少年	52
	2	青少年	25	文化芸術	21	住宅	48
	3	生涯学習	24	住宅	20	生涯学習	42
50代	1	住宅	27	住宅	30	住宅	57
	2	生涯学習	22	青少年	28	高齢者	44
	3	高齢者	19	高齢者	25	青少年	41
60代以上	1	住宅	73	住宅	42	住宅	115
	2	観光・産業振興	53	観光・産業振興	23	観光・産業振興	76
	3	生涯学習	46	高齢者	20	生涯学習	57
合計	1	住宅	170	住宅	147	住宅	317
	2	生涯学習	115	観光・産業振興	94	観光・産業振興	196
	3	観光・産業振興	102	青少年	88	生涯学習	195

#### 10-4 公共施設の利用頻度との関係

公共施設の利用頻度別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位と回答した機能を集計しました。

定期的利用者では、利用頻度の低い人に比べて、文化・芸術に関する機能、観光・産業振興に関する機能を第1位とした割合が高く、利用頻度の低い人では、定期的利用者に比べて、青少年に関する機能を第1位と回答した人の割合が高くなっています。

その他の機能については、公共施設の利用頻度と「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の回答に、一定の傾向や関係性は見られませんでした。

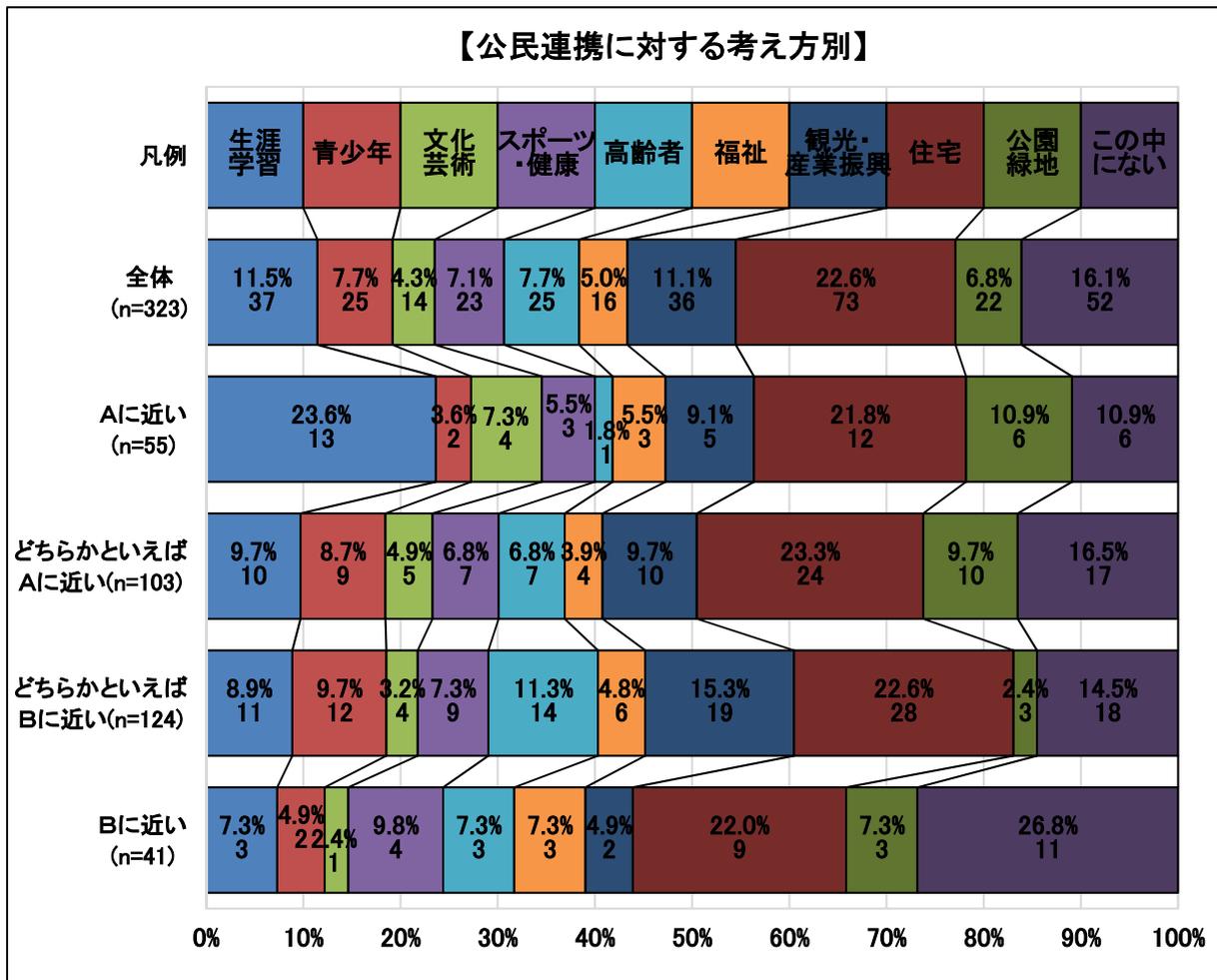


### 10-5 公民連携の推進に対する考え方との関係

公民連携の推進に対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位と回答した機能を集計しました。

公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人では、そうではない人と比べて、生涯学習に関する機能、文化・芸術に関する機能、公園・緑地に関する機能を第1位と回答した割合が高くなっています。

また、「Aに近い」と回答した人では、生涯学習に関する機能を第1位と回答した割合が特に高くなっています。生涯学習に関する機能を廃止・縮小する際には、公民連携の推進の視点から検討することで、市民の理解が得やすいことを示していると考えられます。



### 10-6 使用料見直しに対する考え方との関係

使用料見直しに対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の機能を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人では、そうではない人に比べて、青少年に関する機能を第1位と回答した割合が高く、利用対象者がある程度限定的な機能の廃止・縮小に積極的な傾向が伺えます。

その他の機能については、使用料見直しに対する考え方と「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の回答に、一定の傾向や関係性は見られませんでした。

